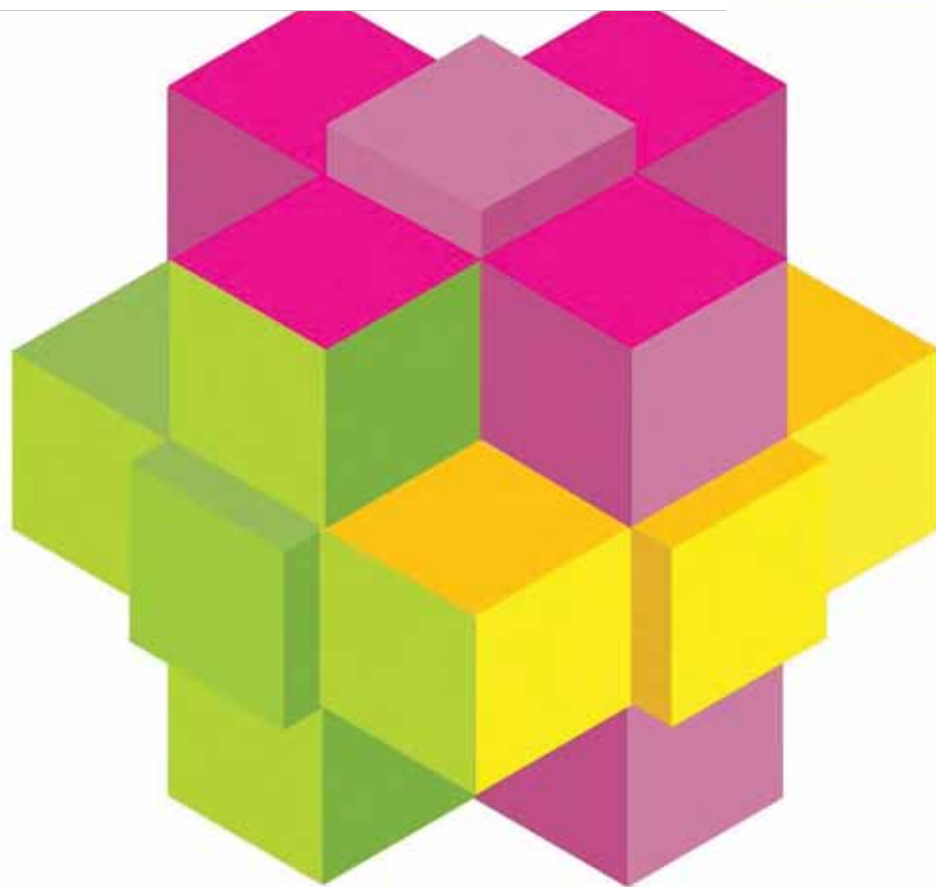




エルサルバドル政府

教育省

# 算数 2



## 第1卷

教師用指導書  
第二版





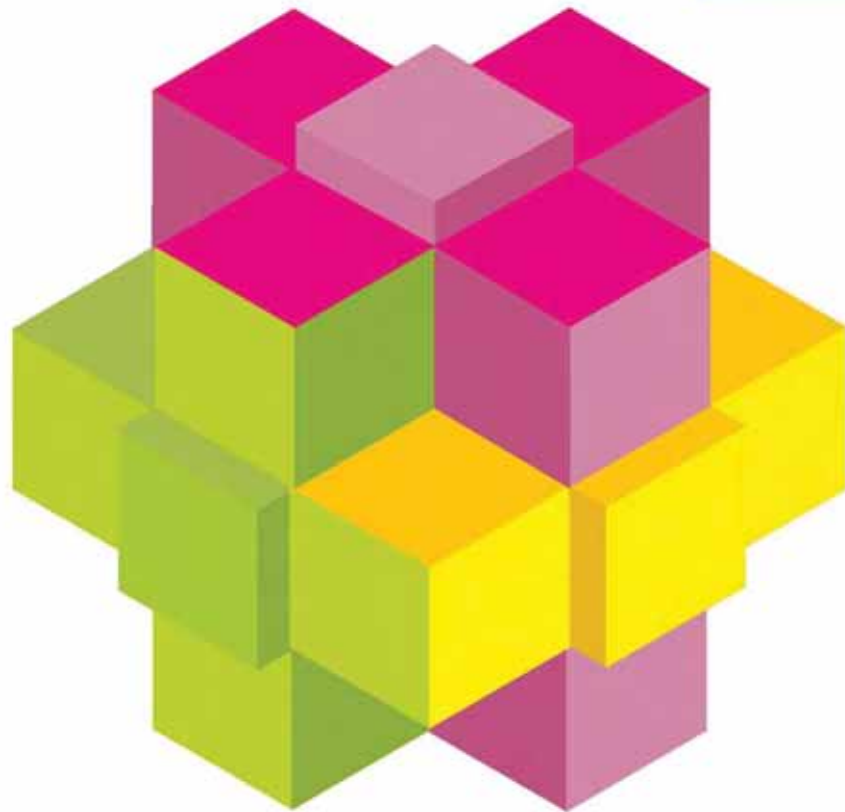


エルサルバドル政府

教育省

# 算数

# 2



## 第1巻

教師用指導書  
第二版



---

Carla Evelyn Hananía de Varela  
教育科学技術大臣

Ricardo Cardona Alvarenga  
教育副大臣

Wilfredo Alexander Granados Paz  
中等（第3サイクルおよび中等）教育局長  
名誉代理

Janet Lorena Serrano de López  
基礎教育局長  
名誉代理

Santiago Alfredo Flores Amaya  
予防社会プログラム局長  
名誉代理

Gorka Iren Garate Bayo  
科学技術イノベーション教育局長  
名誉代理

Roberto Alejandro Rivera Campos  
科学技術イノベーション教育課長

---

Félix Abraham Guevara Menjívar  
科学技術イノベーション教育部長（数学）

Gustavo Antonio Cerros Urrutia  
中等教育カリキュラム専門家部長

---

#### 教育省執筆専門チーム

##### 第一版

Wendy Stefanía Rodríguez Argueta  
Doris Cecibel Ochoa Peña

##### 第二版

Wendy Stefanía Rodríguez Argueta  
Diana Marcela Herrera Polanco  
Salvador Enrique Rodríguez Hernández  
Ana Ester Argueta Aranda  
Ruth Abigail Melara Viera  
Vitelio Alexander Sola Gutiérrez  
Francisco Antonio Mejía Ramos

#### レイアウトチーム

Laura Guadalupe Pérez  
Judith Samanta Romero de Ciudad Real  
Francisco René Burgos Álvarez

#### 文体修正

Ana Esmeralda Quijada Cárdenas

国際協力機構（JICA）を通じた日本の技術協力

---

第一版©2018

第二版©2019

著作権所有MINEDUCYTの許可なく商用目的の  
販売、複製を行うことは、いかなる方法であっても  
禁止します。

表紙には教育的観点から立方体の図を用いています。この図は、  
主な計算方法である加法、減法、乗法の記号を表わしており、さら  
に、立方体や、様々な直方体を表現しています。

372.704 5

M425 算数2 [電子資料] : 第1巻、教師用指導書 /

Wendy Stefanía Rodríguez Argueta, Diana Marcela Herrera Polanco,  
Salvador Enrique Rodríguez Hernández, Ana Ester Argueta Aranda, Ruth Abigail  
Melara Viera, Vitelio Alexander Sola Gutiérrez, Francisco Antonio Mejía Ramos.  
-- 第2版 -- サンサルバドル、エルサルバドル : 教育省 (MINED)、2019年。  
電子資料1件、(288ページ : 図解入り、28 cm) -- (Esmate)

電子データ (1ファイル : pdf、14.3 MB) 。 --

[www.mined.gob.sv/index.php/esmate](http://www.mined.gob.sv/index.php/esmate).

372.704 5

M425 算数2 [電子資料] : 2019年 (票2)

ISBN 978-99961-344-9-4 (電子書籍)

1. 算数 - 教科書。2. 算数 - 練習、問題、など。3. 初等教育 - 教科書。

I. Rodríguez Argueta, Wendy Stefanía, 共著。II タイトル

教師のみなさん

心からご挨拶を申し上げ、エルサルバドルの全国民のために重要な仕事をされていることに感謝します。

教育科学技術省（MINEDUCYT）は初中等教育算数・数学指導力向上プロジェクト（ESMATE）を通じて、みなさんのために算数・数学科目の教師用指導書を作成しました。この指導書は日常の指導活動で重要なツールとなるでしょう。

この資料は、当科目の授業を展開する方法を具体的に指導し、その結果エルサルバドルの生徒たちの学びを大きく向上させることを主な目的としています。

強調すべきは、この教師用指導書は生徒向けに作成された教科書と練習帳で提案されている授業に対応している点です。これにより算数・数学学習プログラムで定められた計画が具現化されます。

みなさんがこの資料を最大限に活用し、私たちの愛する国の発展に貢献し続けるべく、全力で努力し献身されると確信しています。

敬具

Carla Evelyn Hananía de Varela  
教育科学技術大臣

Ricardo Cardona Alvarenga  
教育科学技術副大臣

---

# 目次

I. はじめに .....	5
II. 学習戦略 .....	6
III. 教科書の構成 .....	8
IV. 教師用指導書の構成 .....	12
V. 授業実施のためのアドバイス .....	15
VI. 年次計画 .....	17

## ユニット1

1,000までの数を理解しましょう .....	19
レッスン1：200までの数を理解しましょう .....	25
レッスン2：3桁の数と千の単位について 学習しましょう .....	37
レッスン3：たし算とひき算の準備をしましょう .....	52
レッスン4：3桁の数で数直線を使ってみましょう .....	68
レッスン5：3桁の数を比べ、より大きな序数を 理解しましょう .....	77
ユニット1のテスト .....	88

## ユニット2

たし算をさらに学習しましょう .....	93
レッスン1：たし算のやり方を思い出しましょう .....	98
レッスン2：繰り上がりのある2桁までの数の たし算をしましょう .....	104
レッスン3：たし算の性質を確認しましょう .....	119
レッスン4：繰り上がりのある、または繰り上がり のない3桁までの数のたし算をしましょう .....	124
ユニット2のテスト .....	148

## ユニット3

平面図形と立体図形を理解しましょう ...	153
レッスン1：平面図形について学習しましょう .....	157
レッスン2：立体図形を理解しましょう .....	168
ユニット3のテスト .....	177
1学期末テスト .....	181

## ユニット4

ひき算をさらに学習しましょう .....	185
レッスン1：ひき算のやり方を思い出しましょう .....	190
レッスン2：繰り下がりのある2桁までの数の ひき算をしましょう .....	196
レッスン3：繰り下がりなし・繰り下がり1回の 3桁までの数のひき算をしましょう .....	209
レッスン4：繰り下がり2回または3回の 3桁までの数のひき算をしましょう .....	233
レッスン5：テープの図と関連づけながら たし算とひき算をやってみましょう .....	248
ユニット4のテスト .....	256

## 付録 .....

結果の分析 .....	261
年間学習量 .....	262
年間学習量 .....	263

## 切り取り教材 .....

切り取り教材 .....	269
--------------	-----

# 1. はじめに

教育は国の発展の原動力であり、効果的かつ効率的に現在および未来の社会に参加できるよう、国民を育成する役割を担っています。社会の変化と技術の進歩に直面し、しっかりと根拠に基づく判断を行うために数学的、科学的知識を身に付けることがますます重要になっています。

算数・数学科目では、解答を得るために子供たちが一連の頭脳的能力と処理能力を発達させ、その能力を使用することが期待されます。彼らが情報を調査して解釈し、それを応用し、問題のある状況を解決するために断固とした行動をとることを狙いとしています。

この教師用指導書（GM）は、教育省が実施した初中等教育算数・数学指導力向上プロジェクト（ESMATE）の枠組みの中で作成された教材の一部です。教科書にある授業の各回を進めるにあたって教室で指導する教員を支援し、これによって能動的な学習を実現させます。

この教師用指導書のねらいは以下の通りです。

- ① 達成の目安および内容に関する教育的提案に基づき、授業計画を導くこと。
- ② 生徒が内容をより良く理解するのに役立つような具体的かつ適切な指導案を提示すること。
- ③ 継続的な教師育成の一環として、その専門能力の開発に寄与すること。

この教師用指導書を用いることで、各教師は内容を指導するために提案された手法を知り、効果的かつ効率的に達成の目安に到達することができます。その結果、教科書（LT）を最大限に活用することができます。本書には、生徒向けに作成された教材であり、教室および自宅で行うための教科書が付属しています。

指導書を柔軟で改善可能な提案として捉えるべきです。つまり、教師は子どもたちの学習を支えるために必要と思われる調整を、一人一人の必要性に応じて行なうことができます。

指導書は各教育機関が所有するものです。そのため、各自で管理を行い、学年が終わったら返却してください。

## II. ESMATEの学習戦略

算数・数学の学習は、推理、論理的思考、批判的思考、根拠に基づいた主張など、日常生活で用いられる能力の発達における重要な柱となります。これにより、国民が身の回りの問題を効率的に解決できるようになります。

ここで提案する戦略は、算数・数学の学習において優れた成果を得ることを目指しています。良質な学習教材、能動的学習の時間、学習プロセスにおける支援、という3つの重要な要素を含めることを考慮した効果的なプロセスを保証します。

### 学習を向上させるための技術戦略



この戦略は、継続的な共同作業および個別の振り返りを通じた生徒の学習に重点を置いています。生徒たちが情報を調査、分析、総括する能力を向上させ、問題解決への積極的な参加を促進します。

### 良質な教材

#### 教科書

生徒が使用するために、それぞれの授業で学ぶ内容が示されています。以下のような特徴があります。

- さまざまな内容が適切な学習順序で掲載されている。
- 授業ごとの達成の目安。
- 最初の設問が達成の目安に対応している。
- 基本的に、各授業の内容は1つのページに収められている。
- 生徒が教科書で直接問題を解くための専用欄
- 生徒たちが授業で学んだ内容を練習できるよう教室以外で解くための練習問題この一連の練習問題は、「家で解いてみよう」というセクションに提示されています。



## 能動的な学習

能動的な学習は、生徒たちの学習における知的構造に変化をもたらします。これは、授業の中で提示される様々な状況や情報の分析、理解、処理、吸収によって生じます。その結果、生徒は授業を聞いてメモを取り、時々質問をするだけの受動的な態度ではなくなります。

能動的な学習は以下のような活動で実現できます。

- ① 教科書の練習問題を1人で解き、分析する（個人学習）。
- ② 二人一組になって解答を交換する、またはその相手や他のクラスメートに説明をする（相互学習）。

まず個人学習を行い、その後で相互学習を行うことを推奨します。戦略の基本的な側面であるこの点については、各授業の中で教科書（LT）を用いた能動的学習を少なくとも20分確保し、自宅で「家で解いてみよう」のセクションを用いたさらに20分の学習時間を確保することを想定しています。さらに、各教育機関の実情に応じたカリキュラム量とするため、当戦略では160授業時数（学年度の総授業時数は200）で実際の授業を行うことを提案しています。つまり、教科書は年間160授業時数分に合わせて作成されており、残りの40授業時数を活用して評価、補習、補講などの学習活動を実施することが期待されます。

## 学習プロセスにおける支援

生徒の学習向上においては、教師の役割が非常に重要です。そのため、教師が生徒に支援を行う必要があります。つまり、**学習プロセスにおける橋渡し役**となり、提起された状況に対する解法を探す手順を導き、知識を発展させるための助言をし、生徒が自分自身の学習における中心的主体となる余地を与えることが必要です。

このような観点から、強調すべき点は教師による自己評価です。実施された指導プロセスに基づくのではなく、生徒たちの学習を通して明らかになった結果に応じて、これを行います。

学習プロセスにおける支援は、以下のような活動で実現できます。

- 簡潔に指示を行う（ペアやグループでの学習を指示する）。
- 生徒の能動的学習の時間を確保する。
- 学習プロセスを観察し、指導する。
- 提示される様々な状況を生徒が自分の力で解決するよう、意欲を起こさせる。
- 生徒に、自己添削の習慣を身に付けさせる。

# III. 教科書の構成

## 教科書内の1授業の構成要素

レッスン番号を表示します。

授業番号を表示します。

生徒は問題の解法を考えます。その解法が学習する内容の導入となります。

授業の第2ステップでは、提示された問題に対する1つまたは複数の解法が教科書の中で提案されます。

学習内容を定着させます。ここで最初の問題と解法が関連づけられ、数学用語を用いてその授業の意図が説明されます。

生徒が学んだことを練習するための設問が提示されます。

生徒が自宅学習できるように問題を出しています。

父親、母親または家族が、宿題が完了したことを確認した証明としてサインをするための欄。

授業に対応するユニットを表示します。

## 特別セクション

### 復習しよう

前のユニットまたは前の学年の「考えてみよう」に関連した内容です。

### ★挑戦しよう

授業で扱った内容を創造力をもって応用させて解く、数学的な挑戦問題です。各生徒が時間と達成状況に応じて任意で取り組むセクションです。

### どうなるでしょうか。

「考えてみよう」セクションに関連する問題が形を変えたものです。全く異なる問題や、難易度が高い問題もあります。



終わったら... このセクションでは基礎的な計算に関する練習問題を提示します。これは、授業が45分よりも前に終わった時に解くことをねらいとしています。

## 学んだことをやってみましょう

この授業には2つの役割があります。

1. 定着：1つの課やユニットの授業に対応する設問で、学習内容を定着させ生徒たちが苦勞する部分を突き止める目的があります。課またはユニットの最後に用意されています。
2. 新しい内容の準備として、前のユニットまたは前の学年に相当する設問です。通常、課またはユニットの冒頭に用意されています。

### 仲間たち

この子どもたちが、「考えてみよう」のセクションに提示された問題に対する解法を紹介します。生徒たちがこの仲間たちと一緒に考え、解答することを目的としています。



ホセ カarlos アントニオ マリオ

さらに、エルサルバドルの動物を代表する4匹のキャラクターがおり、出された問題を解くためのヒント、助言、追加情報を与えます。



フリア カルメン アナ ベアトリス



### 書き込み式教科書

教科書には、生徒たちが解法を完成させたり、問題を解くプロセスや解答を記入したりするための空欄があります。場所によっては、教科書の通常の文字より大きな灰色の文字が表示されています。これは、生徒がなぞる必要があることを示しています。

百	十	一
1	4	2

答え：142になります。

### 切り取り教材

各生徒が持っている教科書の巻末には、一連の切り取り教材があります。一部の授業で示される教材に応じて使用します。その授業が行われる時には、生徒たちはこれらの教材を用意しておくようにします。教科書のどのページを切り取るべきかというメッセージが表示されています。

教科書の157ページと159ページにある数字カードを切り取りましょう。

これについては、1学年の間に使用する機会が何度もあるため、自分の教材に責任を持ち、きちんと手入れするよう繰り返し教えることが重要です。父親、母親、または家族の支援が必要です。この件について知らせるために、彼らと話をすることを推奨します。

教材は使う度に切り取っていき、一度に全部切り取らないことをお勧めします。さらに、パーツを紛失しないように各生徒が封筒に入れて学校で保管することで、使用するとき確実に利用可能となります。

教師が授業で使用できるように、教師用指導書の中にも一連の切り取り教材があります。その教材は生徒用のものより大きいサイズです。教室の前で使用するため、全ての生徒が見やすいことを考慮しています。これらの教材を使用する場合には、切り取るための指示が各ユニットの導入ページに明記されています。

## 学習ステップ

上記の戦略においては生徒が学習プロセスの中心主体となり、学習のために提示された状況や問題のある状況に基づいて知識を組立て、手順を考えます。

したがって、教師の主な役割は生徒たちの学習プロセスにおける橋渡し役または補佐役であり、「考えてみよう」と「解いてみよう」のセクションの間で少なくとも20分の能動的学習の時間を確保します。

続いて、教師が実践できる学習支援のプロセスを紹介します。

生徒	教師
----	----

### ① 考えてみよう（3分から7分）

授業展開の基礎となるメインの問題です。

<ul style="list-style-type: none"> <li>- 提示される問題を読み、分析します。</li> <li>- 理解できたら、解答するために必要な情報を取り出します。</li> <li>- 解き方を練ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 教科書の最初の問題を読むよう生徒に指導し、この問題に対する理解度を確認します。</li> <li>- 「考えてみよう」で提示される問題の要約を黒板に書きます。</li> <li>- 1人で問題を解くよう指示します。</li> </ul>
---	---

### ② 答えてみよう（3分から15分）

「考えてみよう」の問題の解法です。

<ul style="list-style-type: none"> <li>- 練り上げた解き方を使って、1人で問題を解きます。</li> <li>- 他の生徒や教科書の解答と比べます。</li> <li>- クラス全体に対して、またはグループで解答を発表します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 生徒が解答に苦労した部分を取り上げ、補強します。</li> <li>- グループの理解度を見極めた後、必要であればクラス全体に説明をします。</li> </ul>
--	--

### ③ 理解しよう（3分から5分）

授業で最も重要な点をまとめます。

<ul style="list-style-type: none"> <li>- 読んでから、重要な情報に下線を引きます。</li> <li>- 新しい概念を識別します。</li> <li>- 可能であれば、授業で扱った内容と結びつけます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 「理解しよう」で特に重要なポイントを強調し、解答のステップに関連付けます。</li> </ul>
---	---

### ④ 解いてみよう（15分から20分）

授業中に解く設問です。

<ul style="list-style-type: none"> <li>- 授業で扱った内容を使って、少なくとも最初の設問は解きましょう。「理解しよう」を見ても構いません。</li> <li>- クラス全体に共有された解答を見て、自分の解答を確認します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 解答の過程を補助します。</li> <li>- 苦労している場合は指導します。</li> <li>- 各設問の解答が定着するよう導きます。</li> <li>- 宿題を指定します。</li> </ul>
---	--

### ⑤ 家で解いてみよう（20分）

自宅で解く練習問題です。

<ul style="list-style-type: none"> <li>- 提示された練習問題を解きます。</li> <li>- 教師が <b>X</b> マークを付けた練習問題を再度解きます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 定期的に宿題を確認し、正解には <b>✓</b> マーク、不正解には <b>X</b> マークを付けます。</li> </ul>
---	---

1. 十の位の値を確認して、ひき算をしましょう。

2. 十の位の値を確認して、ひき算をしましょう。

3. かごに110個のマングローが入っており、50個売れました。かごの中にマングローはいくつ残っていますか。

## 複数の学年に対応するための教科書の使用例

時間	第4学年	第5学年	第6学年
0分から15分	「考えてみよう」の指示を出します。 	生徒同士で宿題を確認し、間違えた問題を再度解きます。	生徒同士で宿題を確認し、間違えた問題を再度解きます。
	生徒は「考えてみよう」を1人で解いてみます。	「考えてみよう」の指示を出します。 	生徒は「考えてみよう」を1人で解いてみます。 
		生徒は「考えてみよう」を1人で解いてみます。	「考えてみよう」の解答に関する疑問を解消します。 
15分から30分	解答と「理解しよう」を説明します。 	解答と「理解しよう」を説明します。 	生徒は「考えてみよう」を1人で解いてみます。
	生徒たちは「解いてみよう」に取り組みます。	生徒たちは「解いてみよう」に取り組みます。	解答と「理解しよう」を説明します。 
			生徒たちは「解いてみよう」に取り組みます。
30分から45分	正解を確認します。 	正解を確認します。 	生徒たちは「解いてみよう」に取り組みます。
	生徒たちは間違えた問題を再度解きます。	生徒たちは間違えた問題を再度解きます。	
	生徒同士で宿題を確認し、間違えた問題を再度解きます。	生徒たちは間違えた問題を再度解きます。	正解を確認します。 

### 複数学年に対応する際に考慮すべき点

- 教師が1人の場合、初任者研修生、大学生による社会奉仕、保護者等の取り組みを活用します。
- 第1学年と第2学年の場合、一人一人により配慮する必要があるため、合同授業は推奨しません。
- ある学年の算数の授業と別の学年の別の科目の授業を合同で行うなど、内容に応じて柔軟に時間割を組みます。
- 先に終わった生徒たちによる協力。他のクラスメートを手助けします。
- 指導書の解答を活用し、生徒と一緒に正解を確認します。
- 教師の指導に先立って授業の問題を分析して解いてみる等の学習習慣を身に付けます。

# IV. 教師用指導書の構成

指導書の各ユニットは以下の項目で構成されます。

- **このユニットのねらい**：そのユニットを終えるまでに生徒たちが習得すべき能力を説明しています。
- **学習の流れと範囲**：前の学年と次の学年で学習する内容との関連性を示します。
- **このユニットの構成**：各課や授業の内容の配分を表します。
- **各レッスンの要点**：その課の内容を要約し、要点を強調します。
- **授業の進め方の提案**：達成の目安、授業のねらいとその重要なポイントを示します。場合によっては、教室で実践する指導法を提案します。さらに、板書計画が提示されます。
- **ユニットテスト**：ここで出される設問は、ユニットの主要な達成の目安に基づいています。

教科書のページ

レッスン番号。この記載は、各課の最初の授業にのみ表示されます。

授業の達成の目安。授業番号に対応しています。

授業のねらい。

教科書の問題の解答。

黒板に書くべき内容および授業内容の配分を提案します。

授業によっては、指導案や教材といった別の欄があります。

## 授業の準備

指導書では、教室で毎回の授業を進める上で必要となるツールや資料が提供されています。そのため、他の計画（授業の台本や指導計画書）を作成する必要はありません。

授業を実施するために以下のステップを踏むことを推奨します。

- 該当する課に事前に目を通しておき、内容量と各授業の要点を把握します。
- 各授業で提起される問題を分析し、全ての問題を解いて、生徒が苦勞する可能性のある部分を把握します。
- 生徒の個人学習の助けとなる質問をいくつか考えます。
- 各セクションに充てる時間を決めます。
- 「板書計画」を確認し、教科書のセクションと一致していることを確かめます。
- 必要に応じて学習教材を作成します。

授業時間中（45分）、黒板は教師と生徒が共有するノートとして、非常に重要な役割を果たします。黒板には授業での学習プロセスを整理して書きます。「板書計画」は授業が進むにつれ完成していきます。本指導書では、算数の学習プロセスに応じて以下の構成で黒板を使用することを提案します。

日付：20xx年xxx月xx日

授業:XX

Re 復習しよう  
教科書に掲載されている場合。

A 考えてみよう

S 解いてみよう

Q どうなるでしょうか？  
教科書に掲載されている場合。

R 解いてみよう

Re 最初の設問の解き方を書きます。

A 「考えてみよう」の要約を書きます。

S 生徒の解法。 教科書の解法。

Q 「考えてみよう」に記載されている問題の形を変えた問題。

R 各設問の解法を書きます。  
少なくとも最初の設問については書きます。

宿題：xxページ

「復習しよう」と「どうなるでしょうか？」のセクションは、授業における必要性や視点に応じて一部の授業に登場します。「理解しよう」のセクションは板書計画には含まれていないことに注意してください。そのため、このセクションは読み上げるだけで、生徒たちは必要な時はいつでも教科書で確認することができます。

⑩の部分には、最初の設問の完全な解法を書くことを推奨します。これは生徒が書いても構いません。また、生徒たちが設問の解答を確認できるよう、「解いてみよう」の問題の解答を書くことを勧めます。

## ユニットテスト、学期末・学年末のテスト

この教師用指導書には3種類のテストが盛り込まれています。その目的は、生徒たちの学習プロセスの再調整に向けた判断を行うために必要な情報を得ることです。

<b>ユニットテスト：</b>	期待される能力に到達するように、ここで出される設問はユニットの主要な達成の目安に基づいています。
<b>学期末のテスト：</b>	学期中に扱った各ユニットの学習内容の主要な達成の目安に対応します。
<b>学年末テスト：</b>	各設問は、その学年で習得する能力に応じた主要な達成の目安に関連づけられています。

これらのテストの設問は、教科書で扱われる問題と似た文章問題です。知識（Co）、応用（Ap）、思考（Ra）の3つの認知レベルに対応しています。ユニットテストには10の設問があり、学期末および学年末のテストには10～15の設問があります。1授業時数内でテストを実施するよう想定されていますが、これはテストの設問数と評価内容の複雑さによって変わります。

テストは改善すべき内容を生徒が把握できるように作成されています。そのため、テストの各設問には対応する授業と課が記載されており、生徒はつまづいた内容の問題を練習できます。各ユニット、学期、学年が終わる時に該当するテストを実施することを推奨します。

さらに、各テストの結果に基づいて、教師は自身による指導を自己評価することができます。そして、教室での指導を改善してフィードバックする計画を立てるために、対策を講じることができます。

### 評価方法

以下の基準に基づき、評価の段階は完答点、部分点、0とします。

- 完答点：全てのプロセスを正しい方法で行い、正しく答えを出した場合。テストの設問が10問以上ある場合は、各設問の配点は10をテストの総設問数で割って算出します。
- 部分点：プロセスの一部が正しく行われた場合。この場合、各問題の配点の半分か付与されます。
- 0：問題の解答が書かれていない、または書かれたプロセスが正しくない場合。



# V. 授業実施のためのアドバイス

算数・数学学習プログラムでは、**1授業時数の時間は45分間**、1年間の授業時数は**200授業時数**と定めています。1回の授業を45分間で実施するのは簡単なことではありません。そのため、以下のアドバイスを提供します。

## 教師の机と生徒の机の並べ方

授業のねらいによって、配置は変えることができますが、以下の理由から、算数・数学の授業では横並びにして、全員が黒板を見られる状態が推奨されます。

- ① 教師が生徒の間を移動し、作業を確認できます。
- ② クラスメイト同士の相互学習を促進します。
- ③ 生徒が黒板を見やすい姿勢になります。

## 授業開始のためのガイドラインを決める

教室での既存の行動ルールに加えて、各授業の開始にあたって必要となる教科書、メモ用ノート、鉛筆、消しゴムなどの教材を生徒が事前に用意しておくことが重要です。

## 振り返りと復習のための時間（復習しよう）

振り返りの部分で問題点が見つかり、事前知識を確保するためにさらに時間が必要な場合、教科書を学習するための160授業時数の余った時数をこれに充て、内容を強化する必要があります。

## 最初の問題を一人で解く時間（考えてみよう）

生徒たちに最初の問題を解くための助言やヒントを与えても何をしたらよいのか分からず、他の生徒の解答を待つ時間を過ごし、解答を写すだけということがよくあります。そのような場合には、相互学習をする方向に支援を切り替え、クラスメイトに相談したり二人一組で問題を解かせたりする方が良いでしょう。

## 難易度に応じた支援

問題を解いている間、解くのに苦労している一人の生徒の指導に教師が集中し、同じように疑問を抱える他の生徒たちを適切に指導する時間がなくなることが時々あります。そのため、問題点とその頻度を把握することができる事前評価を実施する必要があります。これにより、困難を抱える生徒が5人以下であれば個別の指導を行い、そうでない場合には都合に応じてグループごと、またはクラス全体に説明をすることができます。

## 早く終えた生徒による協力

通常、1教室の中でばらつきがあるため、常に個人差、特に問題を解く能力に差が見られます。その点を考慮し、教師は能力の高い生徒に協力を求めることができます。そうすれば、躓いている生徒は適切な指導を受けることができ、教える生徒はクラスメートに説明することで、授業で学んだ内容を自分のものとして身につけることができます。さらに、教師は内容の定着のために別の問題を用意したり、先に終わった生徒が能力を伸ばすことができるよう、挑戦問題を用意することもできます。

## 正解した練習問題の確認

生徒たちに自己添削や間違えた問題を再度解く習慣を身に付けさせることも選択肢の1つです。正しい解答を口頭、または黒板上で確認することで、そのような習慣を定着させることができます。クラスメート同士でノートを交換し、お互いに添削させても構いません。

問題の添削方法を統一するために、以下の方法を推奨します。

- 解答が正しければ、**✓** マークを付けます。
- 解答が間違っていれば、**✗** マークを付け、間違いを残した状態で再度その問題を解きます。

## 授業の内容を終わらせるのに十分な時間がない場合

時間不足によって解けない問題が残った場合、それらの練習問題を解かずに取っておきテスト前の補強として利用するか、または教育機関で所定外の時間（40時間の一部）がある時に利用するかを教師が決めることができます。授業計画にずれが生じるため、次の授業でその練習問題を解くことは推奨されません。

## 授業が45分かからず終わった時には

授業が45分かからず終わることもあるでしょう。その場合は残りの時間を活用して、以下のような活動を行うことができます。

- 「家で解いてみよう」に取り組む。
- 宿題の答えをクラス全体で確認する。
- 基本的な計算、つまり足し算、引き算、かけ算の九九などの復習をします。
- 前の授業で終わらなかった、「解いてみよう」セクションの問題に取り組む。
- 生徒たちが躓いている内容を補強する。

# VI. 年次計画

学期	月	ユニット（授業の時限数）	レッスン
第1学期	1月	ユニット1：1,000までの数を理解しましょう（27）	<ul style="list-style-type: none"> <li>200までの数を理解しましょう</li> <li>3桁の数と千の単位について学習しましょう</li> <li>たし算とひき算の準備をしましょう</li> <li>3桁の数で数直線を使ってみましょう</li> <li>3桁の数を比べ、より大きな序数を理解しましょう</li> </ul>
	2月		
	3月	ユニット2：たし算をさらに学習しましょう（20）	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算のやり方を思い出しましょう</li> <li>繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう</li> <li>たし算の性質を確認しましょう</li> <li>繰り上がりのある、または繰り上がりのない3桁までの数のたし算をしましょう</li> </ul>
	4月	ユニット3：平面図形と立体図形を理解しましょう（8）	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形について学習しましょう</li> <li>立体図形を理解しましょう</li> </ul>
<b>第1学期終了</b>			
第2学期	5月	ユニット4：ひき算をさらに学習しましょう（26）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひき算のやり方を思い出しましょう</li> <li>繰り下がりのある2桁までの数のひき算をしましょう</li> <li>繰り下がりなし・繰り下がり1回の3桁までの数のひき算をしましょう</li> <li>繰り下がり2回または3回の3桁までの数のひき算をしましょう</li> <li>テープの図と関連づけながらたし算とひき算をやってみましょう</li> </ul>
	6月	ユニット5：かけ算を始めましょう（18）	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算を理解しましょう</li> <li>2、3、4、5の段の九九を理解しましょう</li> </ul>
	7月	ユニット6：長さについて考えてみよう（9）	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの単位について考えてみよう</li> <li>長さのたし算やひき算をやってみよう</li> </ul>
<b>第2学期終了</b>			

第3学期	8月	ユニット7：かけ算を続けましょう (26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1、6、7、8、9、10の段の九九を理解しましょう</li> <li>• かけ算を使いましょう</li> </ul>
	9月	ユニット8：重さとかさを理解しよう (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ものの重さを比べましょう</li> <li>• 容器のかさを比べましょう</li> </ul>
	10月	ユニット9：算数の応用 (20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間の測り方を理解しましょう</li> <li>• データを整理してみましょう</li> <li>• お札を理解しましょう</li> <li>• 計算の練習をしましょう</li> </ul>
<b>第3学期終了</b>			

# ユニット1

## 1,000までの数を理解しましょう

### 1 このユニットのねらい

- 数字の知識を3桁の数字と1,000まで広げ、周囲の課題を確実に理解し解決できるよう、順序関係と比較の知識を身に付けます。
- 20番目までの序数を使って、物、人、動物の位置を決めます。

### 2 学習の流れと範囲

#### 1学年

##### ユニット2：10までの数と10番目までの序数を理解しましょう

- 0から10までの数を理解しましょう
- 4から10までの数を作りましょう
- 0から10までの数を順番に並べましょう

##### ユニット4：20までの数を理解しましょう

- 11から20までの数を理解しましょう
- 数を順番に並べて数直線上に表しましょう
- とび数えをしましょう

##### ユニット6：100までの数を理解しましょう

- 99までの数を理解しましょう
- 100までの数を作りましょう
- 数を数直線上に表しましょう
- 数を比べましょう

#### 2学年

##### ユニット1：1,000までの数を理解しましょう

- 200までの数を理解しましょう
- 3桁の数字と千の単位について学びましょう
- たし算とひき算の準備をしましょう
- 3桁の数で数直線を使ってみましょう
- 3桁の数を比べ、より大きな序数を理解しましょう

#### 3学年

##### ユニット1：10,000までの数

- 10,000までの数
- 4桁の数の分解
- 4桁の数の比較
- 4桁の数の概算

### 3 このユニットの構成

レッスン	授業	タイトル
<b>1</b> 200までの数を理解しましょう	1	数字の100を考えてみよう
	2	101から109までの数を作り、読みましょう
	3	110から200までの数を作り、読みましょう
	4	100から200までの数を1つずつ理解しましょう
	5	学んだことをやってみましょう
<b>2</b> 3桁の数字と千の単位について学びましょう	1	100ずつ数字を数えて、書き、読みましょう
	2	3桁の数字を書いて、読みましょう
	3	0を含む3桁の数字を書き、読みましょう
	4	3桁の数字を組み立てましょう
	5	数字の1,000を作り、読み、書きましょう
<b>3</b> たし算とひき算の準備をしましょう	1	2桁の数を作りましょう
	2	3桁の数を作りましょう
	3	数字を構成する一の位を見つけましょう
	4	数字を構成する十の位を見つけましょう
	5	十の位でたし算をしましょう
	6	十の位でひき算をしましょう
	7	百の位でたし算とひき算をしましょう

# 4

3桁の数で数直線を使ってみましょう

- 1 数直線上に数を表しましょう
- 2 引き続き数直線上に数を表しましょう
- 3 数直線上に増えていく数を表しましょう
- 4 数直線上に減っていく数を表しましょう
- 5 学んだことをやってみましょう

# 5

3桁の数を比べ、より大きな序数を理解しましょう

- 1 数直線を使って、3桁の数を比べましょう
- 2 位取り表を使って、3桁の数を比べましょう、パート1
- 3 位取り表を使って、3桁の数を比べましょう、パート2
- 4 20番目までの序数を理解して、読みましょう
- 5 学んだことをやってみましょう

- 1 ユニットテスト

授業総数

27

+ ユニットテスト

## 4 各レッスンの要点

### レッスン1

#### 200までの数を理解しましょう（全5コマ）

授業5時間分のこの課では、位取り表を使用して、3桁の数字の概念の習得を目指します。まず、生徒が第1学年で学んだ数字の100と、この学年で初めて扱われる百の位の概念を結びつけることを目指します。様々な100の表現方法、100が1個、10が10個、1が100個、を視覚化することが非常に大切です。

百の概念を習得した後、100に1を加えていくことで、101から109の数字を作ります。その後、前述の方法と同様に、100に10を加えていくことで、110から200の数字を作ります。最後に、学んだ手順を活用し、数の知識を広げるために、100から200の数字に、1つずつ取り組みます。

最初の授業から、手で扱える教材の使用を重視することが大切です。まずは、タイルを使用します。タイルは大きさによりそれぞれ一の位、十の位、百の位を表現し、数量を目で見て把握しやすいためです。その後、数字カードを使用して学習します（この課の授業2で実施します）。数字カードは大きさが同じで、タイルと異なり対応する番号が書かれており、より抽象的なためです。

### レッスン2

#### 3桁の数と千の単位について学習しましょう（全5コマ）

レッスン1の論理的な流れから続き、100のかたまりでできた数字（100、200、300など）を作り始めます。それにより、他の3桁の数字を作る手順を適用できるようになります。そのように、この課では桁の値を活用しながら3桁の数字を作ります。引き続き手で扱える教具（数字カード）を使いながらも、この段階では生徒たちは数量を数字で表すことを学びます。どこにも0がない場合と0がある場合の数字の作り方を区別することに重点を置きます。普通、0がある場合の方が、0があることが持つ意味を理解しなければならず、難しいです。生徒が10進法における桁の値の原理を念頭に置きつつ、3桁の数字の読み取りを10のかたまり（十の位）でも100のかたまり（百の位）でも理解することがねらいです。また、その知識を利用することの重要性を理解し、199より大きい数字の作り方、書き方、読み方の知識を導き出し、応用することも期待されます。課の最後に、まとめの考察として、位取り表における数字の1,000と千の単位の作り方、書き方、読み方を分析します。



## レッスン3

### たし算とひき算の準備をしましょう（全7コマ）

この課では、桁の値は9まではそのままにしておき、10に到達したら次の桁に移ることを理解するための授業を始めます。この授業では3桁の数字を作るために数字カードが非常に重要な役割を果たします。カードを使用して繰り上がりのあるたし算と繰り下がりのあるひき算への導入をするため、1のカード10枚を10のカード1枚に、10のカード10枚を100のカード1枚に、または逆に、交換します。

さらにこの課では、10のかたまりでできた数字のたし算とひき算の授業があります。演算の各項を構成する十の位を見つけ、計算問題を解きます。100のかたまりでできた数字のたし算とひき算の問題も同様の方法で解きますが、こちらでは加数を構成する百の位の値を見つけて解きます。これらの練習は、縦書きで演算式を解く準備として必要です。

## レッスン4

### 3桁の数で数直線を使ってみましょう（全5コマ）

この課では、数字の順序に関する理解を広げ、他の数字より1つ（またはそれ以上）大きい数字や小さい数字を識別します。百の位や十の位が変わる点などの、直線上の重要な点を念頭に置いた練習が組まれています。これは、生徒たちが直線上に連続した数字を表す際の助けとなります。

この課では、数字を1つずつ、昇順および降順で並べる論理的な考え方を紹介します。その後、10ずつ、または5ずつ、同じく昇順および降順で並べた目盛りを使用します。

## レッスン5

### 3桁の数を比べ、より大きな序数を理解しましょう（全5コマ）

授業5時間分のこの課では、2桁の数字を比べただけだった第1学年で学んだ知識を広げて、3桁の数字を比べます。第1学年と異なり、このユニットでは初めて、より大きい (>)、より小さい (<)、同じ (=) という記号を使用します。第1学年では言葉のみを使用して比較をしました。最初は、前の課で数直線上での3桁の数字の表現を学んだことを活かして、数直線に基づいて数字を比較します。その後、数字の桁の値を用いて比較します。位取り表を使用して数字を比較することで、全ての桁を比較しなくても、百の位から始めて、桁の数字が異なるところまで比較すればどちらの数字が大きい、または小さいかを判断できることを生徒が発見できるよう指導します。

通常、生徒たちは、より大きい (>)、より小さい (<) の記号で混乱してしまうことが多いため、特にその点に注意することを勧めます。この課ではさらに、序数の知識を20番目まで広げます。学習の中で、第1学年で学んだ10番目までの序数を基礎として用いて、数字の読み方、書き方を定めます。



# レッスン

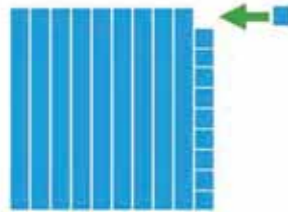
# 1

## 200までの数を理解しよう

### 1.1 数字の100を考えてみよう

#### ① 考えてみよう

99を表したタイルに1個タイルを加えたらどうなるでしょうか。



99に1を加えると100になります。また、10個の10は100個の1と同じです。



#### 答えてみよう



数字の100を表すタイルができます。

ホセ

100は 100個 の1でできています。



100

#### ② 理解しよう

100個の1は1個の100になって、**百の位**と呼びます。

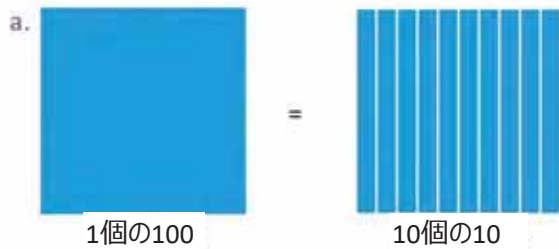
百	十	一
1	0	0

1個の100=100個の1

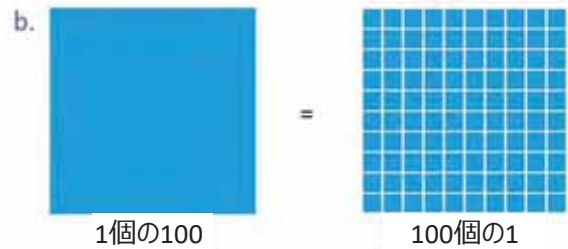
#### ③ どうなるでしょうか。

1個の100の作り方：

- a. 10を使う場合
- b. 1を使う場合



1個の100=10個の10



1個の100=100個の1

4 解いてみよう

1. 当てはまる数字を入れましょう。

a. 100個の1 = 1 個の100

b. 1個の100 = 100 個の1

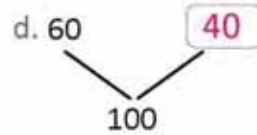
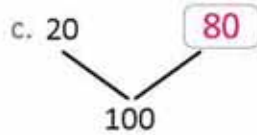
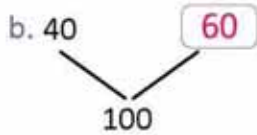
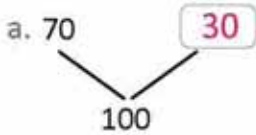
c. 1個の100 = 10 個の10

d. 10個の10 = 1 個の100

2. マルタは100冊の本を10冊ごとの包みに分けようとしています。マルタはいくつの包みを作れますか。

答え： 10 個。

3. 当てはまる数字を入れて100を作りましょう。



家で解いてみよう

1. 当てはまる数字を入れましょう。

a. 1個の100 = 100 個の1

b. 100個の1 = 1 個の100

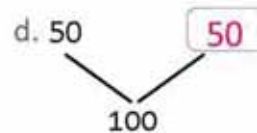
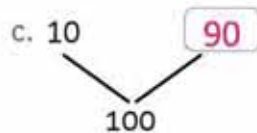
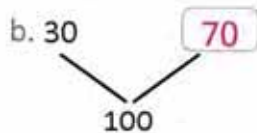
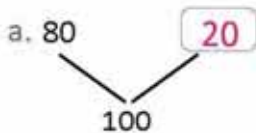
c. 10個の10 = 1 個の100

d. 1個の100 = 10 個の10

2. ホセは10枚の紙が入った包みを10個持っています。ホセが持っている紙は何枚ですか。

答え： 100 枚。

3. 当てはまる数字を入れて100を作りましょう。



教科書の157・159ページにある数字カードと153・155ページにあるタイルを、次の授業のために切り取りましょう。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

1.1 十の位および一の位の百の位に対する等値関係を書きましょう。

**ねらい：**この授業では数字の100を分析し、百の位を100個の1や10個の10で定義することを目指します。

**重要なポイント：**①では、生徒たちに第1学年で学んだ、99に1を加えると100ができることを思い出させ、数字の100は100個の1からできているという知識を定着させます。その知識を使って、百の位の定義と位取り表における百の位の位置を教えます。「考えてみよう」とその解答では、タイルを使用することを想定しています。前の学年から生徒が使用している教具であり、組み立てられる性質があることから、百の位を作り、一の位や十の位との等値関係に気付くのに適しているためです。

②では、グループで内容を読み、「百の位」の概念を、示される100個の1と結びつけながら深め、位取り表における百の位の位置を定めます。さらに、生徒たちは第1学年で10個の10は100個の1と同じことを学んでいますので、③ではその知識を応用して、1個の100は10個の10と同じことを習得することが期待されます。タイルを使用して、100のタイルには10のタイルが10個入ることを確認してみましょう。

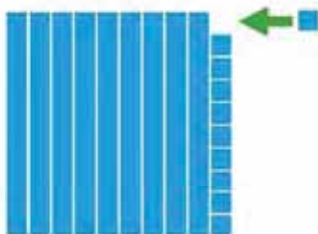
生徒たちは④の1.では百の位の等値関係を使い、2.では百の位の十の位との等値関係を具体的な場面で応用しなければなりません。3.では、100を正しく分解するために百の位の十の位に対する等値関係を使わなければなりません。

1、10、100のタイルのセットを生徒1人につき1セット用意しなければなりません。最初の授業の前に教科書の153・155ページからタイルを切り取る、または第1学年で使用したタイルに100のタイルを追加するように生徒たちに指示しましょう。また、次の授業のために教科書157・159ページの数字カードを切り取ります。

**教材：**タイル、黒板上では「教員用指導書」の271から281ページのタイルを使うことができます。

**日付：****授業：** 1.1

Ⓐ よく見て答えましょう：



1はいくつありますか。

Ⓒ 答え：100個あります。

Ⓖ a. 1個の100=10個の10  
b. 1個の100=100個の1

Ⓗ 1. 完成させましょう：  
a. 100個の1=1個の100  
b. 1個の100=100個の1

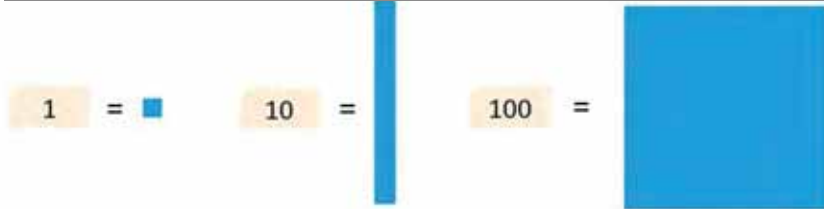
**宿題：** 9ページ

# レッスン 1

## 1.2 101から109までの数を作り、読みましょう

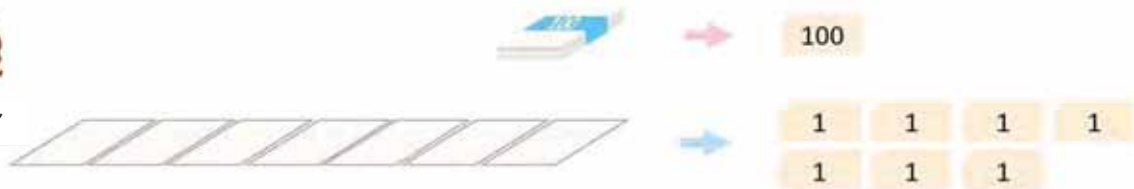
### ① 考えてみよう

数字はタイルや数字カードで表すことができます。見てみましょう：



数字カードを使って判別しましょう。何枚の紙がありますか。

### ② 答えてみよう



1個の100と、7個の1があるから、107になります。百七と読みます。

答え：107 枚の紙があります。

101は百一と読みますが、1001ではなく、101と書きます。



### ③ 理解しよう

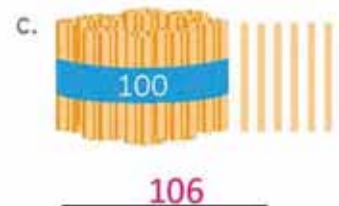
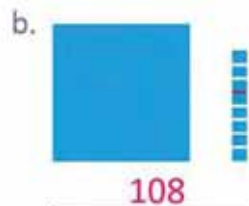
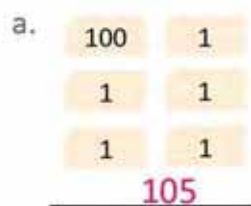
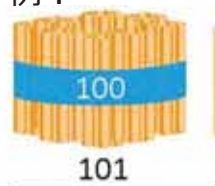
100に1を加えていくと次の数字ができます：

	百	十	一	数	読み方
100 1	1	0	1	101	百一
100 1 1	1	0	2	102	百二
100 1 1 1	1	0	3	103	百三
100 1 1 1 1	1	0	4	104	百四
100 1 1 1 1 1	1	0	5	105	百五
100 1 1 1 1 1 1	1	0	6	106	百六
100 1 1 1 1 1 1 1	1	0	7	107	百七
100 1 1 1 1 1 1 1 1	1	0	8	108	百八
100 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	0	9	109	百九

### ④ 解いてみよう

1. 各問で示された数字を書きましょう。

例：



2. 「理解しよう」の数字を大きい声で読みましょう。

a. 上から下へ。

百一...

百	十	一
1	0	1
1	0	2
1	0	3

b. 下から上へ。

百九...

1	0	7
1	0	8
1	0	9

c. ランダムに。

百六...

1	0	5
1	0	6
1	0	7

3. 「理解しよう」の数字をペアで練習しましょう。

a. 上から下へ。

b. 下から上へ。

c. ランダムに。

百一...

百	十	一
1	0	1
1	0	2
1	0	3

### 家で解いてみよう

1. 各問で示された数を書きましょう。

a.

100	1
1	1

103

b.



109

c.



104

2. 「理解しよう」の数字を大きい声で読みましょう。

a. 上から下へ。

b. 下から上へ。

c. ランダムに。

百一...

百	十	一
1	0	1
1	0	2
1	0	3

百九...

1	0	7
1	0	8
1	0	9

百五...

1	0	4
1	0	5
1	0	6

3. 「理解しよう」の数字の読み方を家族と一緒に練習しましょう。

a. 上から下へ。

b. 下から上へ。

c. ランダムに。

数字カードは全ての授業に持っていきましょう。できれば教室に保管しておきましょう。



家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

1.2 101から109の数字を1つずつ識別して、書き、読みましょう。

**ねらい：**この授業では、生徒たちが100に1を9回まで加えていき、101から109を作ることをねらいとしています。

**重要なポイント：**①では、各数字カードの値を教え、タイルとの対応関係を示すことをねらいとします。3桁の数字を作るためには大量の大きなタイルを使わなければならないほか、タイルで4桁の数を表すことはできないため、この授業で数字カードを取り入れます。②では、1個の100と7個の1として107を作り、数字を作る作業を利用して読み方と書き方を発見します。③では、数字カードに基づいてそれぞれの数字を100といくつかの1のまとまりとして作る作り方を教えます。その後、対応する桁の値に数字を入れ、そこから数字の書き方を説明します。この段階では、101から109の数字の書き方と読み方に重点を置きます。

④では、今まで棒を使って数字を表したことはなかったため、やり方を示すために例が付けられています。問題は、まず数字カード（今後の使用を考慮すると最も重要な教具です）を使って100に足される一の位の値に基づいて数字を表し、その後タイルを使い、最後に棒を使って問題を解くように組まれています。「100に1をこれだけ加えたらどの数になりますか。」のような質問をしながら指導することができます。2.と3.では、生徒たちは「理解しよう」に書かれた数字に基づいて学習します。2.は、101から109までの読み方を生徒たちが1人で練習することをねらいとしています。3.は2.に似ていますが、こちらはペアで学習します。ランダムに読む時は、1人の生徒が数字を1つ指差し、もう1人の生徒が何の数字かを答えます。

このユニットの残りの部分でも数字カードを使い続けるため、無くさないように生徒たちに伝えましょう。可能であれば、学校に保管しておきましょう。

**教材：**数字カードとタイル。黒板上では「教員用指導書」の283から287ページにある数字カードを使うことができます。

### 日付：

### 授業：1.2

Ⓐ よく見て答えましょう：  
紙は何枚ありますか。

100	1	1	1	1
	1	1	1	

Ⓑ 1個の100と7個の1は107になり、百七と読みます。

答え：107枚の紙があります。

Ⓒ 1. 数字を書きましょう：

- a. 105
- b. 108
- c. 106

宿題：11ページ



# レッスン

# 1

## 1.3 110から200までの数を作り、読みましょう

### 考えてみよう

カードをよく見て答えましょう：

- a. 100はいくつありますか。
- b. 10はいくつありますか。
- c. どんな数字になるでしょうか。

100

10

10

10

10

### 1 答えてみよう



カードを見ます。

カルロス

- a. 1 個の100があります。
- b. 4 個の10があります。
- c. 140 になり、百四十と読みます。

百	十	一
1	4	0

次に位取り表に数字をあてはめてみます。



### 2 理解しよう

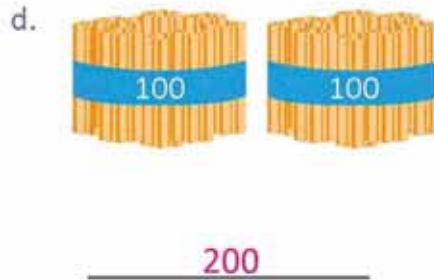
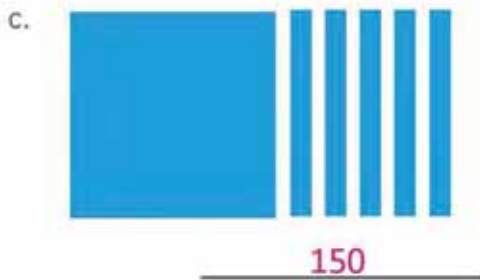
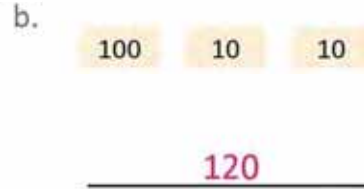
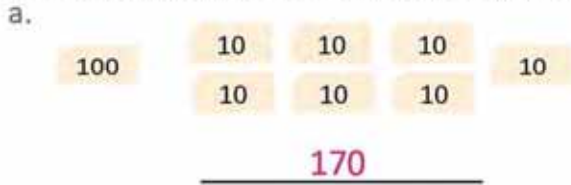
100に10を加えていくと次の数字ができます：

百	十	一	数	読み方							
100	10		110	百十							
100	10	10	120	百二十							
100	10	10	10	130	百三十						
100	10	10	10	10	140	百四十					
100	10	10	10	10	10	150	百五十				
100	10	10	10	10	10	10	160	百六十			
100	10	10	10	10	10	10	10	170	百七十		
100	10	10	10	10	10	10	10	10	180	百八十	
100	10	10	10	10	10	10	10	10	10	190	百九十
100	100		200	二百							

2個の100は200になり、二百と読みます。

3 解いてみよう

1. 各問で示された数を書きましょう。

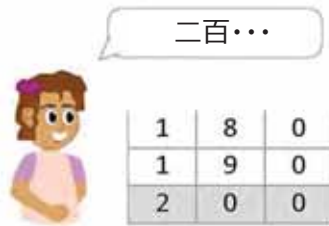


2. 「理解しよう」の数字を大きい声で読みましょう。

a. 上から下へ。

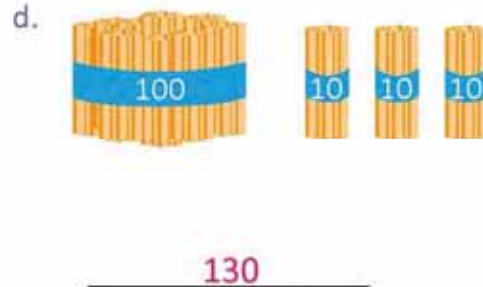
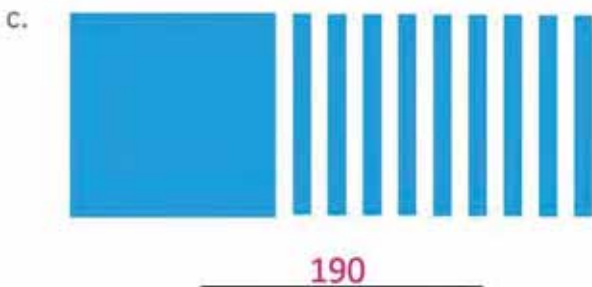
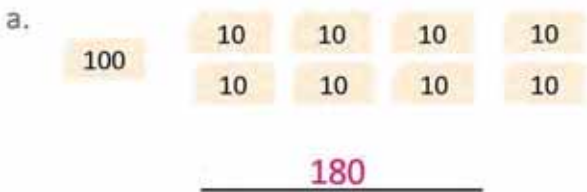
b. 下から上へ。

c. ランダムに。



家で解いてみよう

1. 各問で示された数を書きましょう。



2. 「理解しよう」の数字の読み方を家族と一緒に練習しましょう。

a. 上から下へ。

b. 下から上へ。

c. ランダムに。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

1.3 110から200の数字を10つずつ識別して、書き、読みましょう。

**ねらい：**この授業では1個の100と10のかたまりでできた数字のみを扱います。扱うのは、110、120、130、140、150、160、170、180、190、200です。

**重要なポイント：**①では、生徒たちが前回の授業で107を作ったと同様の方法で140を作ることをねらいとしています。ここでは100に4個の10を加えることで数を作ります。そのために「考えてみよう」の質問を活用します。解答には数字を位取り表上に示してあります。

②では、数字カードに基づいてそれぞれの数字を100といくつかの10のまとまりとして作る作り方を教えます。その後、対応する桁の値に数字を入れ、そこから数字の書き方を説明します。この段階では、110から200の数字の書き方と読み方に重点を置きます。

③の1.では100と複数の10のまとまりからできた様々な数を紹介し、生徒が1D0（Dの部分に十の位の値が入ります）の形で数字を書くことを目指します。常に数字カード、タイル、棒で数字を表すことに重点を置きます。2.では、生徒たちが「理解しよう」で紹介された数の読み、つまり1D0の形の数字を読む練習をすることをねらいとしています。

**教材：**数字カードとタイル、黒板上では「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**メモ：**

---



---



---

**日付：**

**授業：** 1.3

Ⓐ カードをよく見て答えましょう：

100    10    10    10    10

- a. 100はいくつありますか。
- b. 10はいくつありますか。
- c. どんな数字になるでしょうか。

- Ⓒ a. 1個の100
- b. 4個の10

c. 

百の位	十の位	一の位
1	4	0

 百四十と読みます。

答え：140

Ⓓ 1.数字を書きましょう：

- a. 170
- b. 120
- c. 150

**宿題：** 13ページ

# レッスン

# 1

## 1.4 100から200までの数を1つずつ理解しましょう

### 考えてみよう

これらのカードでどんな数字ができるでしょう。

100

10

10

10

10

1

1

### 1 答えてみよう

位取り表に書いてみます。



フリア

百	十	一
1	4	2

↑ 2個の1が加えられました。

答え：142になり、百四十二と読みます。

### 2 理解しよう

100から200の数字です：

100	101	102	103	104	105	106	107	108	109
110	111	112	113	114	115	116	117	118	119
120	121	122	123	124	125	126	127	128	129
130	131	132	133	134	135	136	137	138	139
140	141	142	143	144	145	146	147	148	149
150	151	152	153	154	155	156	157	158	159
160	161	162	163	164	165	166	167	168	169
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179
180	181	182	183	184	185	186	187	188	189
190	191	192	193	194	195	196	197	198	199
200									

### 3 解いてみよう

「理解しよう」の数字を書いて読み方を練習しましょう。

a. 100から200

b. 200から100

c. ランダムに

### 家で解いてみよう

「理解しよう」の数字の読み方を家族と一緒に練習しましょう。

a. 100から200

b. 200から100

c. ランダムに

**達成の目安：**

1.4 100から200の数字を1つずつ識別して、書き、読みましょう。

**ねらい：**百の位、十の位、一の位を使って200までの3桁の数字を作ること。

**重要なポイント：**①では、生徒たちが数字を構成する百の位、十の位、一の位の値を識別し、位取り表に書くことをねらいとします。前回の授業と異なり、140に2個の1を加えて142を作って、その後作った数字の読み方を教えることに重点を置きます。

その後、②では100から200の全ての数字を1つずつ紹介します。この部分では生徒たちが1つずつ数字を読む時間を設け、各数字の百の位、十の位、一の位の値に基づいてどのように数字を読み、書いているか観察し確認しましょう。「理解しよう」の部分が「解いてみよう」のように使われるため、数字はグレーになっています。

③では、「理解しよう」の数字を再度なぞることを書く練習をし、昇順、降順、ランダムに指定し、大きい声で読むことで読む練習をすることを目的としています。もし生徒たちにはもっと練習が必要だと教員が判断した場合には、読み書きの練習課題を出しても構いません。授業で使える時間に応じて、授業の一部、または宿題として課題を出してください。

**指導案：**「理解しよう」の一部として、100から200の数字が書かれたポスターを用意すれば、教員が数字を指差して、生徒が大きい声で読む練習を行えます。ここでは、ポスターを黒板計画に加えています。ポスターは任意で使用してください。

**教材：**数字カード、黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**日付：**

**授業：**1.4

Ⓐ カードをよく見て答えましょう：

100      10      10      10      10

1      1

どんな数字になるでしょうか。

Ⓒ

百	十	一	百四十二と読みます。
1	4	2	

答え：142

Ⓒ

100	101	102	103	104	105	106	107	108	109
110	111	112	113	114	115	116	117	118	119
120	121	122	123	124	125	126	127	128	129
130	131	132	133	134	135	136	137	138	139
140	141	142	143	144	145	146	147	148	149
150	151	152	153	154	155	156	157	158	159
160	161	162	163	164	165	166	167	168	169
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179
180	181	182	183	184	185	186	187	188	189
190	191	192	193	194	195	196	197	198	199
200									

Ⓓ 「理解しよう」の数字を再度なぞり、読み方を練習しましょう。

**宿題：**14ページ

## 達成の目安：

1.5 200までの数の問題を解きましょう。

### 1.5 学んだことをやってみましょう

1. 授業1.4の「理解しよう」の数字を読みましょう。

a. 100から200

b. 200から100

c. ランダムに

2. ペアで練習しましょう。数字をランダムに指差し、読みましょう。



134	135	136
144	145	146
154	155	156



百四十四...

3. 200までの数を書きましょう。

100	101	102	103	104	105	106	107	108	109
110	111	112	113	114	115	116	117	118	119
120	121	122	123	124	125	126	127	128	129
130	131	132	133	134	135	136	137	138	139
140	141	142	143	144	145	146	147	148	149
150	151	152	153	154	155	156	157	158	159
160	161	162	163	164	165	166	167	168	169
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179
180	181	182	183	184	185	186	187	188	189
190	191	192	193	194	195	196	197	198	199
200									

### 家で解いてみよう

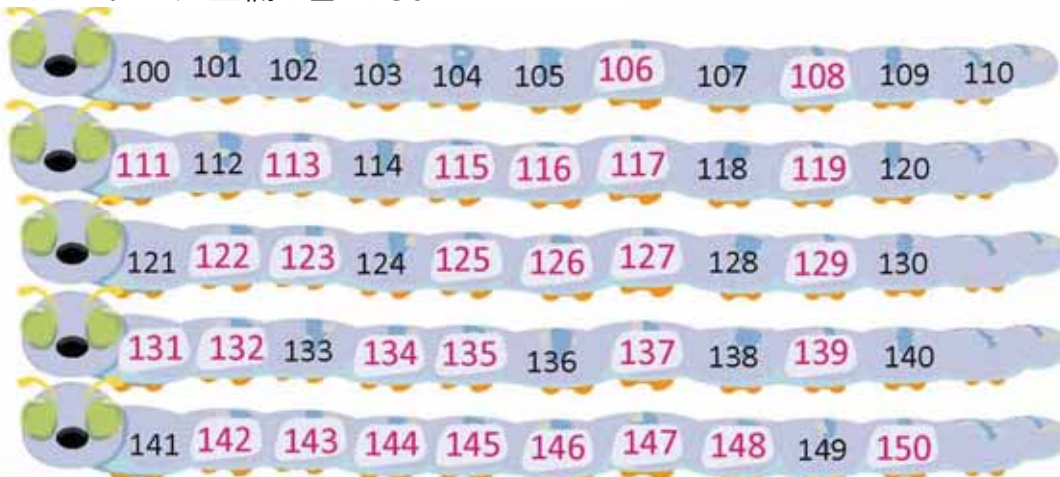
1. 数字の読み方を家族と一緒に練習しましょう。

a. 100から200

b. 200から100

c. ランダムに

2. それぞれのイモ虫の空欄を埋めましょう。



家族のサイン： \_\_\_\_\_

# レッスン

# 2

## 3桁の数と千の単位について学習しましょう

### 2.1 100ずつ数字を数えて、書き、読みましょう

#### 考えてみよう

これらのカードでどんな数字ができるでしょう。

100

100

100

#### 1 答えてみよう

位取り表に書いてみます。



アントニオ

百	+	-
3	0	0

答え： 300 になり、三百と読みます。

#### 理解しよう

100のかたまりでできた数字です：

	百	+	-	数字	読み方
100	1	0	0	100	百
100 100	2	0	0	200	二百
100 100 100	3	0	0	300	三百
100 100 100 100	4	0	0	400	四百
100 100 100 100 100	5	0	0	500	五百
100 100 100 100 100 100	6	0	0	600	六百
100 100 100 100 100 100 100	7	0	0	700	七百
100 100 100 100 100 100 100 100	8	0	0	800	八百
100 100 100 100 100 100 100 100 100	9	0	0	900	九百

#### 2 解いてみよう

1. 作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

例：

100 100 100 100  
100 100 100 100

800

a.

100 100  
100 100 100

500

b.

100 100  
100 100

400

2. 各問で作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a. 2個の100= 200

b. 7個の100= 700

c. 4個の100= 400

d. 9個の100= 900

3. 「理解しよう」の数字を大きい声で読みましょう。

a. 上から下へ。

百...

百	十	一
1	0	0
2	0	0
3	0	0

b. 下から上へ。

九百...

7	0	0
8	0	0
9	0	0

c. ランダムに。

五百...

4	0	0
5	0	0
6	0	0

4. 「理解しよう」の数字をペアで練習しましょう。

a. 上から下へ。

b. 下から上へ。

c. ランダムに。

百...

百	十	一
1	0	0
2	0	0
3	0	0

### 家で解いてみよう

1. 作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a.

100 100 100

300

b.

100 100 100  
100 100 100 100

700

c.

100 100 100  
100 100 100

600

2. 各問で作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a. 4個の100= 400

b. 5個の100= 500

c. 7個の100= 700

d. 8個の100= 800

3. 「理解しよう」の数字を家族と一緒に大きい声で読みましょう。

a. 上から下へ。

b. 下から上へ。

c. ランダムに。

百...

百	十	一
1	0	0
2	0	0
3	0	0

九百...

7	0	0
8	0	0
9	0	0

五百...

4	0	0
5	0	0
6	0	0

家族のサイン： \_\_\_\_\_



**達成の目安：**

2.1 100から900の数字を100ずつ識別して、書き、読みましょう。

**ねらい：** 前回の課では、1個の100を含む数字の作り方を学びました。この授業では、数字の作り方の知識を深め、100のかたまりから作られる数字を作ります。

**重要なポイント：** ①では、生徒たちが位取り表を使用することを想定しています。そのため、数字カードをよく見て、百の位しか書かれていないことを確認し、数を特定して位取り表を埋める必要があります。数字を作った後、数字の読み方が示されます。**三百**という言葉と、**3個の100**からできた数字を結びつけることが非常に重要です。

②では、数字カードに基づいて数字を作る練習をし、2.で百の位の抽象的な概念を使って数字を作り、3.では「理解しよう」の表を使った読み方の練習が用意されています。まずは1人で練習し、その後4.ではペアで練習します。

**指導案：** 100から900の100ごとの数字のカードを作ってもよいでしょう。カードの表に数字を書き、裏に読み方を書きます。グループ、またはペア単位でカードを渡し、生徒たちに数字の読み方をランダムに練習させましょう。

**教材：** 数字カード、黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**メモ：**

---



---



---

**日付：**

**授業：** 2.1

Ⓐ カードをよく見て答えましょう：

100      100      100

どんな数字になるでしょうか。

Ⓒ 

百	十	一
3	0	0

 三百と読みます。

答え：300

Ⓓ 1.数字を書きましょう。

a. 500

b. 400

**宿題：** 17ページ

# レッスン

# 2

## 2.2 3桁の数字を書いて、読みましょう

### 考えてみよう

これらのカードでどんな数字ができるでしょう。



### 1 答えてみよう

位取り表に書いてみます。



ベアトリス

百	十	一
2	3	7

答え：237になり、二百三十七と読みます。

### 2 理解しよう

3桁の数字を読む時や書く時には、位取り表を使うことができます。

例：

数字を書く時

二百 三十 七

2個の100

3個の10

7個の1

237と書きます。

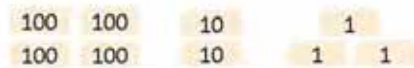
数字を読む時

二百三十七と読みます。

### 3 解いてみよう

1. 位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

例：



百	十	一
4	2	3

423

a.

百	十	一
2	4	5

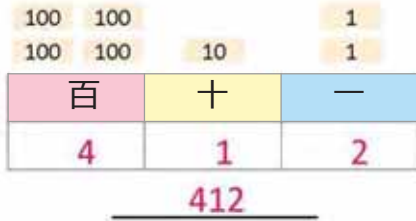
245

b.

百	十	一
5	6	3

563

c.



d.



2. それぞれの数字を読み、書きましょう。

a. 三百二十五： 325

b. 五百四十八： 548

c. 二百七十二： 272

d. 九百五十四： 954

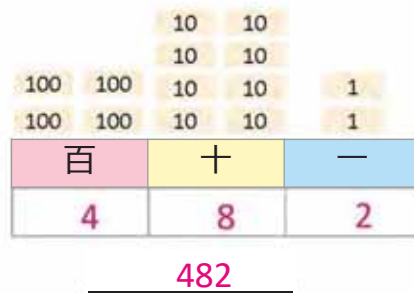
### 家で解いてみよう

1. 位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

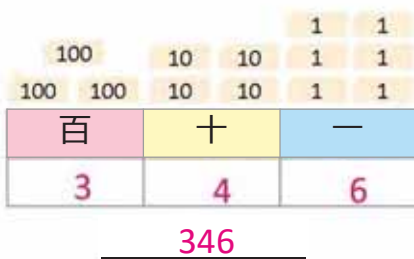
a.



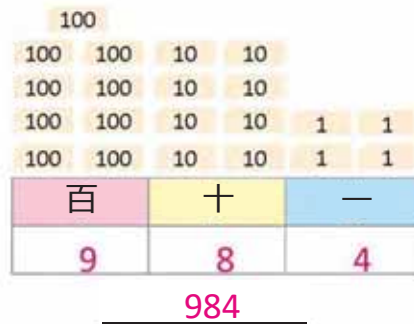
b.



c.



d.



2. それぞれの数字を読み、書きましょう。

a. 三百二十七： 327

b. 五百五十三： 553

c. 四百八十一： 481

d. 六百四十七： 647

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

2.2 位取り表を使って0を含まない3桁の数字を読み、書きましょう。

**ねらい：**どの桁にも0を含まない3桁の数字を、位取り表に百の位、十の位、一の位の値を入れて書くこと。

**重要なポイント：**①の「考えてみよう」を解くためには、前回までの授業で行った方法を帰納法的に用い、位取り表に一の位、十の位、百の位を入れ該当する数字を作らなければなりません。これらの数字を書き、読むためには、まず各位の値を確認します。数字を読むこと、書くこと、作ることの相関関係に重点を置くことが大切です。②ではそのような相関関係に主眼を置いています。

③の練習問題では、数字カードが作る数字を識別し、読み方を判別することに焦点を当てています。2.では、生徒たちは文字で書かれた数に基づいて数字を書きます。このような練習問題は他の問題より難しいことがあります。そのため、より手厚くサポートし、まずは「理解しよう」の理論を分析するように指導しなければなりません。例：

三百二十五：百の位に3を書くように、「三百には100がいくつありますか。」と質問してもよいでしょう。残りの二十五は第1学年ですでに学習した数字なので、より簡単でしょう。

**指導案：**表に文字で数字が書かれたカードを準備することを勧めます。生徒たちは文字を見て数字を書き、その後各カードの裏に書かれた数字で答えを確認します。

黒板では、矢印を使って数字と読みを結びつけるとよいです。

**教材：**数字カードとタイル、黒板上では「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**日付：**

**授業：**2.2

Ⓐ カードをよく見て答えましょう：

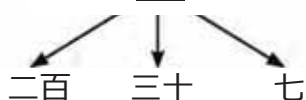
100    10    10    1    1    1    1  
100    10    1    1    1

どんな数字になるでしょうか。

Ⓢ 

百	十	一
2	3	7

答え：237



Ⓙ 1. 数字を書きましょう：

a. 

百	十	一
2	4	5

245

b. 

百	十	一
5	6	3

563

**宿題：**19ページ

## 2.3 0を含む3桁の数字を書き、読みましょう

### 考えてみよう

これらのカードでどんな数字ができるでしょう。



### 1 答えてみよう

位取り表に書いてみます。



百	十	一
3	0	6

十の位に数がない時には、十の位の位置に「0」（ゼロ）を書きます。0を書かないと、36になってしまいます。



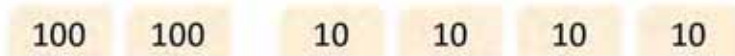
答え：306 になり、三百六と読みます。

### 2 理解しよう

一の位や十の位に数がない数字を書くには、数がない位に0を入れます。

どうなるでしょうか。

1. これらのカードでどんな数字ができるでしょう。



2. どう読みますか。

1. 位取り表を埋めると：

百	十	一
2	4	0

一の位に数がない時には、一の位の位置に「0」（ゼロ）を書きます。0を書かないと、24になってしまいます。



2. 二百四十と読みます。

答え：240 になり、二百四十と読みます。

### 解いてみよう

1. 位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a.

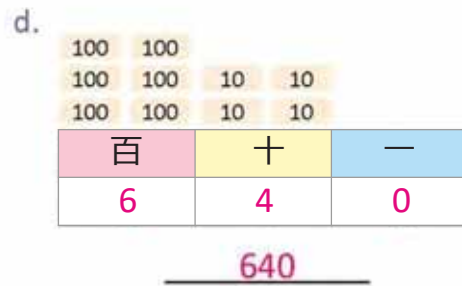
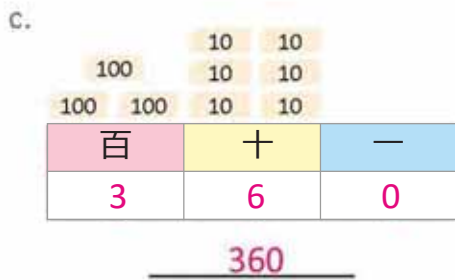
百	十	一
4	0	5

405

b.

百	十	一
6	0	3

603



3 2. それぞれの数字を読み、書きましょう。

a. 五百八 : 508

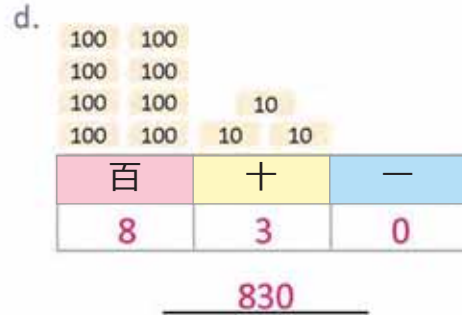
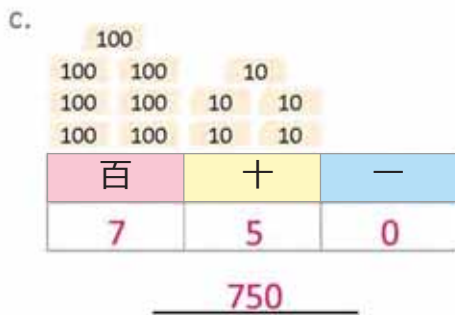
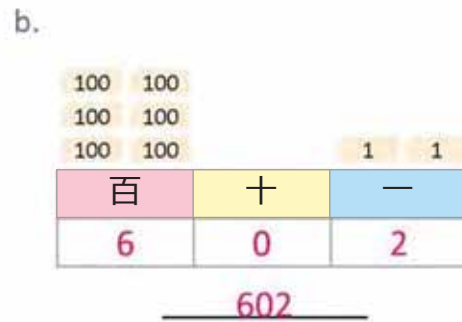
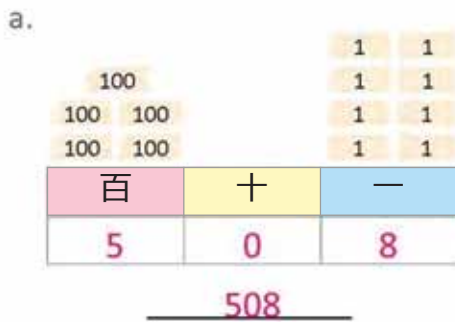
b. 九百一 : 901

c. 七百五十 : 750

d. 四百二十 : 420

家で解いてみよう

1. 位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。



2. それぞれの数字を読み、書きましょう。

a. 二百七 : 207

b. 六百四 : 604

c. 八百七十 : 870

d. 三百九十 : 390

家族のサイン : \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

2.3 位取り表を使って十の位または一の位に0を含む3桁の数字を読み、書きましょう。

**ねらい：**この授業では十の位または一の位に数がない特別な場合の分析を深めます。前回の授業と同様の方法で授業が進められ、必要に応じて対応する位置に0を入れることを学びます。

**重要なポイント：**この授業の「考えてみよう」を解くため、①では前回までの授業と同様の方法で、位取り表を使って、10のカードがない時は0を入れることに注意しながら、書かれた値ごとのカードの枚数を該当する位置（この場合は十の位）に入れます。このような特別な場合（一の位でも十の位でも）には0を入れることを生徒たちが忘れないようにしてください。

②では、一の位に数がない場合を扱います。数がないため、表の該当する位置に0を入れます。どの練習問題でも、数字の読み方を掘り下げます。③では、生徒たちが数字の読み方と対応する数字を結びつけることを目指します。これは他の問題より難しい可能性があるため、前回の授業と同様の方策で指導してもよいでしょう。

**指導案：**十の位または一の位が0の数字カードを作るとよいでしょう。カードの表に数字を書き、裏に読み方を書きます。グループ、またはペア単位でカードを渡し、生徒たちに数字の読み方をランダムに練習させましょう。

授業では、種類ごとのカードの枚数に関する質問をして、カードがない時にはそのことが分かるように0を入れなければいけないことを強調するとよいでしょう。

黒板では、矢印を使って数字と読みを結びつけるとよいです。

**教材：**数字カード、黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

## 日付：

## 授業：2.3

Ⓐ カードをよく見て答えましょう：

100	100	1	1	1
100		1	1	1

どんな数字になるでしょうか。

Ⓔ

百	十	一
3	0	6

答え：306

↓ ↓

三百 六

Ⓖ

100	10	10	百	十	一
100	10	10	2	4	0

答え：240

↓ ↓

二百 四十

Ⓕ 1. 数字を書きましょう：

a.

百	十	一
4	0	5

答え：405

b.

百	十	一
6	0	3

答え：603

宿題：21ページ

# レッスン 2

## 2.4 3桁の数字を組み立てましょう

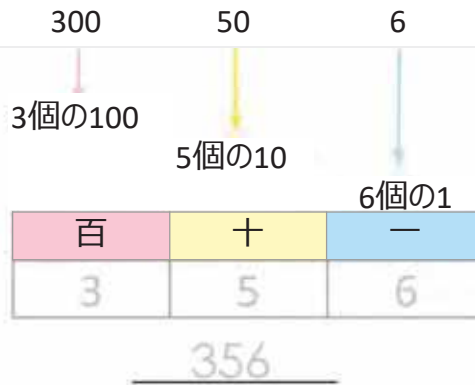
### 考えてみよう

どんな数字になるでしょうか。



### 1 答えてみよう

数字の百の位、十の位、一の位を確認して、位取り表に当てはめます。



答え：300と50と6で 356 になります。

### 理解しよう

展開形を基に3桁の数字を書くには、百の位、十の位、一の位を確認して位の値を入れてから、数字を書きます。

### 2 どうなるでしょうか。

a. 500と4はどんな数字になるでしょうか。

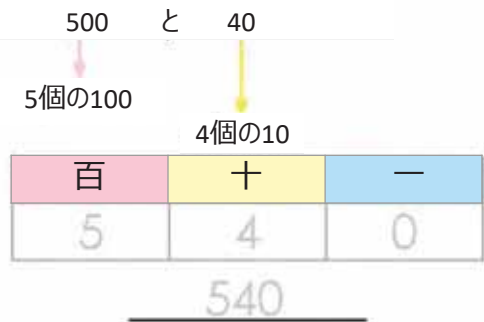
b. 500と40はどんな数字になるでしょうか。



十の位や一の位に0を入れ忘れないようにしましょう。



答え：500と4で 504 になります。



答え：500と40で 540 になります。



3 解いてみよう

1. 各問でどんな数が作られるでしょうか。

a. 400と80と3

百	十	一
4	8	3

答え： 483 になります。

b. 500と80と9

百	十	一
5	8	9

答え： 589 になります。

c. 700と9

答え： 709 になります。

d. 600と30

答え： 630 になります。

2. 風船の中の数字を合わせてできる数字を書きましょう。

例：

a.  235

b.  327

c.  641

d.  805

e.  950

家で解いてみよう

1. 各問でどんな数ができるでしょうか。

a. 400と30と7

百	十	一
4	3	7

答え： 437 になります。

b. 300と90と4

百	十	一
3	9	4

答え： 394 になります。

c. 500と6

答え： 506 になります。

d. 700と10

答え： 710 になります。

2. 風船の中の数字を合わせてできる数字を書きましょう。

a.  128

b.  576

c.  743

d.  308

e.  840

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

2.4 与えられた百の位 (C00)、十の位 (D0)、一の位 (U) の数を合わせてできる3桁の数字を書きましょう。

**ねらい：**展開形を基に数字を組み立てること（この学年の子どもたちの知識を考慮し、まだ  $a \times 100 + b \times 10 + c \times 1$  のような展開形は用いません）。

**重要なポイント：**①では、数字を構成する百の位、十の位、一の位を確認して（数字を構成する数に基づき）位取り表を埋め、できあがる数字を見つけます。与えられた数量とできあがる数字を関連づけられるよう、生徒たちに解答を読ませることが大切です。同様の方法で、②では十の位または一の位の値がない数字という特別な場合を分析します。その場合、位取り表の該当する位置に0を入れる必要があります。生徒たちが0を入れる重要性和、正しい位置に0を入れることを理解できるよう、意図的に数字を選定しています。

③のa.とb.では、数字の読み書きがしやすいよう補助として位取り表を付けていますが、c.とd.では付けていません。さらに各問に応じて正しい0の付け方を確認しなければなりません。b.では十の位に0を付け、d.では一の位に0を付けます。2.では、問題を間違えて解釈することがないように、期待される解答の例が示されます。

**メモ：**

-----

-----

-----

-----

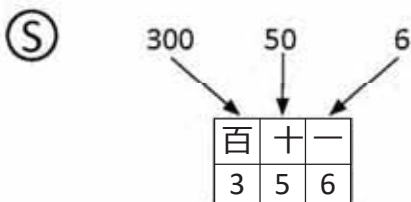
-----

-----

**日付：**

**授業：** 2.4

Ⓐ 300と50と6はどんな数字になるでしょうか。

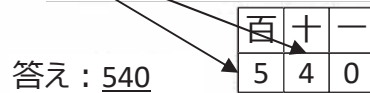


答え：356になります。

Ⓔ a. 500と4はどんな数字になるでしょうか。



b. 500と40はどんな数字になるでしょうか。



Ⓕ できあがる数を書きましょう：



答え：483



答え：589

**宿題：** 23ページ

# レッスン 2

## 2.5 数字の1,000を作り、読み、書きましょう

### 1 考えてみよう

a. これらの数字カードでできる数字はいくつでしょうか。

100	100	10	10	1	1
100	100	10	10	1	1
100	100	10	10	1	1
100	100	10	10	1	1
100		10		1	

b. 1の数字カードを前の数に加えると、いくつになるでしょうか。

### 2 答えてみよう

a. 位取り表に書いてみます。



ホセ

百	十	一
9	9	9

10個の1は1個の10になり、10個の10は1個の100になることを思い出しましょう。



答え： 999 になり、九百九十九と読みます。

b.

千	百	十	一
1	0	0	0

9 個の1がありました。1個の1を加えます。10個の1は 10 になります。

9 個の10がありました。1個の10を加えます。10個の10は 100 になります。

9 個の100がありました。1個の100を加えます。10個の100は 1,000 になります。

答え： 1,000 になり、千と読みます。

### 理解しよう

10個の100は1個の1,000になり、「千の位」と表されます。

1,000個の1は1,000、100個の10は1,000です。



## 解いてみよう

1. 当てはまる数字を入れましょう。

a. 1個の1,000 = 10 個の100

b. 10個の100 = 1 個の1,000

c. 1個の1,000 = 100 個の10

d. 1個の1,000 = 1,000 個の1

e. 100個の10 = 1 個の1,000

f. 1,000個の1 = 1 個の1,000

2. 当てはまる数字を入れて1,000を作りましょう。

a. 700      300  
      \      /  
      1,000

b. 200      800  
      \      /  
      1,000

c. 500      500  
      \      /  
      1,000

d. 400      600  
      \      /  
      1,000

3



終わったら、次の練習問題を解きましょう。

1. たし算をしましょう。

a.  $2 + 3 = 5$

b.  $5 + 2 = 7$

c.  $6 + 3 = 9$

d.  $1 + 7 = 8$

e.  $4 + 2 = 6$

f.  $3 + 1 = 4$

2. ひき算をしましょう。

a.  $7 - 4 = 3$

b.  $8 - 4 = 4$

c.  $9 - 3 = 6$

d.  $5 - 3 = 2$

e.  $6 - 2 = 4$

f.  $4 - 4 = 0$

## 家で解いてみよう

1. 当てはまる数字を入れましょう。

a. 10個の100 = 1 個の1,000

b. 1個の1,000 = 10 個の100

c. 1個の1,000 = 100 個の10

d. 100個の10 = 1 個の1,000

e. 1個の1,000 = 1,000 個の1

f. 1,000個の1 = 1 個の1,000

2. 当てはまる数字を入れて1,000を作りましょう。

a. 900      100  
      \      /  
      1,000

b. 300      700  
      \      /  
      1,000

c. 800      200  
      \      /  
      1,000

d. 100      900  
      \      /  
      1,000

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

2.5 1,000のかたまりと1、10、100との等値関係を書きましょう。

**ねらい：** 999に1を加えることができる数字として1,000を身に付け、千の位の概念を学び、この概念と1,000という数字を結びつけられるようにするとともに、1,000と百の位、十の位、一の位との等値関係を学びます。

**重要なポイント：** ①では、数字カードを使って999を表します。このユニットの授業2からずっと使用している教具であるため、数字カードを使用します。999の作り方を確認した後、999に1を加えるとどんな数字になるか質問します。②で初めて1,000の作り方を学ぶため、その前の問題で1,000について触れないよう注意してください。10、100の作り方の検証に基づき、最後に10個の100からできた数字として1,000について学ぶことが想定されています。この部分では1,000の読み方も学びます。

「解いてみよう」では1,000と百の位、十の位、一の位との等値関係（「理解しよう」に対応しています）、様々な100のかたまりを使って1,000を組み立てる方法に重点を置きます。③には「終わったら」のセクションがあります。第1学年で触れた1桁の数字2つのたし算とひき算を覚えているか確認し、復習することができます。

文法的に正しく1,000を書く時には、カンマを入れてはいけません（1 000のようにスペースを1つだけ入れます）。しかしこの教科書で行う指導では、第2学年から高校まで、指導上の補助として、千、百、十、一の位を分けるためにカンマを入れます。

**教材：** 数字カード、黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**日付：**

**授業：** 2.5

Ⓐ カードをよく見て答えましょう：

100	100	10	10	1	1
100	100	10	10	1	1
100	100	10	10	1	1
100	100	10	10	1	1
100		10		1	

- a. どんな数字になるでしょうか。  
 b. **1** を加えるとどんな数字になるでしょうか。

Ⓢ a.

百	十	一
9	9	9

答え：999

九百      九十      九

b. 100のカードが10枚で1,000になり、「千」と読みます。

千	百	十	一
1	0	0	0

Ⓡ 1. 完成させましょう：

- a. 1個の1,000=100個の10  
 b. 10個の100=1個の1,000

**宿題：** 25ページ

# レッスン

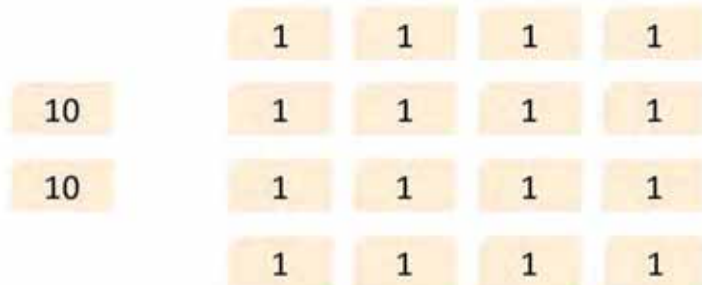
# 3

## たし算とひき算の準備をしましょう

### 3.1 2桁の数を作りましょう

#### 考えてみよう

これらのカードでどんな数字ができるでしょう。



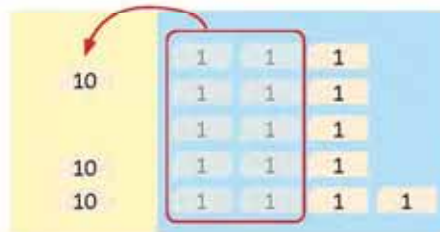
#### 1 答えてみよう



カルメン

2 個の10と 16 個の1があります。

10個の1は1個の10になります。



位取り表に書いてみます。

+	-
3	6

答え：できあがる数は 36、三十六と読みます。

#### 理解しよう

1が10個以上あると、10ができるので、十の位に移動します。

#### 解いてみよう

位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a.

+	-
5	9

59

b.

+	-
4	3

43

c.

+	-
7	5

75

d.

+	-
3	2

32

2



終わったら、たし算を練習しましょう。

a.  $9 + 2 = 11$

b.  $8 + 4 = 12$

c.  $7 + 6 = 13$

d.  $6 + 5 = 11$

e.  $4 + 9 = 13$

f.  $6 + 8 = 14$

g.  $8 + 8 = 16$

h.  $6 + 0 = 6$

### 家で解いてみよう

1. 位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a.

+	-
2	4

24

b.

+	-
6	6

66

c.

+	-
9	8

98

d.

+	-
8	7

87

家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

3.1 数字カードで1が10個以上ある場合に、カードに基づいて2桁の数字を書きましょう。

**ねらい：**1が10個以上ある場合に、2桁の数字を作ること。ここで学習することは、一の位から十の位への繰り上がりを伴うたし算の裏付けとして使われます。

**重要なポイント：**①ではまず、前回までの授業で学習した内容を振り返りつつ、種類ごとの数字カードの枚数に基づいて、十と一の位の値の確認について説明します。その後、16個の1の変換に焦点を合わせます。そのため、10個の1は1個の10であるという等値関係を応用できるよう、生徒たちをサポートしましょう。最後に、生徒たちは十の位の値が1に増え、一の位には6が入ることを検証し、その通りに位取り表を埋め、数字を完成させます。

「解いてみよう」では、「答えてみよう」と同じ図を使い、生徒たちが10個の1は1個の10に変換され、十の位の値が増えることを視覚的に理解できるようにします。②では、前回の授業と同様に、1桁の数字のたし算のおさらいをします。たし算の結果が10より大きくなるため、次のユニットで役に立つ今回の授業の内容を思い出し、復習することができます。

**教材：**数字カードとタイル、黒板上では「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

## メモ：

---

---

---

---

---

---

---

---

### 日付：

### 授業：3.1

Ⓐ これらのカードでどんな数字ができるでしょう。

10	1	1	1	1
10	1	1	1	1
	1	1	1	1
	1	1	1	1

10と1がいくつずつあるか確認しましょう。

Ⓒ 2 個の10と16個の1があります。

1個の10と6個の1

+	-
3	6

答え：36になります。

Ⓓ できあがる数を書きましょう：

a. 

+	-
5	9

答え：59

b. 

+	-
4	3

答え：43

宿題：27ページ



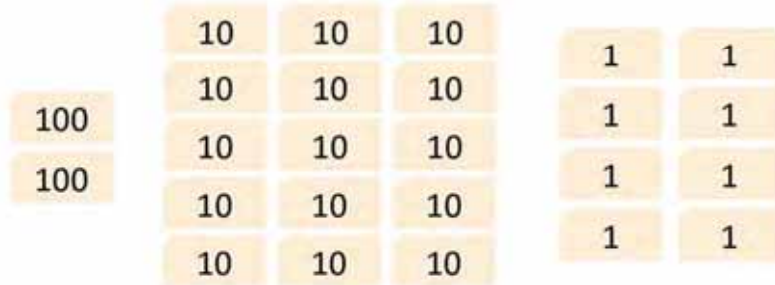
# レッスン

# 3

## 3.2 3桁の数を作りましょう

### 考えてみよう

これらのカードでどんな数字ができるでしょう。

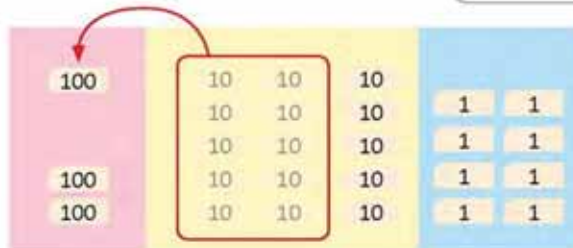


### 1 答えてみよう



2 個の100、15 個の10、8 個の1があります。

10個の10は1個の100になります。



位取り表に書いてみます。

百	十	一
3	5	8

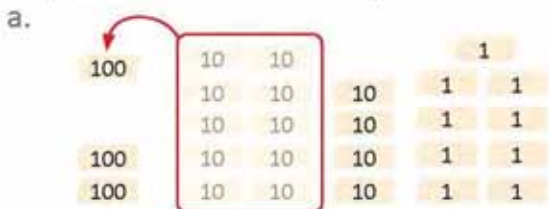
答え：できあがる数は 358 で、三百五十八と読みます。

### 理解しよう

10が10個以上あると、100ができるので、百の位に移動します。

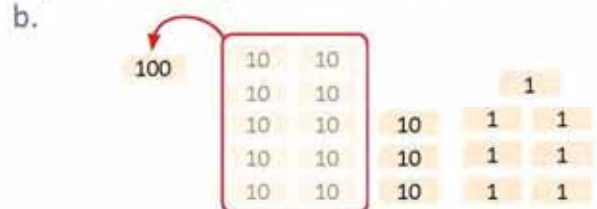
### 解いてみよう

位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。



百	十	一
3	4	9

349



百	十	一
1	3	7

137

c.

百	十	一
4	0	2

402

d.

百	十	一
1	5	0

150

2



終わったら、ひき算を練習しましょう。

a.  $11 - 2 = 9$

b.  $14 - 6 = 8$

c.  $15 - 8 = 7$

d.  $12 - 7 = 5$

e.  $13 - 7 = 6$

f.  $11 - 6 = 5$

g.  $12 - 6 = 6$

h.  $16 - 8 = 8$

### 家で解いてみよう

位取り表を埋め、作られる数字を書き、大きい声で読みましょう。

a.

百	十	一
5	2	7

527

b.

百	十	一
1	5	6

156

c.

百	十	一
7	0	5

705

d.

百	十	一
1	0	3

103

家族のサイン : \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

3.2 数字カードで10が10個以上ある場合に、カードに基づいて3桁の数字を書きましょう。

**ねらい：** 10が10個以上ある場合に、3桁の数字を作ること。ここで学習することは、十の位から百の位への繰り上がりを伴うたし算の裏付けとして使われます。

**重要なポイント：** ①ではまず、前回までの授業で学習した内容を振り返りつつ、種類ごとの数字カードの枚数に基づいて、百、十、一の位の値の確認について説明します。その後、15個の10の変換に焦点を合わせます。そのため、10個の10は1個の100であるという等値関係を応用できるよう、生徒たちをサポートしましょう。最後に、生徒たちは百の位の値が1増え、十の位には5が入ることを検証し、その通りに位取り表を埋め、数字を完成させます。

「解いてみよう」では、「答えてみよう」と同じ図を使い、生徒たちが10個の10は1個の100に変換され、百の位の値が増えることを視覚的に理解できるようにします。練習問題c.とd.では、十の位または一の位に0を書かなければならない特別な場合を扱います。②では、前回の授業と同様に、2桁の数字引く1桁の数字のひき算のおさらいをします。ユニット4で役に立つ今回の授業の内容を思い出し、復習することができます。

この授業は前回の授業と非常に似ています。どちらの授業もいずれかの位の値（一の位、十の位、または百の位）が10を超える場合の対処方法に重点を置いています。

**教材：** 黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**メモ：**

---



---



---



---

**日付：**

**授業：3.2**

**(A)** これらのカードでどんな数字ができるでしょう。

100	10	10	10	1	1
100	10	10	10	1	1
	10	10	10	1	1
	10	10	10	1	1
	10	10	10		

100と10と1がいくつずつあるか確認しましょう。

**(S)** 2個の100と15個の10と8個の1があります。



**(R)** できあがる数を書きましょう：

a. 

百	十	一
3	4	9

  
答え：349

b. 

百	十	一
1	3	7

  
答え：137

**宿題：** 29ページ

# レッスン 3

## 3.3 数字を構成する一の位を見つけましょう

### 考えてみよう

1はいくつありますか。

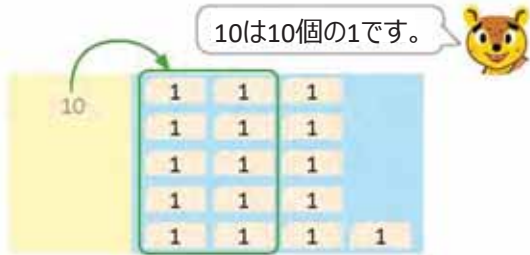
10

1 1 1

1 1 1

### 1 答えてみよう

10のかたまりを1ずつ分けます。



答え： 16 個の1があります。

16を分解して、10と6にします。



ベアトリス

16  $\left\{ \begin{array}{l} 10は10個の1です。 \\ 6は6個の1です。 \end{array} \right. \underline{16} \text{ 個の1}$

答え： 16 個の1があります。

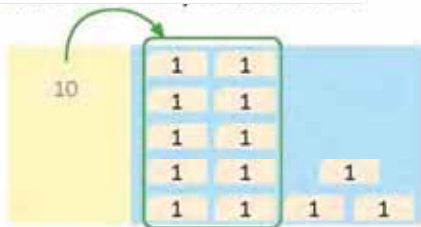
### 理解しよう

1つの数字にいくつの1があるか知るためには、10を10個の1に分けましょう。

### 2 解いてみよう

1はいくつありますか。

a. 1個の10と3個の1



答え： 13 個の1があります。

b. 1個の10と7個の1

17  $\left\{ \begin{array}{l} 10は10個の1です。 \\ 7は7個の1です。 \end{array} \right. \underline{17} \text{ 個の1}$

答え： 17 個の1があります。

c. 1個の10と8個の1

答え： 18 個の1があります。

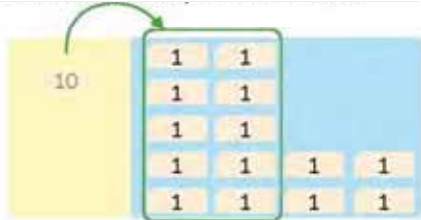
d. 1個の10と5個の1

答え： 15 個の1があります。

### 家で解いてみよう

1はいくつありますか。

a. 1個の10と4個の1



答え： 14 個の1があります。

b. 1個の10と9個の1

19  $\left\{ \begin{array}{l} 10は10個の1です。 \\ 9は9個の1です。 \end{array} \right. \underline{19} \text{ 個の1。}$

答え： 19 個の1があります。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

3.3 数字カードに基づいて、10（10は一の位）の形の2桁の数字を構成する1の数を判別しましょう。

**ねらい：**数字を構成する1の数を判別すること。この授業では十の位を一の位に変換するため、前回までの授業で行ったことの逆を行います。ここで学習することは、十の位から一の位への繰り下がりに伴うひき算の裏付けとして使われます。

**重要なポイント：**①では、生徒たちは、すでに6個の1があるため、いくつ1があれば10ができるかを検証すればよいと判断しなければなりません。このユニットの初めの授業で扱った内容です。解答方法は2種類提示されます。1つ目は、数字カードを使って10を10個の1に変換し、1のカード全てをまとめて答えを得る方法です。2つ目の方法は、図を使う方法です。16を10と6に分解し、各数字を構成する十の位の値を確認します。10は10個の1、6は6個の1であるため、10と6は16個の1です。

②では「答えてみよう」と同じ図を使い、生徒たちが1個の10は10個の1に変換されることを視覚的に理解できるようにします。練習問題c.とd.はより複雑で、図を作らずに問題を解くことが期待されます。

**教材：**黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**メモ：**

---

---

---

---

---

---

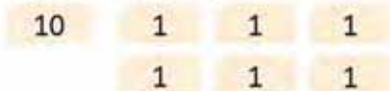
---

---

**日付：**

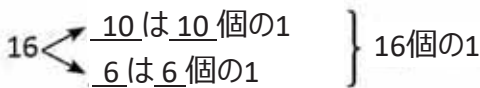
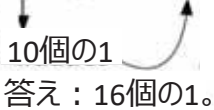
**授業：**3.3

Ⓐ 1はいくつありますか。



10と1がいくつずつあるか確認しましょう。

Ⓒ 1 個の10と 6 個の1



答え：16個の1。

Ⓓ 1はいくつありますか。

a. 13個の1。

b. 17個の1。

**宿題：**30ページ

# レッスン

# 3

## 3.4 数字を構成する十の位を見つけましょう

### 考えてみよう

10はいくつありますか。

100

10

10

10

10

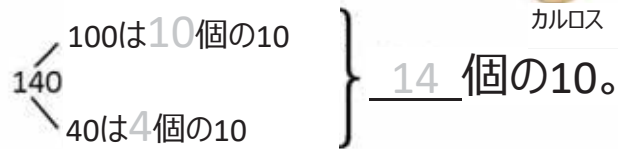
### 1 答えてみよう

百の位を十の位に変換します。



答え： 14 個の10があります。

140を分解して、100と40にします。



カルロス

答え： 14 個の10があります。

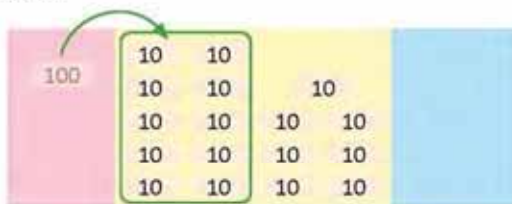
### 理解しよう

1つの数字にいくつの10があるか知るためには、100を10個の10に分けましょう。

### 2 解いてみよう

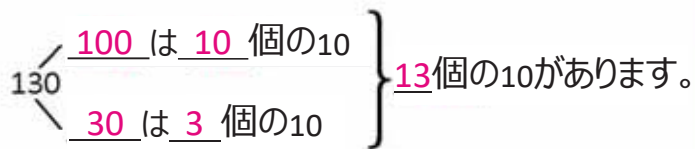
以下の数字にはいくつの10が含まれているでしょうか。

a. 170



答え： 17 個の10があります。

b. 130



答え： 13 個の10があります。

c. 190

答え： 19 個の10があります。

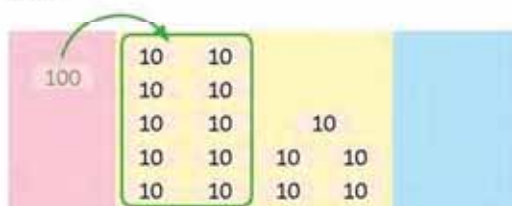
d. 180

答え： 18 個の10があります。

### 家で解いてみよう

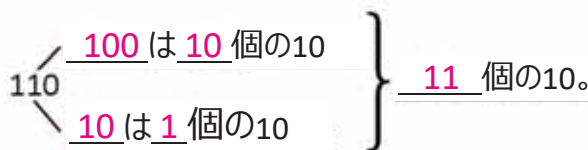
以下の数字にはいくつの10が含まれているでしょうか。

a. 150



答え： 15 個の10があります。

b. 110



答え： 11 個の10があります。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

3.4 数字カードに基づいて、1D0（Dは十の位）の形の3桁の数字を構成する10の数を判別しましょう。

**ねらい：**数字を構成する10の数を判別すること。この授業では百の位を十の位に変換するため、授業3.2で行ったことの逆を行います。ここで学習することは、百の位から十の位への繰り下がりを伴うひき算の裏付けとして使われます。

**重要なポイント：**①では、生徒たちは、すでに4個の10があるため、いくつ10があれば100ができるかを検証すればよいと判断しなければなりません。このユニットの初めの授業で扱った内容です。前回の授業と同様に、解答方法は2種類提示されます。1つ目は、数字カードを使って100を10個の10に変換し、10のカード全てをまとめて答えを得る方法です。2つ目の方法は、図を使う方法です。140を100と40に分解し、各数字を構成する十の位の値を確認します。100は10個の10、40は4個の10であるため、100と40は14個の10です。

②では「答えてみよう」と同じ図を使い、生徒たちが1個の100は10個の10に変換されることを視覚的に理解できるようにします。練習問題c.とd.はより複雑で、図を作らずに問題を解くことが期待されます。

この授業は前回の授業と非常に似ています。どちらの授業も繰り下がりを伴うひき算の裏付けのツールとなる知識の習得をねらいとしています。

**教材：**黒板上で「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

**メモ：**

---



---

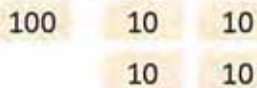


---

**日付：**

**授業：** 3.4

Ⓐ 10はいくつありますか。

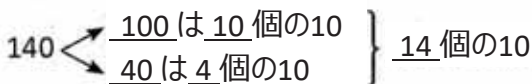


100と10がいくつずつあるか確認しましょう。

Ⓒ 1 個の100と 4 個の10。



答え：14個の10があります。



答え：14個の10。

Ⓓ 10はいくつありますか。

a. 17個の10があります。

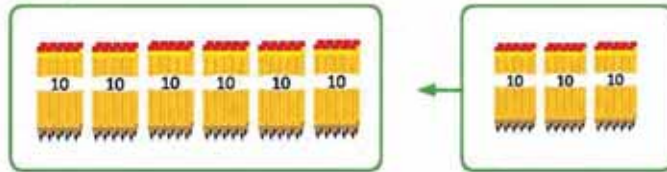
b. 13個の10があります。

**宿題：** 31ページ

## 3.5 十の位でたし算をしましょう

### 考えてみよう

ある書店に60本の鉛筆があり、さらに30本買いました。  
今、鉛筆は何本ありますか。



### 答えてみよう

- 1 それぞれの数字に10がいくつ含まれるか確認します。



アナ

$$\text{式: } \begin{array}{r} 60 \\ + 30 \\ \hline 90 \end{array} = \underline{90}$$

6 個の10 + 3 個の10 = 9 個の10

答え: 90 本の鉛筆があります。

### 理解しよう

60+30のように2つの数字を足す時は、それぞれの数字の十の位を確認します。

### 解いてみよう

- 2 1. 十の位の値を確認して、たし算をしましょう。

a.  $40 + 30 = \underline{70}$

4 個の10 + 3 個の10 = 7 個の10

b.  $50 + 80 = \underline{130}$

c.  $90 + 70 = \underline{160}$

10個の10は1個の100になることを思い出しましょう。



2. カルメンはビー玉を80個持っていて、ファンは70個持っています。2人のビー玉を合わせると何個になりますか。

式:  $\underline{80 + 70}$

答え: 150 個

### 家で解いてみよう

1. 十の位の値を確認して、たし算をしましょう。

a.  $20 + 50 = \underline{70}$

7個の10

b.  $80 + 30 = \underline{110}$

11個の10

c.  $50 + 90 = \underline{140}$

14個の10

2. ある箱に60冊のノートが入っており、別の箱には50冊入っています。全部で何冊のノートがありますか。

式:  $\underline{60 + 50}$

答え: 110 冊



**達成の目安：**

3.5 それぞれの加数を構成する十の位の値を識別して、 $D0+D0=D0$ または $D0+D0=1D0$ （Dは十の位）の形のたし算をしましょう。

**ねらい：**この授業は、十の位のたし算をする時には、実際に足す数は1桁の数だとしても、表される数は十の位に対応する値であることを生徒たちに教えることを主な目的としています。この知識は、ユニット2でたし算を縦書きで解く時に使用します。

**重要なポイント：**①では、たし算をして解答が得られる問題を扱います。以下の方法で十の位のたし算を行います：

1.  $D0$ の形のそれぞれの加数（この問題では6個の10と3個の10）を構成する十の位を確認し、書きます。
2. 6と3は十の位の値であることを念頭に置きつつ、 $6+3$ のたし算を行います。
3. 9個の10を1ずつに分け、 $60+30$ のたし算の和を得ます。

②の1a.では、たし算の手順の図が示されていますが、他の問題では生徒たちが自分で手順を抽象的に考えることをねらっています。しかし、自分で考えるのが難しい生徒は、授業で使われた図を使用して解いても構いません。さらに、これらの問題の解の十の位の値は10を超えるため、答えは $1D0$ の形になります。2.では授業で扱われた練習問題に対応する問題が取り上げられており、同じ解法で解かなければなりません。

**メモ：**

---

---

---

---

---

---

---

---

**日付：**

**授業：3.5**

- Ⓐ 60本の鉛筆。  
30本の鉛筆。  
全部で何本の鉛筆がありますか。

Ⓒ

$$\begin{array}{r} 60 \quad + \quad 30 \quad = \quad 90 \\ \downarrow \quad \quad \downarrow \quad \quad \uparrow \\ \underline{6} \text{ 個の}10 + \underline{3} \text{ 個の}10 = \underline{9} \text{ 個の}10 \end{array}$$

答え：90本

- Ⓓ 1. 十の位の値を確認して、たし算をしましょう。

a.

$$\begin{array}{r} 40 \quad + \quad 30 \quad = \quad 70 \\ \downarrow \quad \quad \downarrow \quad \quad \uparrow \\ \underline{4} \text{ 個の}10 + \underline{3} \text{ 個の}10 = \underline{7} \text{ 個の}10 \end{array}$$

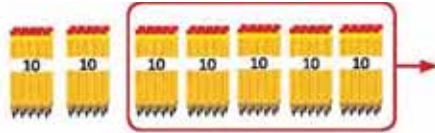
b.  $50 + 80 = 130$

**宿題：**32ページ

## 3.6 十の位でひき算をしましょう

### 考えてみよう

ある書店に70本の鉛筆があり、50本売れました。  
今、鉛筆は何本残っていますか。



### 1 答えてみよう

それぞれの数字に10がいくつ含まれるか確認します。



ホセ

$$\text{式: } \underline{70} - \underline{50} = \underline{20}$$

$$\underline{7} \text{ 個の } 10 - \underline{5} \text{ 個の } 10 = \underline{2} \text{ 個の } 10$$

答え: 20 本残っています。

### 理解しよう

70-50のように2つの数字を引く時は、それぞれの数字の十の位を確認します。

### 2 解いてみよう

1個の100は10個の10と同じことを思い出しましょう。



1. 十の位の値を確認して、ひき算をしましょう。

a.  $80 - 70 = \underline{10}$

b.  $150 - 60 = 90$

c.  $160 - 90 = 70$

8 個の10 - 7 個の10 = 1 個の10

2. 袋にビー玉が130個入っており、遊ぶために40個取り出しました。

ビー玉はいくつ残っていますか。

式: 130-40

答え: 90 個。

### 家で解いてみよう

1. 十の位の値を確認して、ひき算をしましょう。

a.  $60 - 20 = \underline{40}$

b.  $170 - 80 = 90$

c.  $140 - 60 = 80$

2. かごに110個のマンゴーが入っており、50個売れました。かごの中にマンゴーはいくつ残っていますか。

式: 110-50

答え: 60 個

家族のサイン: \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

3.6 それぞれの被減数と減数を構成する十の位の値を識別して、 $D0-D0=D0$ または $1D0-D0=D0$ （Dは十の位）の形のひき算をしましょう。

**ねらい：**この授業は、十の位のひき算をする時には、実際に引く数は1桁の数だとしても、表される数は十の位に対応する値であることを生徒たちに教えることを主な目的としています。この知識は、ユニット4でひき算を縦書きで解く時に使用します。この授業は前回の授業に非常に似ていますが、ひき算を扱います。

**重要なポイント：**①では、ひき算をして解答が得られる問題を扱います。以下の方法で十の位のひき算を行います：

1.  $D0$ の形のそれぞれの被減数および減数（この問題では7個引く5個の10）を構成する十の位を確認し、書きます。
2. 7と5は十の位の値であることを念頭に置きつつ、 $7-5$ のひき算を行います。
3. 2個の10を1ずつに分け、 $70-50$ のひき算の差を得ます。

②の1.では、1問目ではひき算の手順の図が示されていますが、他の問題では生徒たちが自分で手順を抽象的に考えることをねらっています。しかし、自分で考えるのが難しい生徒は、授業で使われた図を使用して解いても構いません。さらに、これらの問題のひき算は $1D0-D0$ の形になります。

2.では授業で扱われた練習問題に対応する問題が取り上げられており、同じ解法で解かなければなりません。

**メモ：**

-----

-----

-----

-----

-----

**日付：**

**授業：** 3.6

Ⓐ 70本の鉛筆。  
50本売れました。  
全部で何本の鉛筆がありますか。

$$\begin{array}{ccccccc} \textcircled{S} & 70 & - & 50 & = & 20 & \\ & \downarrow & & \downarrow & & \uparrow & \\ & 7 \text{ 個の}10 & - & 5 \text{ 個の}10 & = & 2 \text{ 個の}10 & \end{array}$$

答え：20本。

Ⓔ 1. 十の位の値を確認して、ひき算をしましょう。

$$\begin{array}{ccccccc} \text{a.} & 80 & - & 70 & = & 10 & \\ & \downarrow & & \downarrow & & \uparrow & \\ & 8 \text{ 個の}10 & - & 7 \text{ 個の}10 & = & 1 \text{ 個の}10 & \end{array}$$

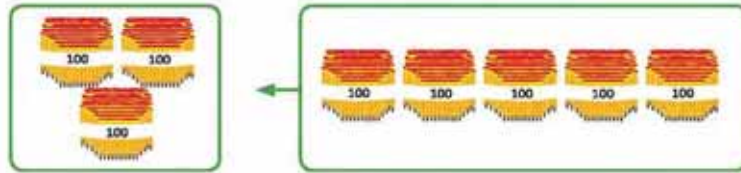
$$\text{b. } 150 - 60 = 90$$

宿題：33ページ

## 3.7 百の位でたし算とひき算をしましょう

### 考えてみよう

300本鉛筆があり、さらに500本買いました。鉛筆は全部で何本ありますか。



### 1 答えてみよう

それぞれの数字に100がいくつ含まれるか確認します。



フリア

$$\text{式: } \underline{300} + \underline{500} = \underline{800}$$

$$\underline{3} \text{ 個の100} + \underline{5} \text{ 個の100} = \underline{8} \text{ 個の100}$$

答え：鉛筆は 800 本あります。

### 理解しよう

2つの数字を足す、または引く時は、それぞれの数字の百の位を確認します。

### 2 どうなるでしょうか。

700-400の答えは何ですか。

$$\underline{700} - \underline{400} = \underline{300}$$

$$\underline{7} \text{ 個の100} - \underline{4} \text{ 個の100} = \underline{3} \text{ 個の100}$$

### 3 解いてみよう

1. 百の位の値を確認して計算しましょう。

a.  $\underline{400} + \underline{300} = \underline{700}$   
 $\underline{4} \text{ 個の100} + \underline{3} \text{ 個の100} = \underline{7} \text{ 個の100}$

b.  $700 + 100 = 800$

c.  $600 - 200 = 400$

2. 500枚の紙があります。100枚使ったら、紙は何枚残りますか。

式：  $\underline{500} - \underline{100}$                       答え： 400 枚。

### 家で解いてみよう

1. 百の位の値を確認して計算しましょう。

a.  $200 + 500 = \underline{700}$                       b.  $800 - 300 = 500$                       c.  $900 - 500 = 400$

2. 300枚の紙があり、さらに200枚買ったなら、紙は全部で何枚になるでしょうか。

式：  $\underline{300} + \underline{200}$                       答え： 500 枚。

**達成の目安：**

3.7 C00 (cは百の位) の形の加数のたし算やC00の形の被減数・減数のひき算を、加数・被減数・減数を構成する百の位の値を確認しながら計算しましょう。

**ねらい：**この授業は前回までの授業と非常に似ていますが、今回は百の位のたし算とひき算に注目します。百の位のたし算やひき算をする時には、実際に引く数は1桁の数だとしても、表される数は百の位に対応する値であることを生徒たちに教えることを主な目的としています。この知識は、ユニット2でたし算を、ユニット4でひき算を縦書きで解く時にも使用します。

**重要なポイント：**①と②では、たし算とひき算をして解答が得られる問題を扱います。以下の方法で百の位の計算を行います：

1. C00の形の式を構成する百の位を確認し、書きます。
2. 式 (3+5、または7-4) を解きます。その際、それらの数字は百の位に対応する値であることに注意します。
3. 求められた百の位の値を1を基準とした数に変換し、式の解が得られます。

③の1.では、1問目ではひき算の手順の図が示されていますが、他の問題では生徒たちが自分で手順を抽象的に考えることをねらっています。しかし、自分で考えるのが難しい生徒は、授業で使われた図を使用して解いても構いません。2.では授業で扱われた練習問題に対応する問題が取り上げられており、同じ解法で解かなければなりません。

**メモ：**

---

---

---

---

---

---

---

---

**日付：**

**授業：3.7**

Ⓐ 300本の鉛筆。  
500本の鉛筆。  
全部で何本の鉛筆がありますか。

Ⓔ 
$$\begin{array}{r} 300 + 500 = 800 \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \uparrow \\ 3 \text{ 個の}100 + 5 \text{ 個の}100 = 8 \text{ 個の}100 \\ \text{答え：}800\text{本。} \end{array}$$

Ⓕ 
$$\begin{array}{r} 700 - 400 = 300 \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \uparrow \\ 7 \text{ 個の}100 - 4 \text{ 個の}100 = 3 \text{ 個の}100 \\ \text{答え：}300\text{本。} \end{array}$$

Ⓖ 1.百の位の値を確認して、計算をしましょう。

a. 
$$\begin{array}{r} 400 + 300 = 700 \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \uparrow \\ 4 \text{ 個の}100 + 3 \text{ 個の}100 = 7 \text{ 個の}100 \\ \text{答え：}700 \end{array}$$

b.  $700 + 100 = 800$

c.  $600 - 200 = 400$

**宿題：**34ページ

# レッスン

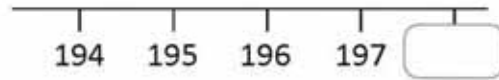
# 4

## 3桁の数で数直線を使ってみましょう

### 4.1 数直線上に数を表しましょう

#### 考えてみよう

数直線上に欠けている数字を書きましょう。

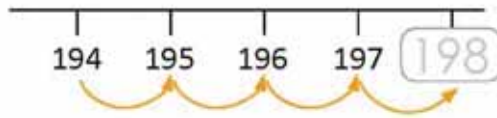


#### 1 答えてみよう



マリオ

数字を数えたら、数字は1ずつ増えているようです。

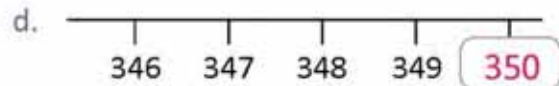
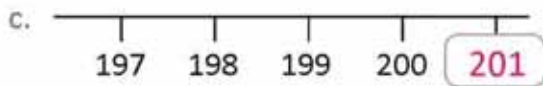
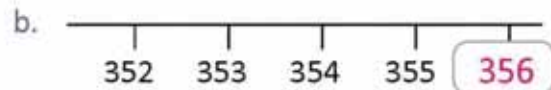
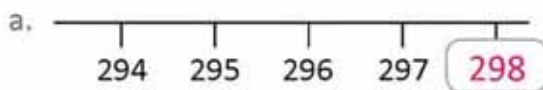


#### 理解しよう

直線上に数を表すには、数字を数えて、右方向に1ずつ増えていることを確認しましょう。

#### 2 解いてみよう

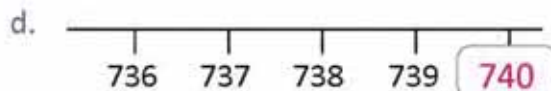
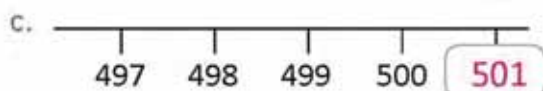
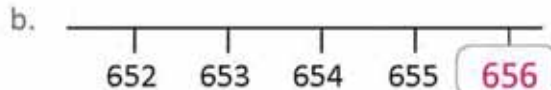
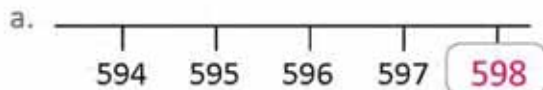
1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 10の数字を大きい声で読みましょう。

#### 家で解いてみよう

1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 10の数字を家族に読みましょう。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

4.1 3桁の数を、1ずつ増えていくように数直線上に表しましょう。

**ねらい：**この授業の1では、数直線上に数を表す、最も簡単な場合を扱います。昇順の、1ずつの目盛りを用います。

**重要なポイント：**①では、生徒たちが欠けている数を特定する方法を発見することをねらいとしています。そのため、数直線上の数字は実際1ずつ増えていることから、入れなければならない欠けている数は198である、と指導しましょう。

②では、数直線上にある数字を数えるよう強調して生徒たちに伝えることを勧めます。そうすれば数字が1ずつ増えていることが分かり、欠けている数字を判別できます。数字を入れた後、2.では答えを確認するために、各数直線の数字を大きい声で読ませます。

**指導案：**授業が早く終わった場合は、同様の数直線をさらに作ってもよいです。黒板に貼り付ける数直線を準備する、または授業中にペンと定規を使って書いてもよいです。

**メモ：**

---

---

---

---

---

---

---

---

---

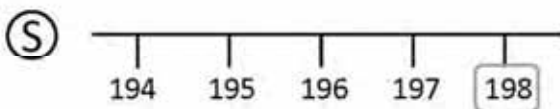
---

---

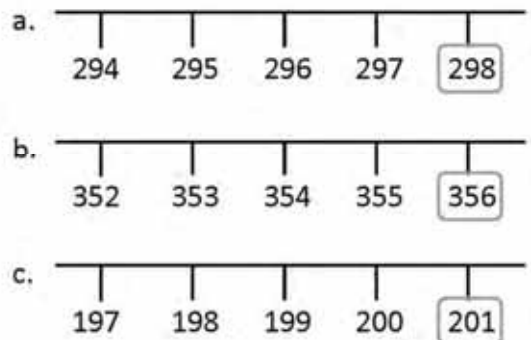
**日付：**

**授業：4.1**

Ⓐ 数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。



Ⓕ 1. 欠けている数字を書きましょう。



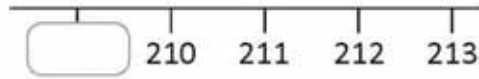
**宿題：**35ページ

# レッスン 4

## 4.2 引き続き数直線上に数を表しましょう

### 考えてみよう

数直線上に欠けている数字を書きましょう。

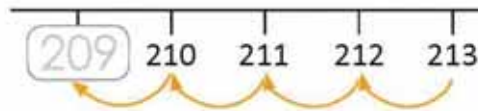


### 1 答えてみよう

数字を数えたら、数字は1ずつ減っているようです。



カルメン

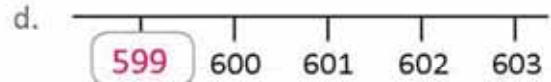
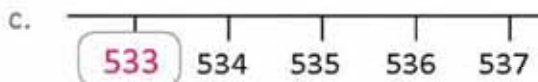
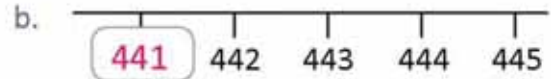
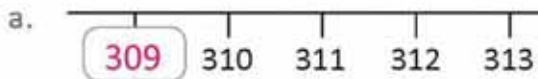


### 理解しよう

数直線上に数字を入れる時、数字が左に向かって1ずつ減っていることもあります。

### 2 解いてみよう

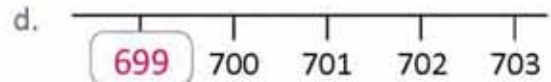
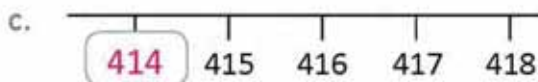
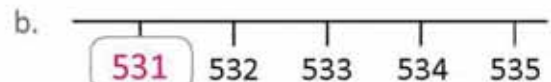
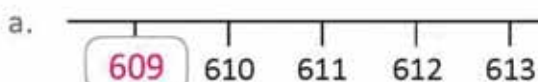
1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 10の数字を大きい声で読みましょう。

### 家で解いてみよう

1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 10の数字を家族に読みましょう。



**達成の目安：**

4.2 3桁の数を、1ずつ減っていくように数直線上に表しましょう。

**ねらい：**この授業では前回の授業と似た場合を扱いますが、ここでは降順の1ずつの目盛りを使って数直線に数字を入れます。

**重要なポイント：**①では、生徒たちが欠けている数を特定する方法を発見することをねらいとしています。そのため、数直線上の数字は実際1ずつ減っていることから、入れなければならない欠けている数は209である、と指導しましょう。

②では、数直線上にある数字を右から左へ数えるよう強調して生徒たちに伝えることを勧めます。そうすれば数字が1ずつ減っていることが分かり、欠けている数字を判別できます。数字を入れた後、2.では答えを確認するために、各数直線の数字を大きい声で読ませます。

**指導案：**授業が早く終わった場合は、同様の数直線をさらに作ってもよいです。黒板に貼り付ける数直線を準備する、または授業中にペンと定規を使って書いてもよいです。

**メモ：**


---

---

---

---

---

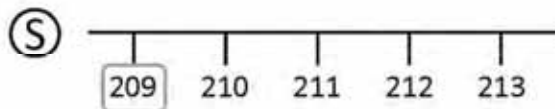
---

---

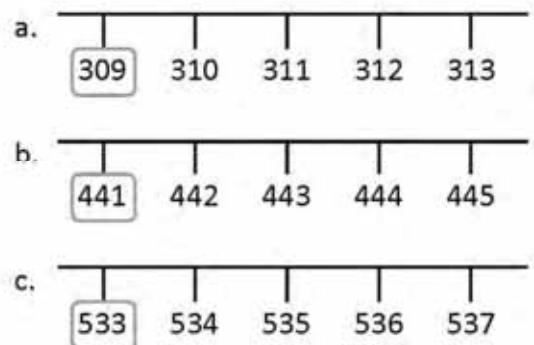
---

**日付：****授業：** 4.2

① 数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。



③ 1. 欠けている数字を書きましょう。



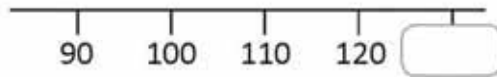
**宿題：** 36ページ

# レッスン 4

## 4.3 数直線上に増えていく数を表しましょう

### 考えてみよう

数直線上に欠けている数字を書きましょう。

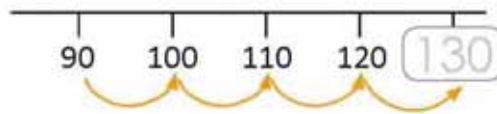


### 1 答えてみよう

数字を数えたら、数字は10ずつ増えているようです。



カルロス

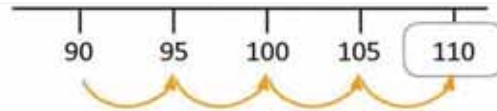


### 理解しよう

直線上に数を表すには、数字を数えて、この問題では右方向に10ずつ増えていることを確認しましょう。

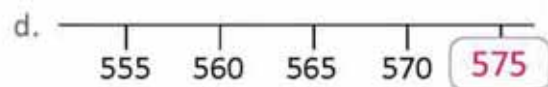
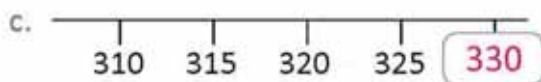
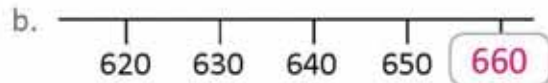
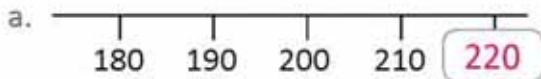
### 2 どうなるでしょうか。

数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。数字を数えてみると、5ずつ増えています。



### 3 解いてみよう

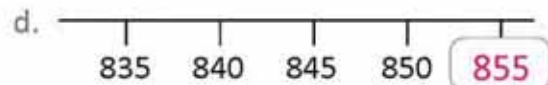
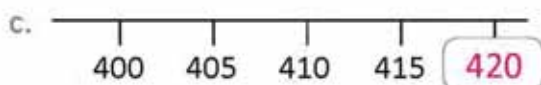
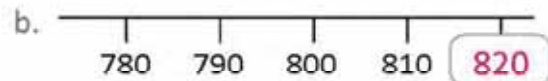
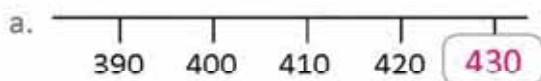
1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 10の数字を大きい声で読みましょう。

### 家で解いてみよう

1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 10の数字を家族に読みましょう。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

4.3 3桁の数を、5または10ずつ増えていくように数直線上に表しましょう。

**ねらい：**この授業では、数直線上の数字が昇順に、10ずつ、または5ずつの目盛り上に並んでいる場合を分析します。

**重要なポイント：**①と②では、欠けている数字を見極める方法を生徒たちが発見することをねらいとしています。そのため、目盛りが異なることに生徒たちが気付くように指導しましょう。数字を読みあげ、1ずつ増えているかどうか質問し、10ずつまたは5ずつ（問題により異なります）増えていることに気付けるよう、指導することを勧めます。目盛りを確認できたら、昇順で10ずつ（または5ずつ）数え、数直線上で欠けている数字を求めることができます。

③では、欠けている数字を入れるために、数字がいくつずつ増えているかを見極めるよう強調しましょう。数字を入れた後、2.では答えを確認するために、各数直線の数字を大きい声で読ませます。

**指導案：**授業が早く終わった場合は、同様の数直線を10ごとの目盛り、または5ごとの目盛りでさらに作ってもよいです。黒板に貼り付ける数直線を準備する、または授業中にペンと定規を使って書いてもよいです。

**メモ：**


---



---



---



---



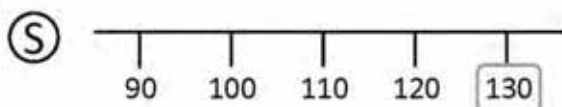
---



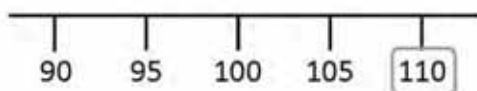
---

**日付：****授業：4.3**

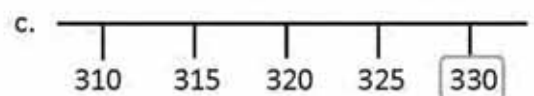
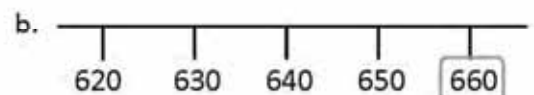
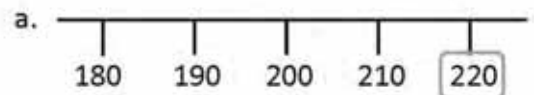
Ⓐ 数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。



Ⓖ 数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。



Ⓡ 1. 欠けている数字を書きましょう。



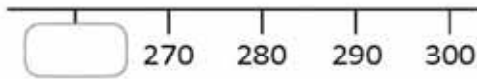
**宿題：**37ページ

# レッスン 4

## 4.4 数直線上に減っていく数を表しましょう

### 考えてみよう

数直線上に欠けている数字を書きましょう。

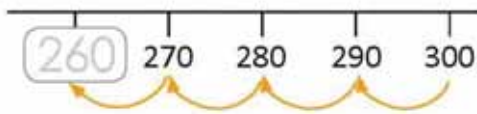


### 1 答えてみよう

数字を数えたら、数字は10ずつ減っているようです。



ベアトリス

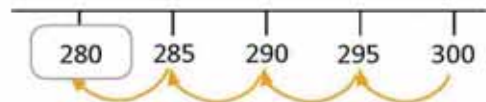


### 理解しよう

数直線上に数字を入れる時、数字が左に向かって10ずつ減っていることもあります。

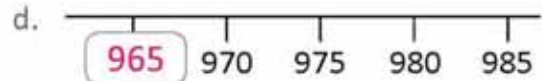
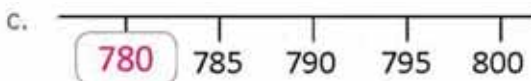
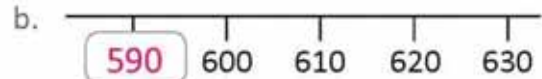
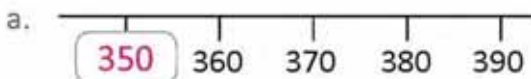
### 2 どうなるでしょうか。

数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。数字を数えてみると、5ずつ減っています。



### 3 解いてみよう

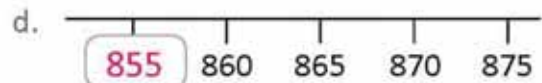
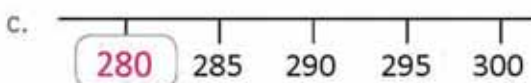
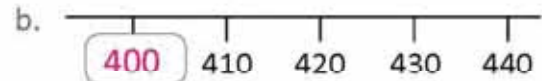
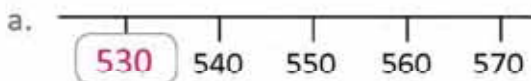
1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 1の数字を大きい声で読みましょう。

### 家で解いてみよう

1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. 1の数字を家族に読みましょう。

家族のサイン: \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

4.4 3桁の数を、5ずつまたは10ずつ減っていくように数直線上に表しましょう。

**ねらい：**この授業では、最後のケースとして、数直線上の数字が降順に、10ずつ、または5ずつの目盛り上に並んでいる場合を分析します。

**重要なポイント：**①と②では、欠けている数字を見極める方法を生徒たちが発見することをねらいとしています。そのため、目盛りが異なることに生徒たちが気付くように指導しましょう。右から左へ数字を読みあげ、1ずつ減っているかどうか質問し、10ずつまたは5ずつ（問題により異なります）減っていることに気付けるよう、指導することを勧めます。目盛りを確認できたら、降順で10ずつ（または5ずつ）数え、数直線上で欠けている数字を求めることができます。

③では、欠けている数字を入れるために、右から左へ数字を読み、数字がいくつずつ減っているかを見極めるよう強調しましょう。数字を入れた後、2.では答えを確認するために、各数直線の数字を大きい声で読ませます。

**指導案：**授業が早く終わった場合は、同様の数直線を10ごとの目盛り、または5ごとの目盛りでさらに作ってもよいです。黒板に貼り付ける数直線を準備する、または授業中にペンと定規を使って書いてもよいです。

**メモ：**

---

---

---

---

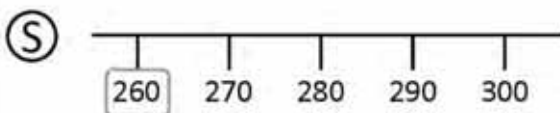
---

---

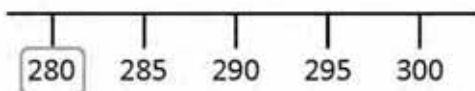
**日付：**

**授業：4.4**

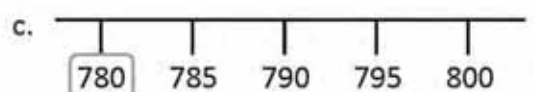
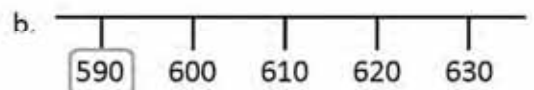
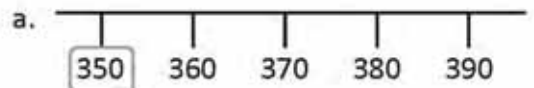
Ⓐ 数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。



Ⓖ 数直線上で欠けている数字はどの数字ですか。



Ⓡ 1. 欠けている数字を書きましょう。



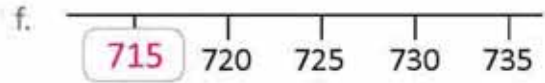
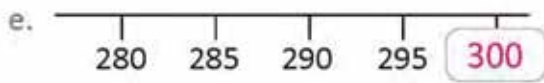
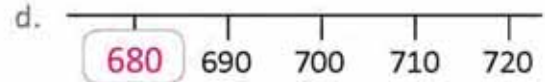
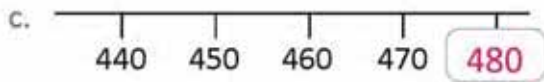
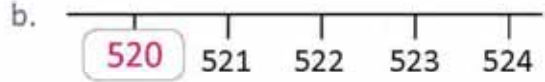
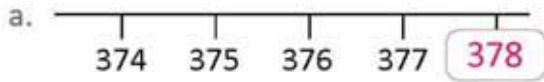
**宿題：**38ページ

達成の目安：

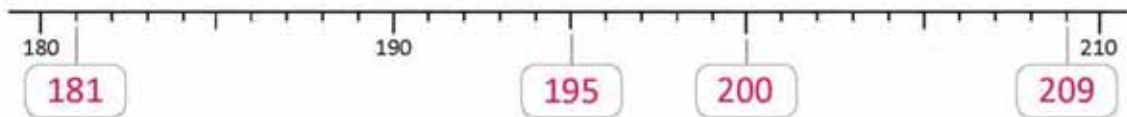
1.22 3桁の数字を数直線上に表す問題を解きましょう。

4.5 学んだことをやってみましょう

1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



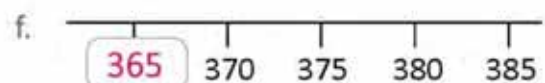
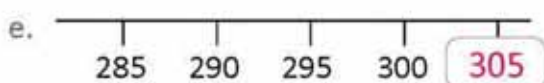
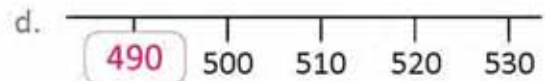
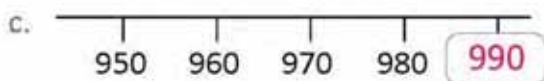
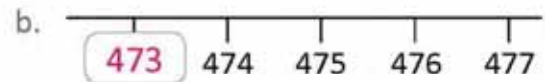
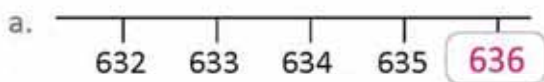
2. それぞれの空欄に当てはまる数字を書きましょう。



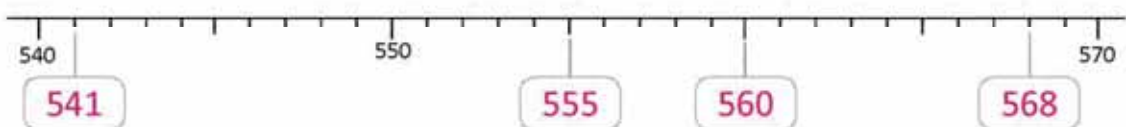
3. 1と2の数字を大きい声で読みましょう。

家で解いてみよう

1. 数直線上に欠けている数字を書きましょう。



2. それぞれの空欄に当てはまる数字を書きましょう。



3. 1と2の数字を家族に読みましょう。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

### 5.1 数直線を使って、3桁の数を比べましょう

#### 考えてみよう

- a. どちらの数がより小さいですか。
- b. どちらの数がより大きいですか。

239

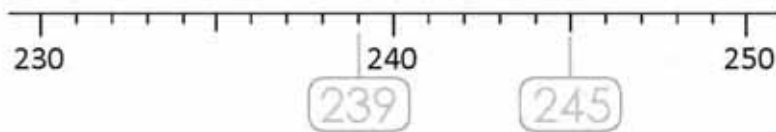
245

#### 1 答えてみよう

数直線を使って数を比べます。



アントニオ



- a. 239は245より左にあります。よって、  
239は245より 小さい。
- b. 245は239より右にあります。よって、  
245は239より 大きい。

#### 2 理解しよう

数を比べる時には、< または > の記号を使います。

< は、**より小さい**という意味です。

> は、**より大きい**という意味です。

よって、「考えてみよう」の数の比較は、以下のように表されます：

- a.  $239 < 245$   
読み方は：  
239は245より小さい。
- b.  $245 > 239$   
読み方は：  
245は239より大きい。

#### 3 解いてみよう

1. 各問で、数を数直線上に表し、< または > を入れましょう。



- a.  $429 < 442$
- b.  $442 > 429$
- c.  $450 > 440$
- d.  $401 < 413$
- e.  $435 > 431$
- f.  $448 < 450$

2. 1.の各問の数字を読みましょう。

a.  $429 < 442$



429は442より小さい。

b.  $442 > 429$

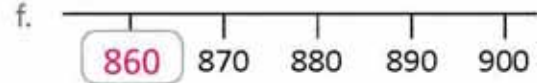
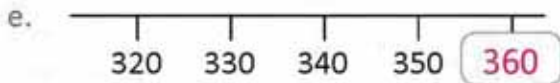
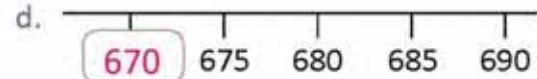
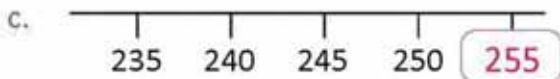
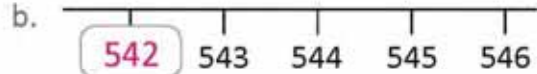
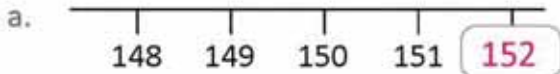


442は429より大きい。



終わったら、次の練習問題を解きましょう。

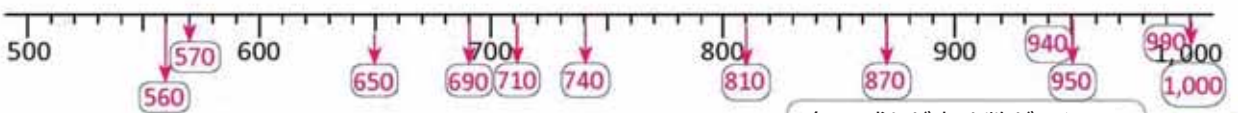
1. 数直線を完成させましょう。



2. 1.の数直線の数字を読みましょう。

### 家で解いてみよう

1. 各問で、数を数直線上に表し、<または>を入れましょう。



各目盛りが表す数がいくつなのかを判別しましょう。



a.  $650 < 690$

b.  $570 > 560$

c.  $1,000 > 990$

d.  $740 > 710$

e.  $810 < 870$

f.  $940 < 950$

2. 1.の各問の数字を家族に読みましょう。

a.  $650 < 690$



650は690より小さい。

b.  $570 > 560$



570は560より大きい。

家族のサイン： \_\_\_\_\_



## 達成の目安：

## 5.1 数直線を使って、3桁の数を比べましょう

**ねらい：**この授業では、生徒たちが数直線上の数字の位置に基づいて3桁の数の比べ方を学ぶことを目指します。（前回の課で扱った内容です）この授業では、ある数字の右にある別の数字はより大きく、左にある別の数字はより小さいという判断基準を習得しなければなりません。さらにこの授業では、初めて  $>$ （より大きい）と  $<$ （より小さい）という不等号を学び、使います。

**重要なポイント：**①では以下のことが生徒たちに期待されます：

1. 前の課で身に付けた知識を用いて、数直線上に数を表すこと。
2. 問a.では、対象とする数が数直線上で他の数より左にあることを見極め、239は245より小さい、という答えにたどり着くこと。
3. 問b.では、対象とする数が数直線上で他の数より右にあることを見極め、245は239より大きい、という答えにたどり着くこと。ここでは不等号の  $<$  や  $>$  は使いません。

②では「考えてみよう」の答えを記号を用いて表す方法を教えます。不等号、 $<$ （より小さい）と  $>$ （より大きい）を紹介します。最後に、③の問1では「考えてみよう」と同じ手順で問題を解きます。不等号が正しく使用できているか確認することが大切です。いくつかの問では、数直線上の順とは異なる順で比較する数が並べられているため、生徒が混乱することがよくあります。確認の際にはその点も注意しましょう。問2では、問1に書かれた不等号の読み方を定着させ、 $>$  と  $<$  の記号の読み方を少しずつ覚えるようにします。左から右に読まなければならないことを常に強調しましょう。例えば、 $239 < 245$ は「239は245より小さい」と読み、「245は239より大きい」と読むのであれば、 $245 > 239$ という順で書かなければなりません。

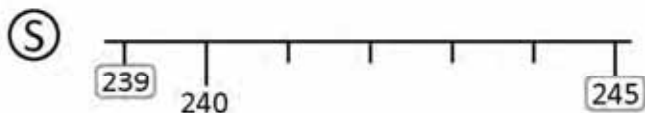
**指導案：** $<$ と $>$ の記号のカードを作成することを勧めます。カードの片側に記号を書き、反対側に読み方を書きましょう。記号の「狭い側」は小さい数を指し、「開いている側」は大きい数を指す、と強調して指導してもよいです。

## 日付：

## 授業：5.1

- Ⓐ a. どちらの数がより小さいですか。  
b. どちらの数がより大きいですか。

239      245



- a. 239は245より小さい。

$$239 < 245$$

- b. 245は239より大きい。

$$245 > 239$$

- Ⓓ 1.  $<$  または  $>$  で、当てはまるものを入れましょう。

a.  $429 \leq 442$

b.  $442 \geq 429$

c.  $450 \geq 440$

宿題：41ページ

## 5.2 位取り表を使って、3桁の数を比べましょう、パート1

### 考えてみよう

- どちらの数がより小さいですか。
- どちらの数がより大きいですか。

397

465

### 1 答えてみよう



アナ

位取り表に数字をあてはめてみます。

百	十	一
3	9	7
4	6	5

百の位を比べます。

- 3は4より小さいため、 $397 < 465$  です。
- 4は3より大きいため、 $465 > 397$  です。

### 理解しよう

3桁の数を比べるには、百の位を比べなければなりません。

### 2 解いてみよう

- 数を比べるために位取り表を使い、線の上に < または > を入れましょう。

例：

百	十	一
1	4	5
2	3	1

145 < 231

百	十	一
5	5	6
7	6	7

a. 556 < 767

百	十	一
3	4	9
1	3	2

b. 349 > 132

- 線の上に < または > を入れ、数の比較の読み方を練習しましょう。

a. 725 > 432

b. 299 < 501

c. 742 < 890

### 家で解いてみよう

数を比べるために位取り表を使い、線の上に < または > を入れましょう。

百	十	一
5	6	4
8	7	6

a. 564 < 876

百	十	一
4	1	9
2	8	7

b. 419 > 287

百	十	一
6	8	1
7	1	2

c. 681 < 712

家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

5.2 百の位の値が異なる3桁の数を、位取り表を使って比べましょう

**ねらい：**この授業では、位取り表に数を当てはめ、百の位を比較して、より大きい（または小さい）数字は百の位の値がより大きい（または小さい）数字である、と判断する方法を学びます。この授業では、不等号の  $>$ （より大きい）と  $<$ （より小さい）を使った数の比較はもう行いません。前回の授業で取り上げたためです。

**重要なポイント：**「考えてみよう」の①では、2つの数が与えられ、どちらがより大きく、どちらがより小さいか判断します。この問題は以下の手順で解きます：

1. 位取り表に比較対象の数を当てはめます。
2. それぞれの数の百の位を比較します。百の位の値がより小さい数がより小さい数、百の位の値がより大きい数がより大きい数です。数直線上で百の位の値が他の数字の百の位の値より小さければ、その数字は左にあることを考えれば、直感的に、この考え方が正しいことが分かるでしょう。

②では、生徒が考えた解答の記号が正答と合っているか、またその解答は各数の百の位の値を比較して得られたものかを確認しなければなりません。

## メモ：

---



---



---



---

## 日付：

## 授業：5.2

- Ⓐ a. どちらの数がより小さいですか。  
b. どちらの数がより大きいですか。

397      465

Ⓒ

百	十	一
3	9	7
4	6	5

- a. 3は4より小さいため：

$$397 < 465$$

- b. 4は3より大きいため：

$$465 > 397$$

1.  $<$  または  $>$  で、当てはまるものを入れましょう。

a.  $556 \leq 767$

b.  $349 \geq 132$

宿題：42ページ

## 5.3 位取り表を使って、3桁の数を比べましょう、パート2

### 考えてみよう

- a. どちらの数がより小さいですか。  
b. どちらの数がより大きいですか。

465

483

### 答えてみよう



マリオ

1

位取り表に数字をあてはめてみます。

百	十	一
4	6	5
4	8	3

百の位は同じです。



十の位を比べます。

- a. 6は8より小さいため、 $465 < 483$  です。  
b. 8は6より大きいため、 $483 > 465$  です。

### 理解しよう

百の位が等しい3桁の数を比べるには、十の位を比べなければなりません。

2

どうなるでしょうか。

465と464を比べましょう。

百	十	一
4	6	5
4	6	4

百の位と一の位が等しい場合は、一の位を比べなければなりません。その結果、 $465 > 464$ です。

### 解いてみよう

- 3 1. 数を比べるために位取り表を使い、線の上に < または > を入れましょう。

百	十	一
2	4	7
2	6	3

百	十	一
5	8	6
5	4	7

百	十	一
3	2	9
3	2	5

- a.  $247 < 263$       b.  $586 > 547$       c.  $329 > 325$

2. 線の上に < または > を入れ、数を比較して読み方を練習しましょう。

- a.  $452 > 438$       b.  $610 > 609$       c.  $923 < 927$

### 家で解いてみよう

数を比べるために位取り表を使い、線の上に < または > を入れましょう。

百	十	一
1	6	7
1	9	8

百	十	一
7	5	1
7	6	7

百	十	一
2	7	8
2	4	9

- a.  $167 < 198$       b.  $751 < 767$       c.  $278 > 249$

家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

5.3 百の位や十の位の値が同じ3桁の数を、位取り表を使って比べましょう

**ねらい：** 前回の授業では、2つの数の百の位の値が異なる場合を分析しました。この授業では同じ判断基準を十の位や一の位に応用し、百の位や十の位の値が同じ数を扱います。この授業でも引き続き、数を比較する際の不等号、 $>$ （より大きい）と $<$ （より小さい）の使用に重点を置きます。

**重要なポイント：** ①と②では、与えられた2つの数のうち、どちらがより小さくより大きいかわかれます。位取り表を使い、百の位を比べると（前回の授業で行った通りに）、値が同じことに気づくでしょう。百の位が同じため、数を比較する他の方法を探さなければなりません。十の位（次の位）の値を比較するように生徒たちを指導しましょう。十の位の値が同じ場合には、それまでに行った手順を応用して、一の位を比較しなければならないと生徒たちが発見することが期待されます。一の位の比較に基づいて、どちらの数がより小さく、どちらがより大きいかを見極めます。

③では、生徒が考えた解答の記号が正答と合っているか、またその解答は各数の十の位または一の位の値を比較して得られたものかを確認しなければなりません。

## メモ：

---



---



---



---



---



---



---



---

## 日付：

## 授業：5.3

- Ⓐ a. どちらの数がより小さいですか。  
b. どちらの数がより大きいですか。

465            483

Ⓒ

百	十	一
4	6	5
4	8	3

- a. 6は8より小さいため：

$$465 < 483$$

- b. 8は6より大きいため：

$$483 > 465$$

- Ⓔ 465と464を比べましょう。

百	十	一
4	6	5
4	6	4

5は4より大きいため：

$$465 \geq 464$$

- Ⓕ 1.<または>で、当てはまるものを入れましょう。

a.  $247 < 263$

b.  $586 \geq 547$

宿題：43ページ

# レッスン 5

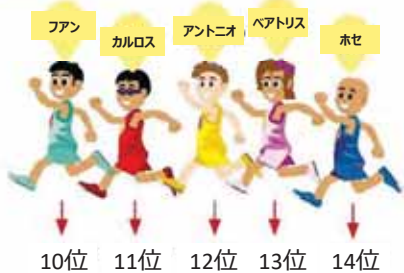
## 5.4 20番目までの序数を理解して、読みましょう

### 考えてみよう

フアンは10位です。ホセは何位ですか。



### 1 答えてみよう



ホセの位置まで序数を数えます。

答え：ホセは 14位 で、  
十四位と読みます。



アントニオ

### 理解しよう

序数は順位を表すのに使います。

11番目：十一番目  
12番目：十二番目  
13番目：十三番目  
14番目：十四番目  
15番目：十五番目

16番目：十六番目  
17番目：十七番目  
18番目：十八番目  
19番目：十九番目  
20番目：二十番目

### 2 解いてみよう

1. それぞれの子は何位か書き、大きい声で読みましょう。

例：カルロス： 11位

a. アントニオ： 12位

b. ホセ： 14位

2. 序数を読みましょう。

a. 10番目から20番目の順で。

b. 20番目から10番目の順で。

c. ランダムに。

### 家で解いてみよう

1. それぞれの子は何位か書き、大きい声で読みましょう。

a. フアン： 10位

b. カルロス： 11位

c. ヘアトリス： 13位

2. 序数を家族に読みましょう。

a. 10番目から20番目の順で。

b. 20番目から10番目の順で。

c. ランダムに。

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

5.4 20番目までの序数を読み、書きましょう。その際、ある対象物の他のものとの位置関係を、基準点として確認しましょう。

**ねらい：**生徒たちは、第1学年で10番目までの序数とその使い方を学びました。この授業ではその知識を20番目まで広げます。それらの数字についての生徒たちの理解を応用し、ある対象物の位置を基準点として関連づけます。

**重要なポイント：**①では、フアンの順位（第1学年で扱った最後の数字です）に基づいて、さらに数えていき、10位から4つ後の位置としてホセの位置を特定します。1から20までの数字の知識を活用して、「答えてみよう」に記載された序数とそれらの数字とを関連づけることができます。読み方は10番目から数えた時の位置と対応しています。つまり、ホセは14位ですが、10位から4番目と解釈することができます。「理解しよう」では、20番目の読み方に注意しながら、以上の読み方を重点的に指導しましょう。20番目は「二十番目」と読み、他の読み方はできないことを強調しましょう。

②では、「考えてみよう」のイラストに基づいてそれぞれの子どもの順位を特定して、各問を解きます。該当する序数を紐づけて、最終的に読み方も覚えます。ユニット2の最初の授業には、教科書の153・155ページのタイルを持参するよう指示しましょう。

**メモ：**

---

---

---

---

---

---

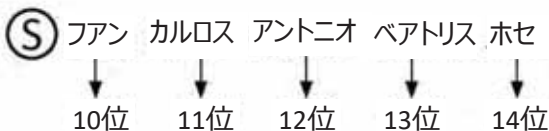
---

---

**日付：**

**授業：** 5.4

Ⓐ ホセは何位ですか。



答え：ホセは 14 位です。

↓

十四

Ⓡ 1. それぞれの子の順位を書きましょう。

a. アントニオ：12位

b. ホセ：14位

**宿題：** 44ページ

達成の目安：

5.5 1,000までの数の問題を解きましょう。

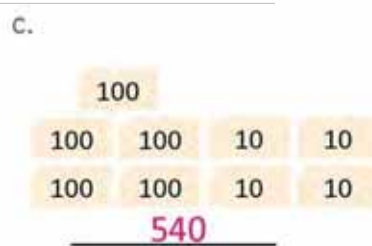
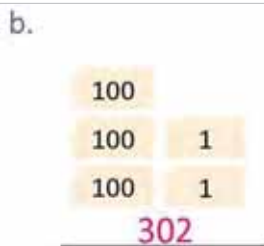
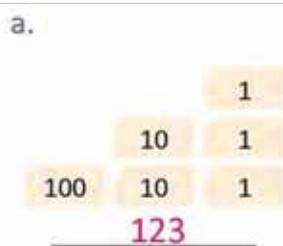
5.5 学んだことをやってみましょう

1. 当てはまる数字を入れましょう。

a. 1個の100 = 100 個の1

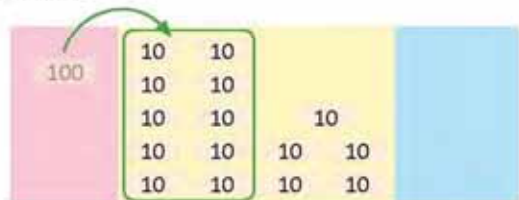
b. 1個の1,000 = 10 個の100

2. カードが作る数字を書き、大きい声で読みましょう。



3. 以下の数字にはいくつの10が含まれているでしょうか。

a. 150



答え： 15 個の10があります。

b. 180



答え： 18 個の10があります。

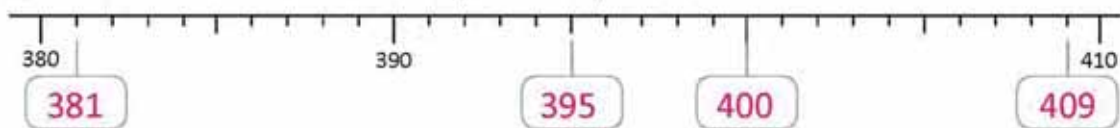
4. 計算をしましょう。

a.  $90 + 70 = 160$

b.  $140 - 70 = 70$

c.  $1,000 - 400 = 600$

5. それぞれの空欄に当てはまる数字を書きましょう。



6. 1つ前の問題の数直線の数字を読みましょう。

7. 線の上に < または > を入れ、数を比較して読み方を練習しましょう。

a.  $213 < 549$

b.  $231 > 203$

c.  $254 < 258$

8. それぞれの車に対応する序数を書きましょう。

a. 赤： 12番目

b. 緑： 15番目

c. 黄色： 18番目





### 家で解いてみよう

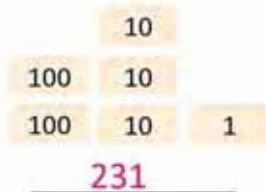
1. 当てはまる数字を入れましょう。

a. 100個の1 = 1 個の100

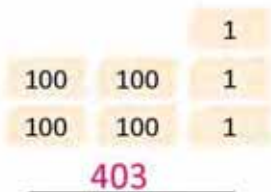
b. 10個の100 = 1 個の1,000

2. カードが作る数字を書き、大きい声で読みましょう。

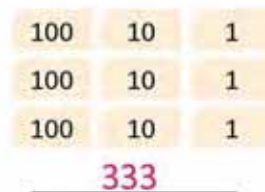
a.



b.

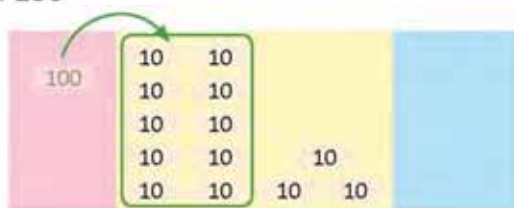


c.



3. 以下の数字にはいくつの10が含まれているでしょうか。

a. 130



答え： 13 個の10があります。

b. 190



答え： 19 個の10があります。

4. 計算をしましょう。

a.  $80 + 40 = 120$

b.  $150 - 60 = 90$

c.  $1,000 - 700 = 300$

5. それぞれの空欄に当てはまる数字を書きましょう。



6. 1つ前の問題の数直線の数字を読みましょう。

7. 線の上に < または > を入れ、数を比較して読み方を練習しましょう。

a.  $357 > 125$

b.  $409 < 487$

c.  $758 > 752$

8. それぞれの車に対応する序数を書きましょう。

a. オレンジ： 14番目

b. 紫： 16番目

c. 青： 19番目



家族のサイン： \_\_\_\_\_











# ユニット2

## たし算をさらに学習しましょう

- 1 このユニットのねらい
- 加数が3桁で、和が1,000以下のたし算を、縦書きで解き、日常生活の課題を解決すること。

2 学習の流れと範囲

### 1学年

#### ユニット3：横書きで10までの数のたし算とひき算をしましょう

- 横書きのたし算をしましょう
- 横書きのひき算をしましょう
- 横書きで3つの数のたし算とひき算をしましょう

#### ユニット5：横書きで20までの数のたし算とひき算をしましょう

- 10ともうひとつの数のたし算をしましょう
- 2桁までの数のたし算をしましょう
- 2桁の数からひとつの数をひき算しましょう
- 10以下の数をひとつひき算しましょう
- 横書きで3つの数のたし算とひき算をしましょう

#### ユニット7：縦書きでたし算とひき算をしましょう。

- 縦書きで2桁までの数をたし算しましょう
- 縦書きで2桁までの数をひき算しましょう

### 2学年

#### ユニット2：たし算をさらに学習しましょう

- たし算のやり方を思い出しましょう
- 繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう
- たし算の性質を知りましょう
- 繰り上がりのある、または繰り上がりのない3桁までの数のたし算をしましょう

### 3学年

#### ユニット2：4桁までの数のたし算とひき算

- 繰り上がりのない4桁までの数のたし算
- 3回まで繰り上がりをする4桁までの数のたし算
- 4桁までの3つの数のたし算
- 繰り下がりなし・繰り下がり1回の4桁までの数のひき算
- 繰り下がり2回または3回の4桁までの数のひき算

### 3 このユニットの構成

レッスン	授業	タイトル
<b>1</b> たし算のやり方を思い出しましょう。	1	学んだことをやってみましょう
	2	学んだことをやってみましょう
	3	学んだことをやってみましょう
<b>2</b> 繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう	1	繰り上がりのある2桁の数のたし算をしましょう
	2	十の位への繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう
	3	百の位への繰り上がりのある2桁の数のたし算をしましょう
	4	繰り上がり2回の2桁の数のたし算をしましょう
	5	学んだことをやってみましょう
	6	学んだことをやってみましょう
<b>3</b> たし算の性質を確認しましょう	1	加数を入れ替えてたし算をしましょう
	2	かっこを使ってたし算をしましょう
<b>4</b> 繰り上がりのある、または繰り上がりのない3桁までの数のたし算をしましょう	1	繰り上がりなしの3桁までの数のたし算をしましょう
	2	十の位への繰り上がりのある3桁の数のたし算をしましょう
	3	十の位への繰り上がりのある3桁までの数のたし算をしましょう
	4	百の位への繰り上がりのある3桁までの数のたし算をしましょう
	5	繰り上がり2回の3桁の数のたし算をしましょう



- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| 6 | 繰り上がり2回の3桁までの数のたし算をしましょう    |
| 7 | 繰り上がり2回または3回の3桁の数のたし算をしましょう |
| 8 | 学んだことをやってみましょう              |
| 9 | 学んだことをやってみましょう              |

- |   |         |
|---|---------|
| 1 | ユニットテスト |
|---|---------|

授業総数

+ユニットテスト

20

## 4 各レッスンの要点

### レッスン1

#### たし算のやり方を思い出しましょう（全3コマ）

この課では、復習として第1学年で取り扱ったたし算の問題を再度扱います。このユニットの学習では、たし算の知識を習得していることが必要条件です。例えば、縦書きの計算で繰り上がりの概念を理解するためには、第1学年のユニット5で扱った、 $u+u=1u$ （ $u$ は一の位の値）のような問題を理解していることが不可欠です。1桁の数と1桁の数のたし算、2桁の数と2桁の数のたし算といった知識の構築も、重要な概念のひとつです。縦書きでの計算ができるようになるための基礎になります。そのためこの課では、 $DU+DU$ または $DU+U$ （ $D$ は十の位の値、 $u$ は一の位の値）の形の繰り上がりのないたし算の能力を強化します。

### レッスン2

#### 繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう（全6コマ）

この課では、たし算の式での繰り上がりの概念を教えます。十の位や百の位への繰り上がり、繰り上がりが1回の場合や2回の場合を扱います。学習プロセスにおいては、様々な場合のたし算、すでに身に付けた知識を応用し、深められるたし算を段階的に紹介します。初めに、一の位で部分的なたし算を行うと、和が $1u$ （ $u$ は一の位の値）の形になる場合を扱います。そのような問題では、一の位と十の位の値の間で相互作用が働き、10個の1を1個の10に変換し、十の位の値に1を加え、十の位の部分的なたし算にも1を加えます。**繰り上がる1は加数と総和を分ける線の下に記載するよう、強調することが重要です。**10個の1を1個の10に変換する際には、**繰り上がる数は、加数ではなく総和の一部となるためです。**一の位と一の位をたした総和の一部となるのです。

その後、十の位で部分的なたし算を行うと和が $1u$ （ $u$ は一の位の値）になる場合を扱います。ここでは、十の位の計算を行っていることを確認することが重要です。例えば、12個の10は、1個の100と余りを2個の10に変換できます。生徒たちにとっては、10個の1を1個の10に変換するほうが10個の10を1個の100に変換するより簡単なことがあります。100への変換は百の位への変換を伴うからです。まずは一の位同士をたして十の位に繰り上がる場合の手順を身に付け、その後同じ概念を百の位への繰り上がりにも広げることがねらいです。最後に、十の位と百の位で2回繰り上がりがある場合を扱います。1回のみ繰り上がりがある場合で学んだ知識を応用し、1つのたし算で繰り上がりを組み合わせることが期待されます。

## レッスン3

### たし算の性質を確認しましょう（全2コマ）

この課の目的は、たし算の可換性および結合性を定着させることです。可換性、結合性のような言葉を使わずに直感的に理解できる方法でそれらのテーマを扱います。3項以上のたし算をする最も簡単な方法を見つけるため、それらの性質を活用することを目的とします。

## レッスン4

### 繰り上がりのある、または繰り上がりのない3桁までの数のたし算をしましょう（全9コマ）

この課の9授業では、前回までの授業で扱った内容、繰り上がりあり・なしの、加数が3桁までの数のたし算の知識を広げます。一の位と一の位をたし、十の位と十の位をたすという考え方を広げ、百の位と百の位をたします。その結果、3つの部分的なたし算を行うこととなります。内容を理解しやすくするため、3桁のたし算の例のそれぞれで、数字カードを使います。

その後、加数が3桁までで十の位への繰り上がりを伴う場合を扱い、最初の加数が3桁の場合を段階的に取り上げます。さらに、加数のひとつが2桁または1桁の場合、加数のひとつは3桁であっても、部分的なたし算は多くても2回しか行われない場合を取り上げます。続けて、加数が3桁の数で、百の位への繰り上がりが1回ある場合を扱います。前の課で扱った百の位への繰り上がりを伴う場合との違いは、前の課では繰り上がった百の位の値がそのまま総和の百の位の値になったのに対し、この課では繰り上がった百の位の値を含めて部分的なたし算を行わなければならない点です。

最後に、十の位、百の位、千の位に、3回繰り上がりがある場合を取り上げます。総和が1,000になる特殊な場合も取り上げます。このような問題ではそれぞれの位の部分的なたし算が10になるため、生徒たちにとって難しいことがよくあります。

# レッスン

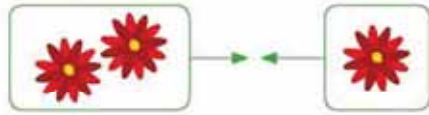
# 1

## たし算のやり方を思い出しましょう

### 1.1 学んだことをやってみましょう

1. 和を求めましょう：

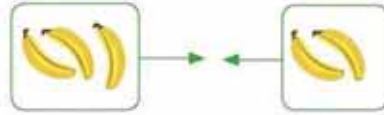
a.



式： $2 + 1 = 3$

答え：3本

b.



式： $3 + 2 = 5$

答え：5本

2. 次のたし算をしましょう。

a.  $2 + 4 = 6$

b.  $3 + 5 = 8$

c.  $1 + 8 = 9$

d.  $6 + 2 = 8$

e.  $4 + 3 = 7$

f.  $5 + 2 = 7$

g.  $2 + 3 = 5$

h.  $4 + 1 = 5$

i.  $2 + 2 = 4$

j.  $3 + 3 = 6$

k.  $0 + 8 = 8$

l.  $7 + 0 = 7$

3. 次のたし算をしましょう。

a.  $7 + 3 = 10$

b.  $2 + 8 = 10$

c.  $6 + 4 = 10$

d.  $1 + 9 = 10$

e.  $5 + 5 = 10$

f.  $4 + 7 = 11$

g.  $6 + 5 = 11$

h.  $7 + 5 = 12$

i.  $8 + 7 = 15$

j.  $4 + 9 = 13$

k.  $6 + 8 = 14$

l.  $7 + 6 = 13$

m.  $8 + 4 = 12$

n.  $5 + 8 = 13$

ñ.  $2 + 9 = 11$

o.  $7 + 7 = 14$

p.  $6 + 6 = 12$

q.  $9 + 9 = 18$

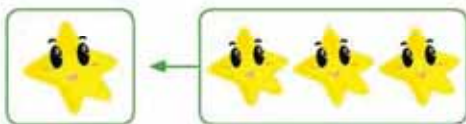
達成の目安：

1.1 1桁の数字のたし算の問題を解きましょう。

家で解いてみよう

1. 和を求めましょう：

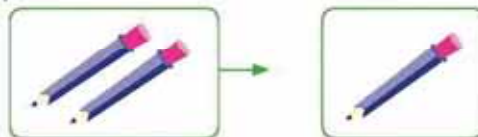
a.



式： $1 + 3 = 4$

答え：4 個

b.



式： $2 + 1 = 3$

答え：3 本

2. 次のたし算をしましょう。

a.  $3 + 2 = 5$

b.  $4 + 5 = 9$

c.  $6 + 1 = 7$

d.  $7 + 2 = 9$

e.  $5 + 3 = 8$

f.  $2 + 6 = 8$

g.  $2 + 5 = 7$

h.  $6 + 3 = 9$

i.  $1 + 1 = 2$

j.  $4 + 4 = 8$

k.  $0 + 9 = 9$

l.  $3 + 0 = 3$

3. 次のたし算をしましょう。

a.  $8 + 2 = 10$

b.  $3 + 7 = 10$

c.  $9 + 1 = 10$

d.  $5 + 5 = 10$

e.  $4 + 6 = 10$

f.  $8 + 3 = 11$

g.  $9 + 6 = 15$

h.  $7 + 4 = 11$

i.  $5 + 7 = 12$

j.  $6 + 8 = 14$

k.  $5 + 6 = 11$

l.  $4 + 8 = 12$

m.  $3 + 9 = 12$

n.  $7 + 8 = 15$

ñ.  $7 + 9 = 16$

o.  $9 + 9 = 18$

p.  $8 + 8 = 16$

q.  $7 + 7 = 14$

家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

1.2 繰り上がりのない縦書きのたし算の問題を解きましょう。

### 1.2 学んだことをやってみましょう

次の問題を解きましょう。

a.  $34 + 12$

	+	-
	3	4
+	1	2
<hr/>		
	4	6

b.  $26 + 31$

	+	-
	2	6
+	3	1
<hr/>		
	5	7

c.  $42 + 35$

	+	-
	4	2
+	3	5
<hr/>		
	7	7

d.  $58 + 21$

	5	8
+	2	1
<hr/>		
	7	9

e.  $14 + 63$

	1	4
+	6	3
<hr/>		
	7	7

f.  $25 + 13$

	2	5
+	1	3
<hr/>		
	3	8

g.  $46 + 32$

	4	6
+	3	2
<hr/>		
	7	8

h.  $37 + 11$

	3	7
+	1	1
<hr/>		
	4	8

i.  $62 + 23$

	6	2
+	2	3
<hr/>		
	8	5

j.  $56 + 40$

	5	6
+	4	0
<hr/>		
	9	6

k.  $66 + 20$

	6	6
+	2	0
<hr/>		
	8	6

l.  $30 + 44$

	3	0
+	4	4
<hr/>		
	7	4

m.  $10 + 72$

	1	0
+	7	2
<hr/>		
	8	2

n.  $50 + 30$

	5	0
+	3	0
<hr/>		
	8	0

ñ.  $30 + 40$

	3	0
+	4	0
<hr/>		
	7	0

家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $28 + 51$

	+	-
	2	8
+	5	1
	7	9

b.  $32 + 27$

	+	-
	3	2
+	2	7
	5	9

c.  $15 + 61$

	+	-
	1	5
+	6	1
	7	6

d.  $41 + 36$

	4	1
+	3	6
	7	7

e.  $71 + 18$

	7	1
+	1	8
	8	9

f.  $52 + 43$

	5	2
+	4	3
	9	5

g.  $35 + 54$

	3	5
+	5	4
	8	9

h.  $14 + 64$

	1	4
+	6	4
	7	8

i.  $45 + 22$

	4	5
+	2	2
	6	7

j.  $79 + 10$

	7	9
+	1	0
	8	9

k.  $29 + 40$

	2	9
+	4	0
	6	9

l.  $30 + 48$

	3	0
+	4	8
	7	8

m.  $60 + 17$

	6	0
+	1	7
	7	7

n.  $40 + 20$

	4	0
+	2	0
	6	0

ñ.  $70 + 20$

	7	0
+	2	0
	9	0

達成の目安：

1.3 繰り上がりのない縦書きのたし算の、特別な場合の問題を解きましょう。

### 1.3 学んだことをやってみましょう

次の問題を解きましょう。

a.  $23 + 5$

	+	-
	2	3
+		5
<hr/>		
	2	8

b.  $36 + 3$

	+	-
	3	6
+		3
<hr/>		
	3	9

c.  $4 + 43$

	+	-
		4
+	4	3
<hr/>		
	4	7

d.  $54 + 3$

	5	4
+		3
<hr/>		
	5	7

e.  $61 + 7$

	6	1
+		7
<hr/>		
	6	8

f.  $5 + 72$

		5
+	7	2
<hr/>		
	7	7

g.  $87 + 2$

	8	7
+		2
<hr/>		
	8	9

h.  $93 + 6$

	9	3
+		6
<hr/>		
	9	9

i.  $8 + 51$

		8
+	5	1
<hr/>		
	5	9

j.  $36 + 3$

	3	6
+		3
<hr/>		
	3	9

k.  $21 + 4$

	2	1
+		4
<hr/>		
	2	5

l.  $7 + 42$

		7
+	4	2
<hr/>		
	4	9

m.  $40 + 6$

	4	0
+		6
<hr/>		
	4	6

n.  $70 + 8$

	7	0
+		8
<hr/>		
	7	8

ñ.  $2 + 60$

		2
+	6	0
<hr/>		
	6	2



## 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $54 + 2$

	+	-
	5	4
+		2
<hr/>		
	5	6

b.  $46 + 3$

	+	-
	4	6
+		3
<hr/>		
	4	9

c.  $4 + 53$

	+	-
		4
+	5	3
<hr/>		
	5	7

d.  $64 + 5$

	6	4
+		5
<hr/>		
	6	9

e.  $72 + 6$

	7	2
+		6
<hr/>		
	7	8

f.  $7 + 71$

		7
+	7	1
<hr/>		
	7	8

g.  $91 + 8$

	9	1
+		8
<hr/>		
	9	9

h.  $83 + 4$

	8	3
+		4
<hr/>		
	8	7

i.  $3 + 55$

		3
+	5	5
<hr/>		
	5	8

j.  $42 + 4$

	4	2
+		4
<hr/>		
	4	6

k.  $31 + 5$

	3	1
+		5
<hr/>		
	3	6

l.  $6 + 23$

		6
+	2	3
<hr/>		
	2	9

m.  $50 + 8$

	5	0
+		8
<hr/>		
	5	8

n.  $60 + 7$

	6	0
+		7
<hr/>		
	6	7

ñ.  $9 + 70$

		9
+	7	0
<hr/>		
	7	9

家族のサイン： \_\_\_\_\_

# レッスン

# 2

## 繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう

### 2.1 繰り上がりのある2桁の数のたし算をしましょう

#### 考えてみよう

青いペンキの缶が34缶と、白いペンキの缶が28缶あります。  
全部で何缶ありますか。 式： $34 + 28$

#### ① 答えてみよう

位取り表とタイルを使います：

① 加数、記号、線を書きます。



	+	-
	3	4
+	2	8

② 一の位の値をたして、十の位の位置に1を書きます（円の中）。

	+	-
	3	4
+	2	8
	①	2

一の位から十の位に繰り上がる1は、小さく書かないといけません。



③ 十の位の値と繰り上がる数をたします。和を書いて、円の中の1はもう線を引いて消すことができます。

	+	-
	3	4
+	2	8
	①	2
	6	2

答え：62 缶。

#### 理解しよう

一の位の値をたした和が9より大きい時：

- ① 加数、記号、線をマス目の中に書き入れます。
- ② 一の位の値をたし、十の位に1を書き入れます。
- ③ 十の位の値と繰り上がった数をたします。

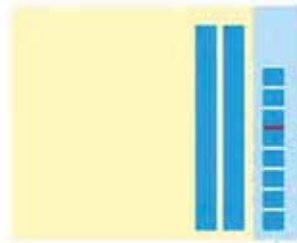
このようなたし算を、**繰り上がりのあるたし算**と呼びます。

①



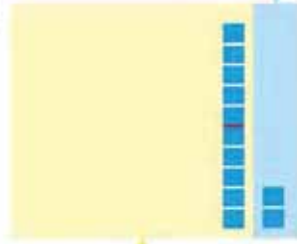
青いペンキ。

②



白いペンキ。

③



たし終わったら、繰り上がりの数は線を引いて消してもよいです。

	+	-
	3	4
+	2	8
	①	2
	6	2



② どうなるでしょうか。

12+28の答えは何ですか。

縦書き

	+	-
	1	2
+	2	8
	①	0
	4	0



## 解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $35 + 27$

	十	一
	3	5
+	2	7
	① 6	2

b.  $28 + 46$

	十	一
	2	8
+	4	6
	① 7	4

c.  $59 + 21$

	十	一
	5	9
+	2	1
	① 8	0

d.  $13 + 38$

	1	3
+	3	8
	① 5	1

e.  $64 + 27$

	6	4
+	2	7
	① 9	1

f.  $14 + 26$

	1	4
+	2	6
	① 4	0

2. アナは土曜日は24個パイナップルを売り、日曜日は19個売りました。週末売ったパイナップルは全部でいくつですか。

式： $24 + 19$

答え：43 個

	2	4
+	1	9
	① 4	3

## 家で解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $38 + 25$

	3	8
+	2	5
	① 6	3

b.  $29 + 16$

	2	9
+	1	6
	① 4	5

c.  $24 + 46$

	2	4
+	4	6
	① 7	0

d.  $64 + 28$

	6	4
+	2	8
	① 9	2

e.  $17 + 38$

	1	7
+	3	8
	① 5	5

f.  $23 + 57$

	2	3
+	5	7
	① 8	0

2. カロスがかごに23個のりんごを入れ、別のかごに18個入れました。2つのかごのりんごを合わせるといくつですか。

式： $23 + 18$

答え：41 個

	2	3
+	1	8
	① 4	1

家族のサイン： \_\_\_\_\_

### 達成の目安：

2.1 DU + DU (Dは十の位の値、Uは一の位の値) の形の十の位への繰り上がりを伴うたし算を縦書きで計算しましょう。

**ねらい：**この授業では、初めて繰り上がりの概念を学びます。そのため、以下の2点の重要な観点に重点を置いてください：

1. 一の位から十の位に繰り上がる意味。
2. 縦書きでたし算を行う手順。

**重要なポイント：**①では、生徒たちは縦書きで加数を書き入れ、一の位をたすと和が10より大きくなることに気づきます。そこで、得られた値、12を正しく書き入れるよう指導が必要です。この場合には2を一の位に、1を十の位に（小さく、線の下に）書くよう指示します。タイルを使って表された数を見せ、10個の1は1個の10に変換できることを理解させることを勧めます。

その後、②では一の位の値の和が10になるため、一の位に0、十の位に1を入れる場合を扱います。最後に、「解いてみよう」の部分の a.、b.、d.、e. では「考えてみよう」で扱った種類の問題を取り上げます。一方 c. と f. では「どうなるでしょうか。」で扱った種類の問題を取り上げます。それから、繰り上がりのあるたし算の応用を紹介します。「家で解いてみよう」の部分にも同様の問題が組まれています。和が10になる問題では、一の位に0を入れ、空欄のままにしていらないか確認しましょう。問2では3段階で問題を解かなければなりません。計算式を書き、式を解き、答えを書きます。

1つ前のユニットでは数字カードの使用を取り入れました。しかしこのユニットの初めでは再度タイルを使います。第1学年ではたし算を学ぶときにまずタイルを用いたからです。後で、全てを数字カードで学習するようになります。繰り上がる数に線を引いて消すかどうかは生徒が決めます。教師の判断で決めても構いません。次回の授業には教科書157・159ページの数字カードを持って来るのを忘れないよう、生徒に指示しましょう。

**教材：**手順を説明するためのタイル、「教員用指導書」の271～281ページにあるタイルを使うことができます。

日付：

授業：2.1

- Ⓐ 34缶の青いペンキ。28缶の白いペンキ。  
合計で何缶ありますか。

- Ⓒ 式：34 + 28

$$\begin{array}{r} 34 \\ + 28 \\ \hline 62 \end{array}$$

答え：62缶。

- Ⓓ 12+28の答えは何ですか。

$$\begin{array}{r} 12 \\ + 28 \\ \hline 40 \end{array}$$

- Ⓔ 1. 次の問題を解きましょう。

a. 
$$\begin{array}{r} 35 \\ + 27 \\ \hline 62 \end{array}$$

b. 
$$\begin{array}{r} 28 \\ + 46 \\ \hline 74 \end{array}$$

宿題：55ページ

# レッスン 2

## 2.2 十の位への繰り上がりのある2桁までの数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

パーティーに37人の子どもと8人の大人が参加します。全部で何人パーティーに参加しますか。

式： $37 + 8$

### ① 答えてみよう

位取り表とタイルを使います：

① 加数、記号、線を書きます。



カルロス

	+	-
	3	7
+		8

8は十の位を持たないので、一の位の位置に書き入れるのを忘れないようにしましょう。



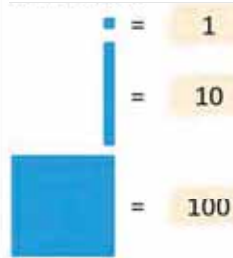
② 一の位の値をたして、十の位の位置に1を書きます（円の中）。

	+	-
	3	7
+		8
	①	5

③ 十の位の値と繰り上がる数をたします。和を書いて、円の中の1はもう線を引いて消すことができます。

	+	-
	3	7
+		8
	①	5
	4	5

タイルを数字カードと入れ替えることができるのを思い出しましょう。

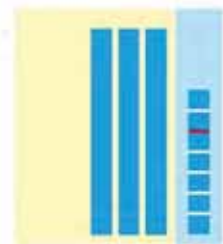


答え：45人

### 理解しよう

縦書きでたし算をする時には、加数を対応する位の位置に書き入れなければいけません。

①



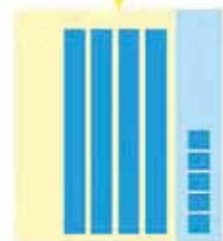
子どもたち

②



大人

③



② どうなるでしょうか。

$3 + 27$ の答えは何ですか。

縦書き

	+	-
		3
+	2	7
	①	0

	+	-
		3
+	2	7
	①	0
	3	0

答えは同じです。

10	1	1
10	1	1
10	1	1
10	1	1

## 解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $47 + 9$

	十	一
	4	7
+		9
	①5	6

b.  $58 + 4$

	十	一
	5	8
+		4
	①6	2

c.  $8 + 46$

	十	一
		8
+	4	6
	①5	4

d.  $7 + 36$

		7
+	3	6
	①4	3

e.  $32 + 8$

	3	2
+		8
	①4	0

f.  $3 + 67$

		3
+	6	7
	①7	0

2. ベアトリスは1週間で、電気代として7ドル、別の費用として24ドル使いました。1週間で何ドル使いましたか。

式： $7 + 24$

答え：31ドル

		7
+	2	4
	①3	1

## 家で解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $67 + 5$

	6	7
+		5
	①7	2

b.  $34 + 9$

	3	4
+		9
	①4	3

c.  $8 + 57$

		8
+	5	7
	①6	5

d.  $4 + 78$

		4
+	7	8
	①8	2

e.  $84 + 6$

	8	4
+		6
	①9	0

f.  $5 + 45$

		5
+	4	5
	①5	0

2. コスタデルソルのビーチへの遠足に38人登録し、さらに5人到着しました。全部で何人が遠足に行きましたか。

式： $38 + 5$

答え：43人

	3	8
+		5
	①4	3

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

2.2 十の位への繰り上がりを伴う、2桁の数と1桁の数のたし算を縦書きで計算しましょう。

**ねらい：**この授業で学ぶ重要な点は、**十の位への繰り上がりを伴う、桁の数が異なる数字同士のたし算**です。レッスン1の授業3では、桁の数が異なる加数のたし算を練習し、加数の入れ方を重点的に学びました。そのためこの授業では、前回の授業で学んだ、数の書き入れ方や十の位への繰り上がりのやり方に関する内容を応用させます。

**重要なポイント：**①では、最初のステップとして、1桁の数を正しく書き入れるようにすることが非常に重要です。十の位ではなく一の位のスペースに書き入れなくてはなりません。その後たし算を行う時には、前回の授業で扱った内容を応用しますが、十の位の値をたす際には2桁の数字の十の位の値と繰り上がる数のみをたします。

その後②では、変化形として、1つ目の加数が1桁の数である問題を扱います。前の問題と同様に、縦書きでの数字の書き入れ方に注意なくてはなりません。この問題では「考えてみよう」よりも間違いが多くなります。さらに、この問題を利用して、一の位の値の和が10になり、一の位に0、十の位に1を繰り上げなければならない場合も分析しましょう。

「解いてみよう」の部分では、2つ目の加数が1桁の数である問題を2つ、1つ目の加数が1桁の数である問題を2つ紹介します。その後、同様の問題をさらに1つずつ、ただし一の位の値の和が10になる特殊な場合を取り上げます。そして、応用問題では指示された3段階に従って問題を解かなければなりません。計算式を書き、式を解き、答えを書く、という流れです。

「どうなるでしょうか。」の部分では、タイルに代わり数字カードを教具として使用することを提案します。タイルは、さらに大きい数量を表すには扱いにくいからです。

**教材：**手順を説明するために「教員用指導書」の数字カードとタイルを使用できます。後で追加情報として紹介される教具です。

**日付：****授業：** 2.2

- Ⓐ 分析 37人の子どもたち。  
8人の大人。  
何人いますか。

- Ⓒ 式： $37 + 8$

$$\begin{array}{r} 37 \\ + 8 \\ \hline 45 \end{array}$$

答え：45人。

- Ⓓ  $3+27$ の答えは何ですか。

$$\begin{array}{r} 3 \\ + 27 \\ \hline 30 \end{array}$$

- Ⓔ 1.次の問題を解きましょう。

a. 
$$\begin{array}{r} 47 \\ + 9 \\ \hline 56 \end{array}$$

b. 
$$\begin{array}{r} 58 \\ + 4 \\ \hline 62 \end{array}$$

**宿題：** 57ページ

# レッスン

# 2

## 2.3 百の位への繰り上がりのある2桁の数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

1袋に72個の風船が入っており、他の袋に53個の風船が入っています。風船は全部でいくつありますか。

式： $72 + 53$

### ① 答えてみよう

位取り表とタイルを使います。

① 加数を書き入れます。



カルメン

百	十	一
	7	2
+	5	3

② 一の位をたします。

百	十	一
	7	2
+	5	3
		5

③ 十の位をたします。

百の位の位置に1を書き入れます。

百	十	一
	7	2
+	5	3
1	2	5

十の位をたすと、和は12になります。12個の10は1個の100と2個の10です。



答え：125 個

### 理解しよう

以下の手順でたし算をします：

- ① 加数をマス目の中に書き入れます。
- ② 一の位をたします。
- ③ 十の位の値をたし、1を百の位の位置に繰り上げます。

①

百	十	一
	7	2
+	5	3

②

百	十	一
	7	2
+	5	3
		5

③

百	十	一
	7	2
+	5	3
1	2	5

②

② ③ どちらでしょうか。

$72+33$ の答えは何ですか。

百	十	一
	7	2
+	3	3
1	0	5

$7+3=10$   
10個の10は1個の100と0個の10です。



百	十	一
	7	2
+	5	3

百	十	一
	7	2
+	5	3
		5



## 解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $74 + 43$

百	十	一
	7	4
+	4	3
1	1	7

b.  $82 + 63$

百	十	一
	8	2
+	6	3
1	4	5

c.  $35 + 90$

百	十	一
	3	5
+	9	0
1	2	5

d.  $60 + 75$

	6	0
+	7	5
1	3	5

e.  $87 + 21$

	8	7
+	2	1
1	0	8

f.  $32 + 74$

	3	2
+	7	4
1	0	6

2. サッカーのトーナメント戦に、1年生の子どもが83人と2年生が64人登録しました。

トーナメントに参加する子どもは何人ですか。

式：  $83 + 64$       答え：  $147$  人

	8	3
+	6	4
1	4	7

## 家で解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $85 + 43$

	8	5
+	4	3
1	2	8

b.  $63 + 54$

	6	3
+	5	4
1	1	7

c.  $46 + 80$

	4	6
+	8	0
1	2	6

d.  $50 + 74$

	5	0
+	7	4
1	2	4

e.  $65 + 42$

	6	5
+	4	2
1	0	7

f.  $13 + 96$

	1	3
+	9	6
1	0	9

2. ある日、本屋でボンド紙が76枚と色付きの紙が42枚売れました。全部で何枚の紙が売れましたか。

式：  $76 + 42$       答え：  $118$  枚

	7	6
+	4	2
1	1	8

家族のサイン： \_\_\_\_\_

### 達成の目安：

2.3 DU+DU (Dは十の位の値、Uは一の位の値) の形の百の位への繰り上がりを伴うたし算を縦書きで計算しましょう。

**ねらい：**この授業では十の位から百の位への繰り上がりの意味、百の位への繰り上がりを伴うたし算を縦書きで行う手順に重点を置きます。この授業で初めて、百の位への繰り上がりのある計算を扱います。

**重要なポイント：**①では、前回までの授業と同様の答えの図(加数を書き入れ、その後一の位の値をたす、など)を用いますが、この授業では十の位の和が10より大きい場合どうなるかを分析しなければなりません。生徒たちが一の位の和が10を超えた時(授業2.1)と同様の方法で問題を解けるようにしなければなりません。そのためには、生徒たちが問題を観察し、10個の10は1個の100になることを思い出して、12個の10は1個の100と2個の10に等しいと理解することが重要です。そのような分析に基づくと、縦書きの計算法において十の位に2を入れ、百の位に1を入れる意味が理解できるようになります。

②では、前回までの授業で扱った問題と似た、特殊な場合を扱います。十の位の値の和が10になり、十の位に0を入れて、百の位に1を繰り上げる場合です。

「解いてみよう」では以下のように問題が配分されています。a. と b. は「考えてみよう」と同様の問題です。c. と d. はいずれかの加数の一の位が0である場合の問題です。e. と f. は十の位の値の和が10になり、十の位に0を入れ、百の位に1を繰り上げなければならない場合です。2.ではいつも応用問題を紹介し、前回までの授業で言及された手順に従って取り組むようになっています。

この授業では初めて数字カードのみを使います。カードは計算法の理屈を理解しやすくすることをねらいとしていますが、カードがなくても生徒たちが理解できるのであれば、使用しなくても構いません。

**教材：**手順の説明のため、「教員用指導書」の数字カードを使うことができます。

### 日付：

### 授業：2.3

- Ⓐ 72個の風船。  
53個の風船。  
風船は何個ありますか。

- Ⓒ 式：72 + 53

$$\begin{array}{r} 72 \\ + 53 \\ \hline 125 \end{array}$$

答え：125個

- Ⓔ 72+33の答えは何ですか。

$$\begin{array}{r} 72 \\ + 33 \\ \hline 105 \end{array}$$

- Ⓕ 1.次の問題を解きましょう。

a. 
$$\begin{array}{r} 74 \\ + 43 \\ \hline 117 \end{array}$$

b. 
$$\begin{array}{r} 82 \\ + 63 \\ \hline 145 \end{array}$$

宿題：59ページ

# レッスン 2

## 2.4 繰り上がり2回の2桁の数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

ある学校の生徒48人と、別の学校の生徒75人が国立人類学博物館ダビ・J・グスマンを訪れました。博物館を訪れた生徒は何人ですか。 式：48 + 75

### ① 答えてみよう

位取り表と数字カードを使います。

① 加数を書き入れます。



百	十	一
	4	8
+	7	5

② 一の位の値をたして、十の位の位置に1を書きます。

百	十	一
	4	8
+	7	5
	①	3

一の位から十の位に繰り上がる1は、小さく書かないといけません。



③ 十の位の値と繰り上がる数をたします。和を書いて、繰り上がった1はもう線を引いて消すことができます。

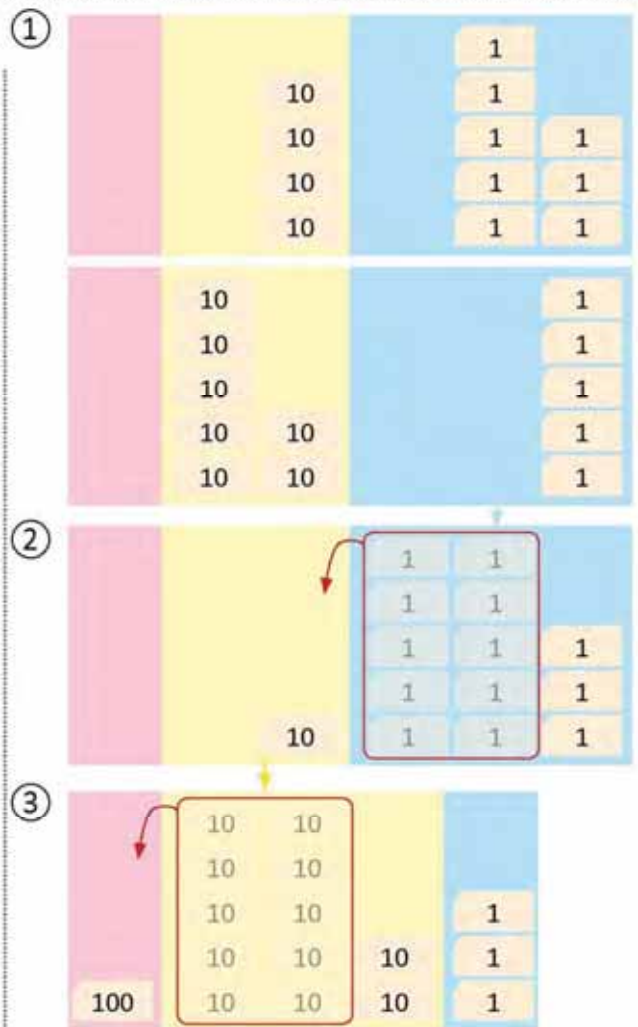
百	十	一
	4	8
+	7	5
1	②	3

答え：123人

### 理解しよう

繰り上がり2回のたし算をするには：

- ① 加数をマス目の中に書き入れます。
- ② 一の位の値をたし、十の位に繰り上がる1を書き入れます。
- ③ 繰り上がった数を含めて十の位の値をたし、繰り上がる数を百の位の位置に書き入れます。



### ② どうなるでしょうか。

48 + 55の答えは何ですか。

百	十	一
	4	8
+	5	5
1	①	3

9 + 1 = 10、10個の10は1個の100と0個の10です。

## 解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $56 + 68$

百	十	一
	5	6
+	6	8
1	2	4

b.  $86 + 36$

百	十	一
	8	6
+	3	6
1	2	2

c.  $76 + 85$

百	十	一
	7	6
+	8	5
1	6	2

d.  $63 + 79$

	6	3
+	7	9
1	4	2

e.  $87 + 14$

	8	7
+	1	4
1	0	1

f.  $29 + 76$

	2	9
+	7	6
1	0	5

2. ある店で大きい卵を65個と中くらいの卵を59個売っています。  
 お店にはいくつの卵がありますか。

式：65 + 59      答え：124個

	6	5
+	5	9
1	2	4

## 家で解いてみよう

1. 次の問題を解きましょう。

a.  $69 + 54$

	6	9
+	5	4
1	2	3

b.  $73 + 68$

	7	3
+	6	8
1	4	1

c.  $69 + 85$

	6	9
+	8	5
1	5	4

d.  $54 + 89$

	5	4
+	8	9
1	4	3

e.  $76 + 26$

	7	6
+	2	6
1	0	2

f.  $38 + 64$

	3	8
+	6	4
1	0	2

2. あるレンガ職人は月曜日から金曜日に94ドル稼ぎ、週末は37ドル稼ぎます。  
 一週間で何ドル稼ぐでしょうか。

式：94 + 37      答え：131ドル。

	9	4
+	3	7
1	3	1

家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

2.4 DU+DU (Dは十の位の値、Uは一の位の値) の形の十の位と百の位への繰り上がりを伴うたし算を、縦書きで計算しましょう。

**ねらい：** 前回までの授業では、十の位または百の位への繰り上がりを1回のみ行うたし算を行いました。この授業では、そのようなたし算を組み合わせた計算を行います。1つの式で2回繰り上がりがあるということは、手順が1つ増えることを意味します。一の位の値をたすと和が10以上になり、十の位の値を繰り上げる数を含めてたすと和が同じく10以上になり、結果として百の位への繰り上がりが必要になるのです。

**重要なポイント：** この授業の「考えてみよう」を解くために①では、前回までの授業で繰り上げの手順、一の位の値をたして十の位に1を繰り上げる手順を理解していることが必要です。今回は、加数の十の位の値をたすだけでなく、繰り上がった1もたし、その和が10より大きいため百の位に1を繰り上げなければならないことに着目します。

②では、十の位の値と繰り上がりの数をたすと10になる場合を分析します。前回の授業で学んだ問題と同様の方法で解きます。一の位や十の位で和が10になる場合（つまり、十の位の場合は総和が100となる場合）には、「学んだことをやってみましょう」の最後の問題として取り組みます。

「解いてみよう」の a. から d. では2回繰り上がりがある基礎問題を練習します。e. と f. では「どうなるでしょうか。」で扱った特殊な場合を扱います。2回繰り上がりを伴うたし算では、加数の十の位の値だけをたして一の位から繰り上がった1をたし忘れることがよくあります。そのため、生徒の計算結果を確認することが大切です。最後に2.では、再度応用問題を紹介します。

**教材：** 手順を説明するために「教員用指導書」の数字カードを使用してもよいです。この授業は、数字カードが解答の一部として使われる最後の授業になります。次回以降の授業では、マスコットから与えられる付加的情報の一部になります。というのも、数字カードはたし算を解くための解法としては想定されておらず、手順を説明し、より理解しやすくするためのものだからです。

## 日付：

## 授業：2.4

- Ⓐ 48人の生徒。  
75人の生徒。  
生徒は何人ですか。

- Ⓒ 式：48 + 75

$$\begin{array}{r} 48 \\ + 75 \\ \hline 123 \end{array}$$

答え：123人の生徒。

- Ⓓ 48 + 55の答えは何ですか。

$$\begin{array}{r} 48 \\ + 55 \\ \hline 103 \end{array}$$

- Ⓔ 1. 次の問題を解きましょう。

a. 
$$\begin{array}{r} 56 \\ + 68 \\ \hline 124 \end{array}$$

b. 
$$\begin{array}{r} 86 \\ + 36 \\ \hline 122 \end{array}$$

宿題：61ページ

達成の目安：

2.5 繰り上がりのある2桁までの数のたし算の問題を解きましょう。

## 2.5 学んだことをやってみましょう

次の問題を解きましょう。

a.  $54 + 27$

	+	-
	5	4
+	2	7
	① 8	1

b.  $63 + 19$

	+	-
	6	3
+	1	9
	① 8	2

c.  $48 + 12$

	+	-
	4	8
+	1	2
	① 6	0

d.  $16 + 74$

	1	6
+	7	4
	① 9	0

e.  $75 + 9$

	7	5
+		9
	① 8	4

f.  $8 + 57$

		8
+	5	7
	① 6	5

g.  $85 + 34$

百	+	-
	8	5
+	3	4
1	1	9

h.  $72 + 53$

百	+	-
	7	2
+	5	3
1	2	5

i.  $48 + 61$

百	+	-
	4	8
+	6	1
1	0	9

j.  $74 + 34$

	7	4
+	3	4
	① 0	8

k.  $69 + 56$

	6	9
+	5	6
	① 2	5

l.  $48 + 86$

	4	8
+	8	6
	① 3	4

m.  $73 + 69$

	7	3
+	6	9
	① 4	2

n.  $57 + 45$

	5	7
+	4	5
	① 0	2

ñ.  $84 + 16$

	8	4
+	1	6
	① 0	0

家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $67 + 18$

	+	-
6	7	
+	1	8
①	8	5

b.  $28 + 59$

	+	-
2	8	
+	5	9
①	8	7

c.  $37 + 43$

	+	-
3	7	
+	4	3
①	8	0

d.  $54 + 26$

5	4	
+	2	6
①	8	0

e.  $84 + 9$

8	4	
+		9
①	9	3

f.  $7 + 64$

	7	
+	6	4
①	7	1

g.  $65 + 73$

百	+	-
6	5	
+	7	3
1	3	8

h.  $27 + 91$

百	+	-
2	7	
+	9	1
1	1	8

i.  $36 + 71$

百	+	-
3	6	
+	7	1
1	0	7

j.  $51 + 55$

5	1	
+	5	5
1	0	6

k.  $69 + 82$

6	9	
+	8	2
1	①	5
1	5	1

l.  $75 + 49$

7	5	
+	4	9
1	①	2
1	2	4

m.  $37 + 84$

3	7	
+	8	4
1	①	2
1	2	1

n.  $29 + 74$

2	9	
+	7	4
1	①	0
1	0	3

ñ.  $43 + 57$

4	3	
+	5	7
1	①	0
1	0	0

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

2.6 繰り上がりのある2桁までの数のたし算の問題を解きましょう。

**2.6 学んだことをやってみましょう**

次の問題を解きましょう。

a.  $37 + 47$

	+	-
	3	7
+	4	7
	①8	4

b.  $27 + 43$

	+	-
	2	7
+	4	3
	①7	0

c.  $86 + 6$

	8	6
+		6
	①9	2

d.  $7 + 23$

		7
+	2	3
	①3	0

e.  $74 + 51$

百	+	-
	7	4
+	5	1
1	2	5

f.  $43 + 65$

百	+	-
	4	3
+	6	5
1	0	8

g.  $46 + 51$

	4	6
+	5	1
	9	7

h.  $37 + 96$

	3	7
+	9	6
1	①3	3

i.  $47 + 54$

	4	7
+	5	4
1	①0	1

**家で解いてみよう**

次の問題を解きましょう。

a.  $37 + 28$

	+	-
	3	7
+	2	8
	①6	5

b.  $59 + 21$

	+	-
	5	9
+	2	1
	①8	0

c.  $6 + 87$

		6
+	8	7
	①9	3

d.  $37 + 82$

百	+	-
	3	7
+	8	2
1	1	9

e.  $94 + 67$

百	+	-
	9	4
+	6	7
1	①6	1

f.  $29 + 71$

	2	9
+	7	1
1	①0	0



# レッスン

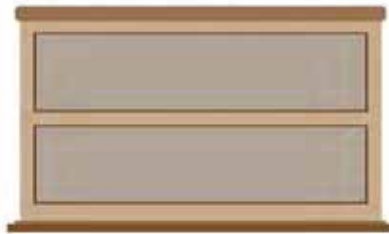
# 3

## たし算の性質を確認しましょう

### 3.1 加数を入れ替えてたし算をしましょう

#### 考えてみよう

図書館に2段ある書棚があり、物語の本を14冊、算数の本を21冊置きます。書棚には何冊の本が置かれますか。



#### 1 答えてみよう



フリア

上に物語の本を置いて、下に算数の本を置きます。

物語

算数



式：14 + 21

	+	-
	1	4
+	2	1
	3	5

答え：35冊の本。

#### 理解しよう

たし算では、数をたす順番を変えても結果は変わりません。

上に算数の本を置いて、下に物語の本を置きます。

算数

物語



式：21 + 14

	+	-
	2	1
+	1	4
	3	5

答え：35冊の本。

#### 2 どうなるでしょうか。

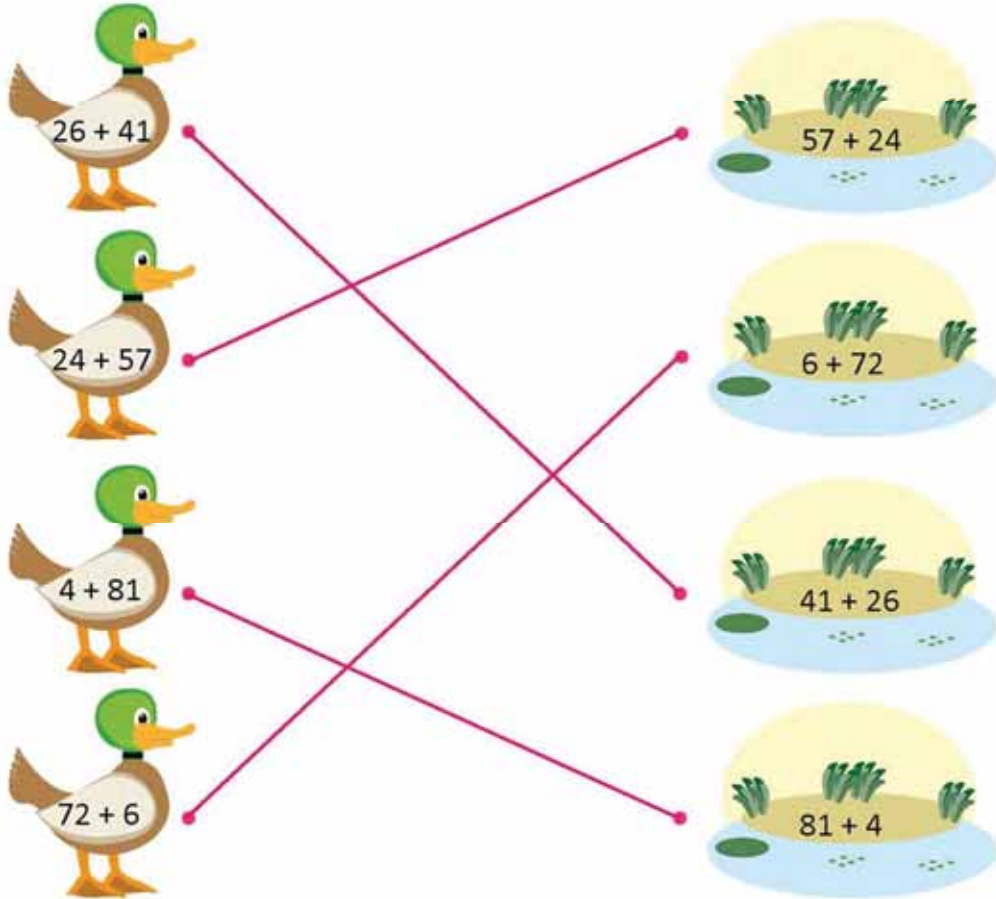
42 + 6と6 + 42のたし算の和は同じになるか確認しましょう。

	+	-		+	-
		6		4	2
+	4	2	+		6
	4	8		4	8

そのため、和は同じになります。

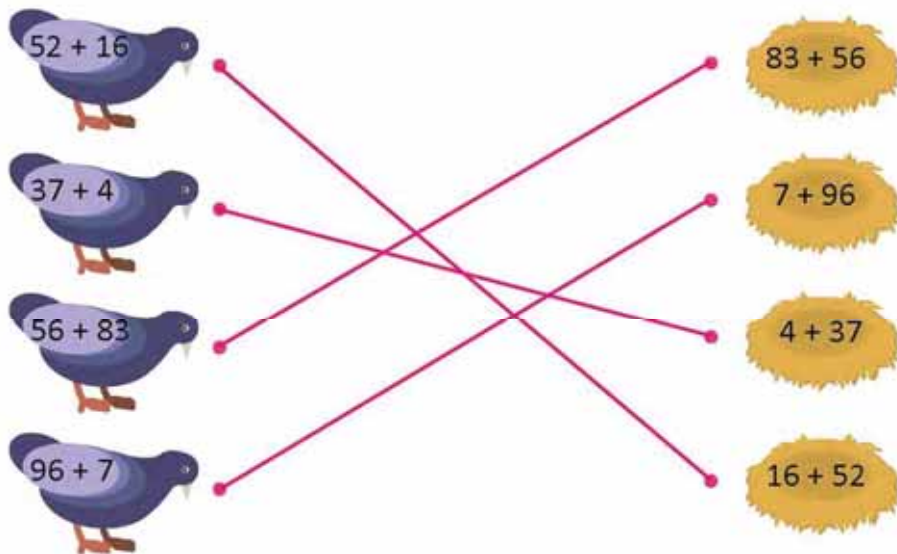
### 解いてみよう

和が同じになるたし算同士を線で結び、カモを池に連れていきましょう。



### 家で解いてみよう

和が同じになるたし算同士を線で結び、ハトを巣に連れていきましょう。



**達成の目安：**

3.1 可換性を利用して、和が等しくなるたし算を見つけましょう。

**ねらい：**この授業ではたし算の可換性を扱います。ただし直感的な見方で可換性を扱うため、授業ではこの性質に対して名前を付けません。生徒が性質の名前ではなく、結果を理解し応用することを優先します。

**重要なポイント：**加数を入れ替えても和は変わらないことを確認できるよう、①では「考えてみよう」を解きます。「計算式」では、加数を入れ替えられた場合を分析します（直感的に、結果は同じにならないと考えられるでしょう）。それぞれの場合に対応する計算を行い、結果をよく見ることで、総和は同じであり、加数の順番が変わっても結果は変わらないことに生徒たちが気づくことが期待されます。次に②では、同じ内容を、1桁の数字と2桁の数字の和という特殊な場合で確認します。

「解いてみよう」では、可換性の応用として、和が同じことに着目して、入れ替わった加数が書かれた絵同士を結ぶことに重点を置きます。この授業では、生徒たちがたし算を行うことは想定されておらず、発見した性質を使うことをねらいとしています。ただ、「解いてみよう」が終わった後に教師の判断のもと、練習のためにたし算を行い、加数を入れ替わっても答えが変わらないことを確認しても構いません。

**メモ：**

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**日付：**

**授業：3.1**

Ⓐ 14冊の物語の本。  
21冊の算数の本。  
何冊の本がありますか。

Ⓒ 式：14 + 21

$$\begin{array}{r} 14 \\ + 21 \\ \hline 35 \end{array}$$

答え：35冊

式：21 + 14

$$\begin{array}{r} 21 \\ + 14 \\ \hline 35 \end{array}$$

答え：35冊

Ⓔ 42 + 6 と 6 + 42 は同じ答えになるでしょうか。

$$\begin{array}{r} 42 \\ + 6 \\ \hline 48 \end{array} \quad \longleftrightarrow \quad \begin{array}{r} 6 \\ + 42 \\ \hline 48 \end{array}$$

和は同じです。

Ⓕ

26 + 41	57 + 24
24 + 57	6 + 72
4 + 81	41 + 26
72 + 6	81 + 4

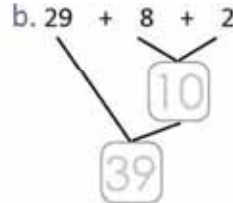
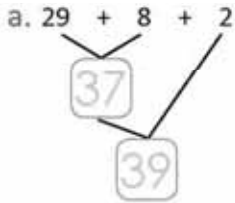
宿題：66ページ

# レッスン 3

## 3.2 かっこを使ってたし算をしましょう

### 考えてみよう

$29 + 8 + 2$  を計算するには、どのように解けば一番簡単でしょうか。



### 1 答えてみよう

a. まず  $29 + 8 = 37$  を計算しました。  
その後  $37 + 2 = 39$  を計算しました。

b. まず  $8 + 2 = 10$  を計算しました。  
その後  $29 + 10 = 39$  を計算しました。



アントニオ

ユニット2

### 2 理解しよう



最初に  $8 + 2$  を計算する方が簡単でした。

3つの加数があるたし算では、最初のステップとして後の2つをたす方が簡単なことがあります。

後の2つをたす時は、最初のステップとしてかっこ( ) を付けます。例えば：

$29 + (8 + 2) = 39$       この場合、最初に  $(8 + 2)$ 、その後  $29 + 10$  が計算されます。

### 3 ③ どうなるでしょう

$8 + 29 + 2$  は、どのように計算できるでしょうか。

$(8 + 29) + 2$        $8 + 2$  は計算しやすいことを見つけましょう。

$29 + 8 + 2$        $8$  と  $29$  を入れ替えます。

$29 + (8 + 2)$        $8$  と  $2$  がまとめられ、「考えてみよう」と同じように計算されます。

### 解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $19 + (8 + 2)$

$29$

b.  $54 + (6 + 4) =$

$54 + 10 = 64$

c.  $36 + (7 + 3) =$

$36 + 10 = 46$

### 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $14 + (4 + 6)$   
 $14 + 10 = 24$

b.  $28 + (2 + 8) =$   
 $28 + 10 = 38$

c.  $57 + (5 + 5) =$   
 $57 + 10 = 67$

**達成の目安：**

3.2 最初に ( ) で項をまとめて、3つの加数のたし算をしましょう。

**ねらい：** たし算の結合性を直感的に、結合性という語を使わずに見つけること。直感的に理解できる問題の後、どのたし算を最初に行うか分かるようにかっこを取り入れます。特に、最初に後の2つの項をたす場合にはかっこが使われます。

**重要なポイント：** ①では、3項のたし算を行う2つの方法を提示します。生徒たちが問題を解いて、結果が同じこと、さらにどちらの方法の計算がより簡単かを見抜くことが重要です。この授業では、結合性を使って、3項のたし算をより簡単に行うことに重点を置きます。簡単な解き方を見つけるために、解答 a. では最初に先頭の加数2つを足し、その和は  $DU + U$  ( $D$ は十の位、 $U$ は一の位) の形になっており、十の位に繰り上がり、その後その結果と3つ目の加数を足していることに注目しましょう。一方、解答 b. では最初に後の2つの加数を足し、その和は  $DU + U$  の形になっており、その結果が10のかたまりの数になり、最終的にその結果と1つ目の項をたしてあり、解答 b. の方が簡単な解き方です。

②では、初めてまとめるための記号として、かっこの使用を取り入れます。かっこを使用して最初にたす項を指定し、その結果と残りの項をたします。最後に③では、隣合っていない2つの数をたすと一番簡単にたし算ができる場合を分析します。ここでは、生徒たちがたし算が一番簡単な2つの項を見つけ、前回の授業で扱った性質を使ってそれらの項と一緒に並ぶように並び替え、まとめるためにかっこを使い、たし算を行って最終的な答えを得ることをねらいとしています。答えは①の b. と同じなので、ここでは意図的に掲載していません。

「解いてみよう」では、まとめる記号としてかっこを使用した際の、項のたし算を行う順番に関する問題のみを解きます。一番簡単なたし算を見つけ、加数の順番を変えること（「どうなるでしょうか。」で扱った内容）は生徒には難しいと判断したためです。しかし、生徒たちはそのような問題にも挑戦できると教師が判断した場合は、教科書の問題を終えた後、授業中にいくつか問題を紹介しても構いません。「解いてみよう」の問 a. を修正してください。正しい答えは29です。

**日付：**

**授業：3.2**

Ⓐ 次のたし算の解答をよく見てみましょう

$$29 + 8 + 2$$

どちらのほうが簡単ですか。

Ⓑ a.  $29 + 8 = \underline{37}$  | b.  $8 + 2 = \underline{10}$   
 $37 + 2 = \underline{39}$  |  $29 + 10 = \underline{39}$

答え：選択肢 b. の方が簡単です。

Ⓒ  $8 + 29 + 2$  は、どのように計算できるでしょうか。

$$\begin{array}{r} 8 + 29 + 2 \\ \quad \swarrow \searrow \\ 29 + 8 + 2 \end{array}$$

$$29 + (8 + 2)$$

Ⓓ 次の問題を解きましょう。

a.  $19 + (8 + 2) = 29$

$$\begin{array}{r} 19 \\ \quad \searrow \\ 10 \end{array}$$

b.  $54 + (6 + 4) = 64$

$$\begin{array}{r} 6 \\ \quad \searrow \\ 10 \end{array}$$

**宿題：** 67ページ

# レッスン

# 4

## 繰り上がりのある、または繰り上がりのない 3桁までの数のたし算をしましょう

### 4.1 繰り上がりのない3桁までの数のたし算をしましょう

#### 考えてみよう

あるトラックが234個のメロンと352個のサボジラを市場に運びます。  
全部でいくつのフルーツを運ぶでしょうか。

式：234 + 352

#### 1 答えてみよう

位取り表を使います：

① 加数、記号、線を書きます。



アナ

	百	十	一
	2	3	4
+	3	5	2

② 一の位をたします。

	百	十	一
	2	3	4
+	3	5	2
			6

③ 十の位をたします。

	百	十	一
	2	3	4
+	3	5	2
		8	6

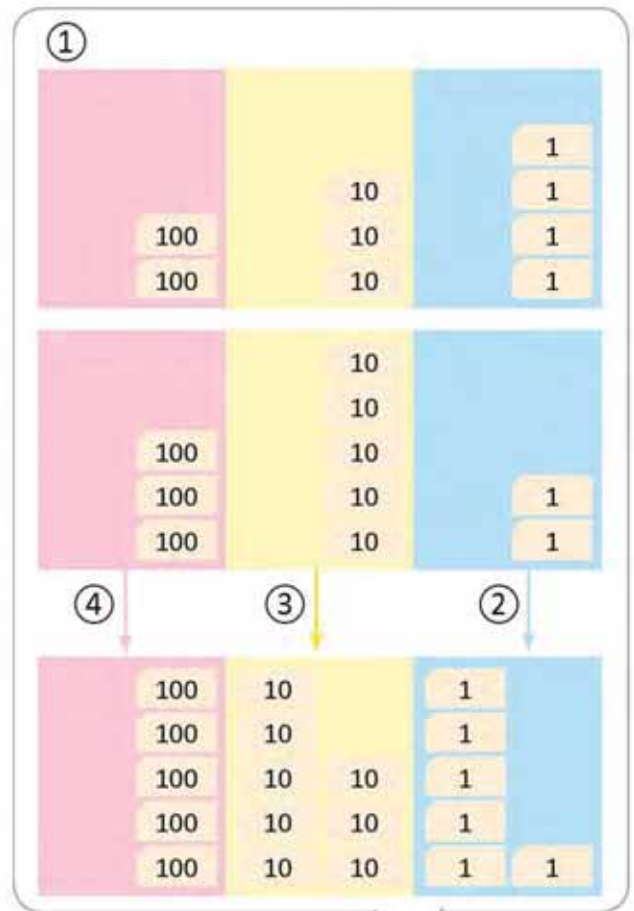
④ 百の位をたします。

	百	十	一
	2	3	4
+	3	5	2
	5	8	6

#### 理解しよう

位取り表を使って3桁の数のたし算をする時には、以下の手順を踏みましょう：

- ① 加数、記号、線をマス目の中に書き入れます。
- ② 一の位をたします。
- ③ 十の位をたします。
- ④ 百の位をたします。



答え：586 個

2 どちらですか。

a.  $215 + 63$ の答えは何ですか。

b.  $432 + 5$ の答えは何ですか。

百	十	一
2	1	5
+	6	3
2	7	8

百	十	一
4	3	2
+		5
4	3	7

解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $226 + 343$

百	十	一
2	2	6
+	3	4
5	6	9

b.  $145 + 23$

百	十	一
1	4	5
+	2	3
1	6	8

c.  $253 + 6$

百	十	一
2	5	3
+		6
2	5	9

d.  $314 + 564$

3	1	4
+	5	6
8	7	8

e.  $325 + 42$

3	2	5
+	4	2
3	6	7

f.  $635 + 3$

6	3	5
+		3
6	3	8

家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $532 + 167$

百	十	一
5	3	2
+	1	6
6	9	9

b.  $471 + 24$

百	十	一
4	7	1
+	2	4
4	9	5

c.  $542 + 6$

百	十	一
5	4	2
+		6
5	4	8

d.  $526 + 243$

5	2	6
+	2	4
7	6	9

e.  $243 + 52$

2	4	3
+	5	2
2	9	5

f.  $532 + 7$

5	3	2
+		7
5	3	9

家族のサイン： \_\_\_\_\_

## 達成の目安：

4.1 繰り上がりのない3桁の加数と3桁までの別の加数のたし算を縦書きで行いましょう。

**ねらい：**生徒たちは前回までの授業で一の位同士、十の位同士のたし算を学んでいます。そのため、自分の力でその知識を広げ、3桁の数のたし算の場合は百の位同士をたすことを学ぶことがねらいです。

**重要なポイント：**①では、2桁の数のたし算の場合の決められた手順に従いますが、今回は百の位までの位取り表を使って解かなければなりません。まずは加数を表に正しく書き入れ、それから一の位同士、十の位同士、最後に百の位同士をたします。その後、②では加数の1つが2桁または1桁の場合を扱います。そのような場合では、0をたす、または単に該当する3桁の数の十または百の位をそのまま下ろします。

「解いてみよう」の最初の4問は「考えてみよう」と同じ種類です。最後の2つは「どうなるでしょうか。」で扱った特殊な場合と似ています。

**教材：**この授業以降は、数字カードを使用しないようにしてください。これは、縦書きでの計算法の使用に注目するためです。しかし、教科書ではまだ手順を理解する段階にある生徒のために付加情報として使用されます。教師の判断で、一部の生徒に対しカードの使用を続けても構いません。この点は、このユニットの残りの部分に対しても適用されます。

## メモ：

---

---

---

---

---

---

## 日付：

## 授業：4.1

- Ⓐ 234個のメロン。  
352個のサボジラ。  
フルーツはいくつありますか。

- Ⓒ 式：234 + 352

$$\begin{array}{r} 234 \\ + 352 \\ \hline 586 \end{array}$$

答え：586個

- Ⓔ 答えは何ですか。

a.  $215 + 63$

$$\begin{array}{r} 215 \\ + 63 \\ \hline 278 \end{array}$$

b.  $432 + 5$

$$\begin{array}{r} 432 \\ + 5 \\ \hline 437 \end{array}$$

- Ⓕ 次の問題を解きましょう。

a.  $226 + 343$

$$\begin{array}{r} 226 \\ + 343 \\ \hline 569 \end{array}$$

b.  $145 + 23$

$$\begin{array}{r} 145 \\ + 23 \\ \hline 168 \end{array}$$

宿題：69ページ



# レッスン 4

## 4.2 十の位への繰り上がりのある3桁の数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

ある学校には午前のクラスに367人、午後のクラスに425人の生徒が在籍しています。  
学校に生徒は何人いますか。

式：  $367 + 425$

### 1 答えてみよう

位取り表を使います：

① 加数を書き入れます。



マリオ

	百	十	一
	3	6	7
+	4	2	5

② 一の位をたします。1を十の位に繰り上げます。

	百	十	一
	3	6	7
+	4	2	5
		0	2

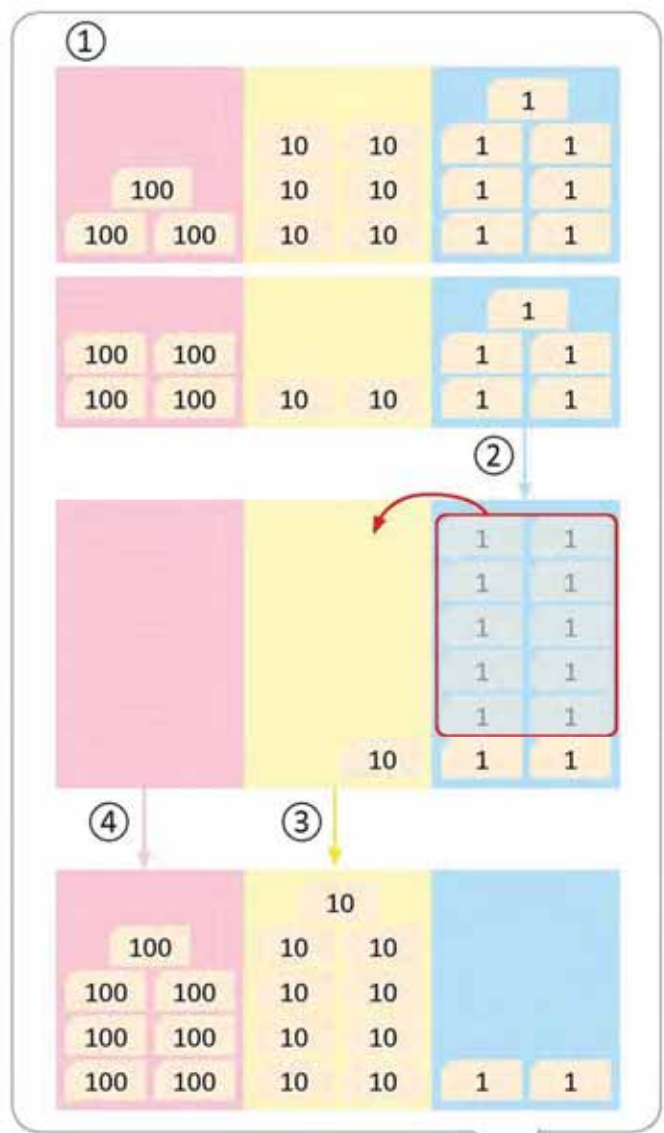
③ 十の位の値と繰り上がる数をたします。繰り上がった1は線で消してよいです。

	百	十	一
	3	6	7
+	4	2	5
		9	2

④ 百の位をたします。

	百	十	一
	3	6	7
+	4	2	5
	7	9	2

答え： 792 人



### 理解しよう

1度十の位に繰り上げを伴う3桁の数字のたし算では：

- ① 加数をマス目の中に書き入れます。
- ② 一の位の値をたし、1を十の位に繰り上げます。
- ③ 十の位の値と繰り上がった1をたします。
- ④ 百の位をたします。

## 2 解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $127 + 354$

	百	十	一
	1	2	7
+	3	5	4
	4	8	1

b.  $248 + 316$

	百	十	一
	2	4	8
+	3	1	6
	5	6	4

c.  $429 + 365$

	百	十	一
	4	2	9
+	3	6	5
	7	9	4

d.  $153 + 218$

	1	5	3
+	2	1	8
	3	7	1

e.  $564 + 409$

	5	6	4
+	4	0	9
	9	7	3

f.  $207 + 138$

	2	0	7
+	1	3	8
	3	4	5

g.  $853 + 127$

	8	5	3
+	1	2	7
	9	8	0

h.  $356 + 234$

	3	5	6
+	2	3	4
	5	9	0

i.  $452 + 328$

	4	5	2
+	3	2	8
	7	8	0

## 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $148 + 435$

	百	十	一
	1	4	8
+	4	3	5
	5	8	3

b.  $529 + 316$

	百	十	一
	5	2	9
+	3	1	6
	8	4	5

c.  $147 + 526$

	百	十	一
	1	4	7
+	5	2	6
	6	7	3

d.  $426 + 509$

	4	2	6
+	5	0	9
	9	3	5

e.  $205 + 248$

	2	0	5
+	2	4	8
	4	5	3

f.  $364 + 426$

	3	6	4
+	4	2	6
	7	9	0

家族のサイン： \_\_\_\_\_



# レッスン 4

## 4.3 十の位への繰り上がりのある3桁までの数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

- a. あるパン屋に2件の注文が入りました。1件はパステリートを234個、もう1件はパステリートを59個の注文です。パン屋に注文されたパステリートは全部でいくつですか。  
**式** :  $234 + 59$
- b. 354個の青いマンゴーと8個の熟したマンゴーがあります。マンゴーは全部でいくつありますか。  
**式** :  $354 + 8$

### ① 答えてみよう

a. 位取り表を使います：

① 加数を書き入れます。

	百	十	一
	2	3	4
+		5	9

② 一の位をたします。  
 1を十の位に繰り上げます。

	百	十	一
	2	3	4
+		5	9
		①	3

③ 十の位の値と繰り上がった1をたします。

	百	十	一
	2	3	4
+		5	9
		①	3
		9	3

④ 百の位の数を下ろします。

	百	十	一
	2	3	4
+		5	9
		①	3
	2	9	3

答え : 293 個

b. 位取り表を使います：

① 加数を書き入れます。

	百	十	一
	3	5	4
+			8

② 一の位をたします。  
 1を十の位に繰り上げます。

	百	十	一
	3	5	4
+			8
		①	2

③ 十の位の値と繰り上がった1をたします。

	百	十	一
	3	5	4
+			8
		①	2
		6	2

④ 百の位の数を下ろします。

	百	十	一
	3	5	4
+			8
		①	2
	3	6	2

答え : 362 個



ペアトリス

## 理解しよう

1度十の位に繰り上げを伴う2桁または1桁の数字のたし算では：

- ① 加数をマス目の中に入ります。
- ② 一の位の値をたし、1を十の位に繰り上げます。
- ③ 十の位の値と繰り上がった1をたします。
- ④ 百の位を下ろします。

## 解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $423 + 58$

	百	十	一
	4	2	3
+		5	8
	4	8	1

b.  $348 + 32$

	百	十	一
	3	4	8
+		3	2
	3	8	0

c.  $39 + 214$

	百	十	一
		3	9
+	2	1	4
	2	5	3

d.  $649 + 5$

	6	4	9
+			5
	6	5	4

e.  $513 + 7$

	5	1	3
+			7
	5	2	0

f.  $9 + 485$

			9
+	4	8	5
	4	9	4

## 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $547 + 16$

	百	十	一
	5	4	7
+		1	6
	5	6	3

b.  $725 + 45$

	百	十	一
	7	2	5
+		4	5
	7	7	0

c.  $21 + 329$

	百	十	一
		2	1
+	3	2	9
	3	5	0

d.  $358 + 6$

	3	5	8
+			6
	3	6	4

e.  $456 + 4$

	4	5	6
+			4
	4	6	0

f.  $2 + 138$

			2
+	1	3	8
	1	4	0

家族のサイン： \_\_\_\_\_

**達成の目安：**

4.3 十の位への繰り上がりのある、3桁の加数と2桁までの別の加数のたし算を縦書きで行いましょう。

**ねらい：**この授業では、前回の授業で扱った、いずれかの加数の桁が3桁より小さい（2桁または1桁）特殊な場合を扱います。それぞれの位の値に応じて正しい位置に数字を書き入れるよう強調してください。

**重要なポイント：**①では2つの場合を分析します。1つは、片方の加数が2桁で、もう片方が1桁の場合、答えでは、最初のステップで位取り表に正しく加数を書き入れるよう特に注意しましょう。その後、前の問題と同様の方法で一の位の値をたし、その結果が10より大きくなり、十の位の値と繰り上がる数をたし、最後に百の位の値をたします。それぞれのステップで、もしいずれかの数に十の位または百の位がない場合は、0をたすように扱うことを思い出しましょう。

「解いてみよう」の a.、b.、d.、e. は「考えてみよう」の問題と同じです（1つ目の加数が3桁で、2つ目の加数が1桁または2桁）。c. と f. では1つ目の加数が1桁または2桁で、2つ目の加数が3桁なので、より難しいです。考えられる間違いとしては、加数や繰り上がる数の書き入れ方の間違いがあります。

**メモ：**

---



---



---



---



---



---



---



---

**日付：**

**授業：4.3**

Ⓐ a. 234個のパステリート。  
59個のパステリート。  
パステリートはいくつありますか。

Ⓒ a. 式：234 + 59

$$\begin{array}{r} 234 \\ + 59 \\ \hline 293 \end{array}$$

答え：293個

b. 354個の青いマンゴー。  
8個の熟したマンゴー。  
マンゴーはいくつありますか。

b. 式：354 + 8

$$\begin{array}{r} 354 \\ + \quad 8 \\ \hline 362 \end{array}$$

答え：362個

Ⓓ 次の問題を解きましょう。

a.

$$\begin{array}{r} 423 \\ + 58 \\ \hline 481 \end{array}$$

- b. 380                      c. 253  
d. 654                      e. 520  
f. 494

**宿題：**73ページ

# レッスン 4

## 4.4 百の位への繰り上がりのある3桁の数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

1袋に382個のビー玉が入っており、別の袋には246個のビー玉が入っています。ビー玉は全部で何個ありますか。

式：382 + 246

### 1 答えてみよう

位取り表を使います：

① 加数、記号、線を書きます。



	百	十	一
	3	8	2
+	2	4	6
-----			

② 一の位をたします。

	百	十	一
	3	8	2
+	2	4	6
-----			
			8

③ 十の位をたします。

百の位に1を繰り上げます。

	百	十	一
	3	8	2
+	2	4	6
-----			
	①	2	8

④ 百の位の値と繰り上がった1をたします。

繰り上がった1は線で消してよいです。

	百	十	一
	3	8	2
+	2	4	6
-----			
	①	6	2
	6	2	8

答え：628個

### 理解しよう

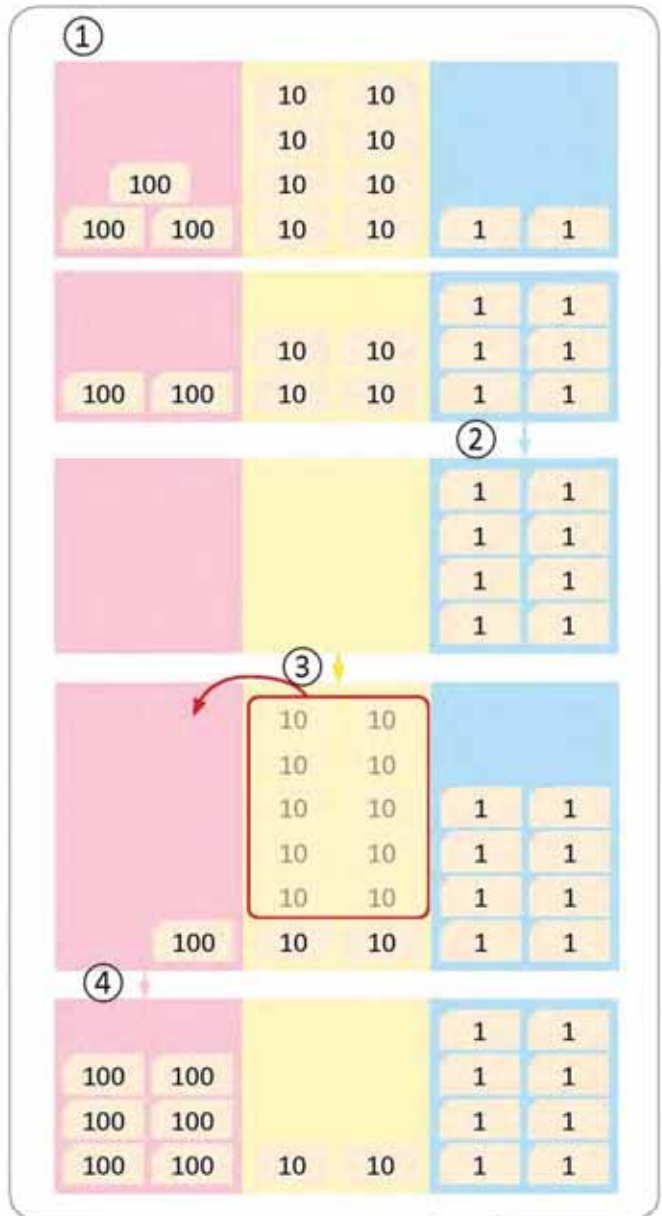
1度百の位に繰り上げを伴う3桁の数字のたし算では：

① 加数、記号、線を書きます。

② 一の位をたします。

③ 十の位の値をたし、1を百の位に繰り上げます。

④ 百の位の値と繰り上がった1をたします。

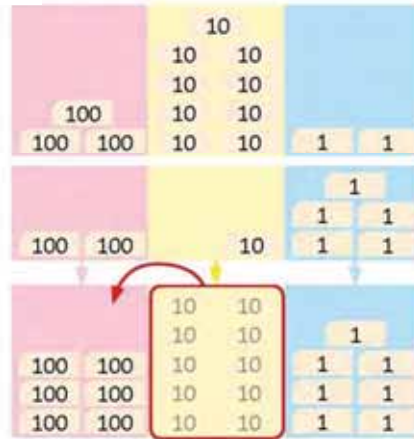


2 どうなるでしょうか。

392 + 215の答えは何ですか。

	百	十	一
	3	9	2
+	2	1	5
	6	0	7

9 + 1 = 10で10個の10は1個の100と0個の10です。



解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a. 274 + 355

	2	7	4
+	3	5	5
	6	2	9

b. 591 + 273

	5	9	1
+	2	7	3
	8	6	4

c. 161 + 476

	1	6	1
+	4	7	6
	6	3	7

d. 535 + 290

	5	3	5
+	2	9	0
	8	2	5

e. 376 + 531

	3	7	6
+	5	3	1
	9	0	7

f. 745 + 163

	7	4	5
+	1	6	3
	9	0	8

家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a. 182 + 437

	1	8	2
+	4	3	7
	6	1	9

b. 294 + 465

	2	9	4
+	4	6	5
	7	5	9

c. 353 + 496

	3	5	3
+	4	9	6
	8	4	9

d. 162 + 780

	1	6	2
+	7	8	0
	9	4	2

e. 214 + 695

	2	1	4
+	6	9	5
	9	0	9

f. 284 + 321

	2	8	4
+	3	2	1
	6	0	5

家族のサイン： \_\_\_\_\_





# レッスン 4

## 4.5 繰り上がり2回の3桁の数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

ターミナルではアウアチャパンに行く人が247人、ソンソナテに行く人が396人います。  
全員で何人いますか。

式：247 + 396

### ① 答えてみよう

位取り表を使います：

① 加数を書き入れます。



カルメン

	百	十	一
	2	4	7
+	3	9	6

② 一の位をたし、十の位に1を繰り上げます。

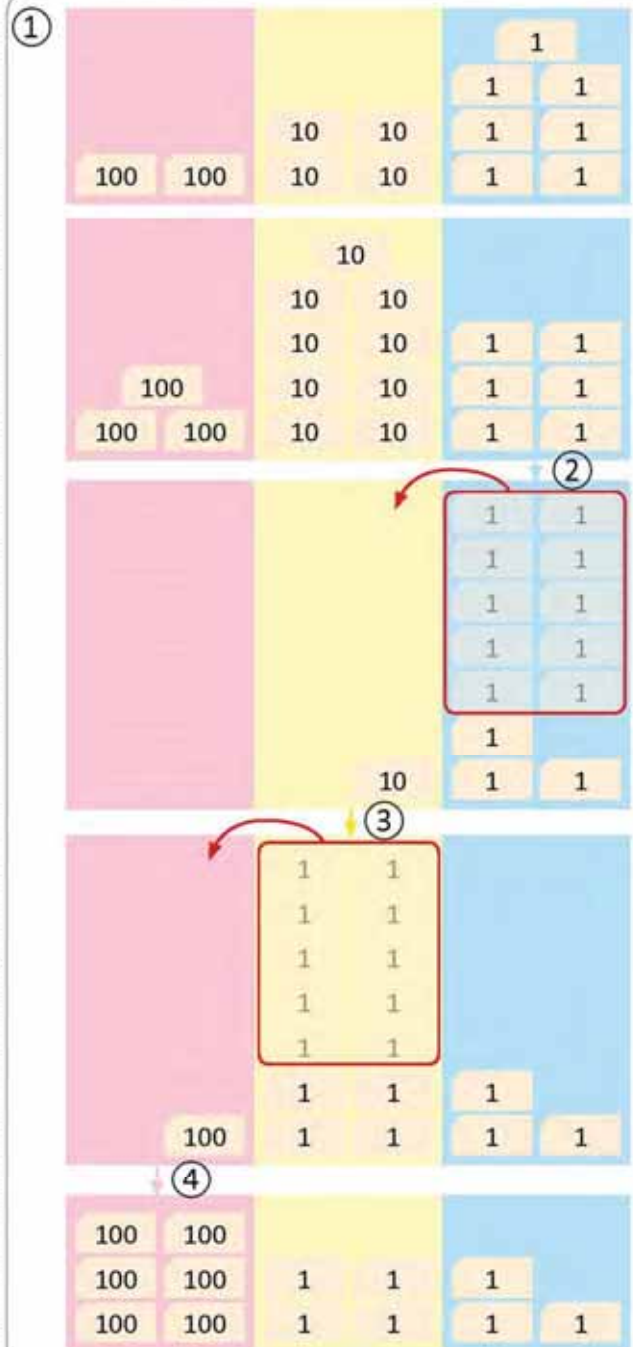
	百	十	一
	2	4	7
+	3	9	6
		0	3

③ 十の位の値と繰り上がった1をたします。百の位に1を繰り上げます。十の位に繰り上がった1は線で消してよいです。

	百	十	一
	2	4	7
+	3	9	6
	0	4	3

④ 百の位の値と繰り上がった1をたします。繰り上がった1は線で消してよいです。

	百	十	一
	2	4	7
+	3	9	6
	6	4	3



答え：643 人。



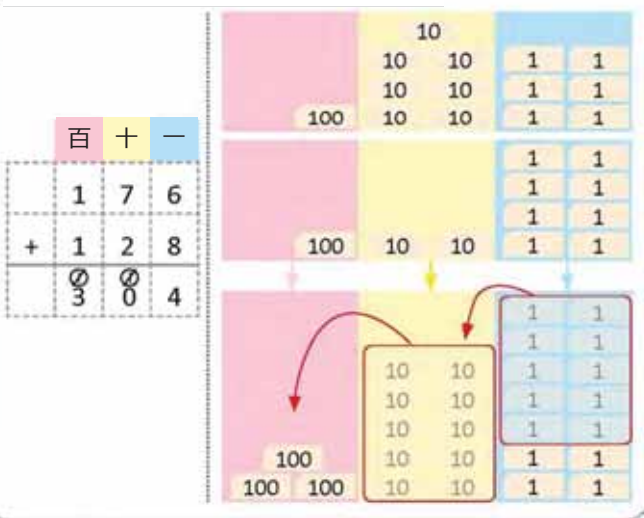
### 理解しよう

十の位と百の位に繰り上がるたし算では：

- ① 加数をマス目の中に書き入れます。
- ② 一の位の値をたし、1を十の位に繰り上げます。
- ③ 十の位と繰り上げた1をたし、百の位に繰り上げます。
- ④ 百の位の値と繰り上がった1をたします。

### 2 2 どうなるでしょうか。

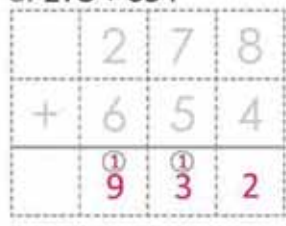
176 + 128の答えは何ですか。



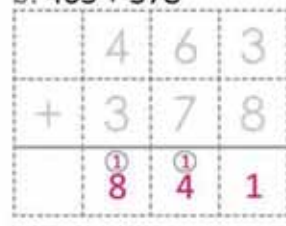
### 解いてみよう

次の問題を解きましょう。

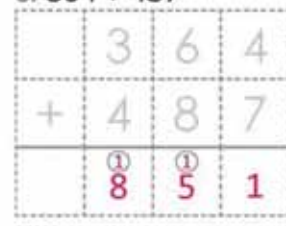
a. 278 + 654



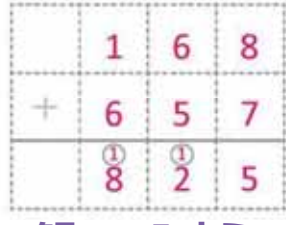
b. 463 + 378



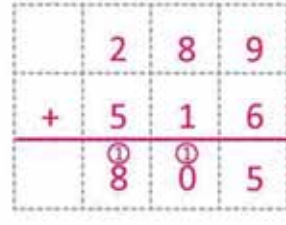
c. 364 + 487



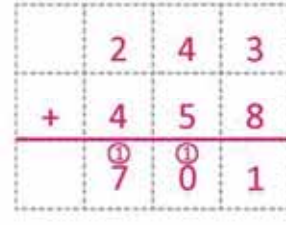
d. 168 + 657



e. 289 + 516



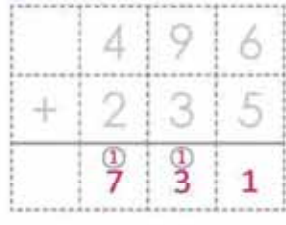
f. 243 + 458



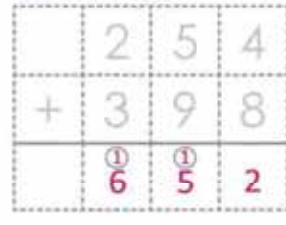
### 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

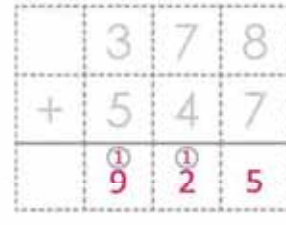
a. 496 + 235



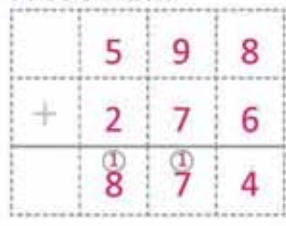
b. 254 + 398



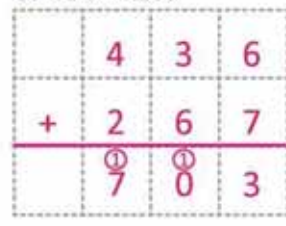
c. 378 + 547



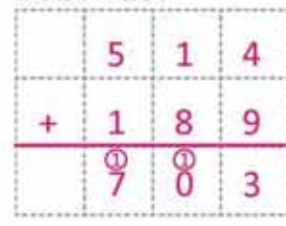
d. 598 + 276



e. 436 + 267



f. 514 + 189



家族のサイン：

### 達成の目安：

4.5 CDU + CDU (Cは百の位の値、Dは十の位の値、Uは一の位の値) の形の十の位と百の位への繰り上がりを伴うたし算を、縦書きで計算しましょう。

**ねらい：** レッスン2では2回の繰り上がりを伴うたし算をすでに扱いました。しかし、レッスン2では2桁の数字のみを扱いました。今回は3桁で同じような場合を学びます。十の位と百の位の両方で繰り上がることを忘れないよう注意しましょう。

**重要なポイント：** ①では、生徒たちはすでに縦書きで加数を入れるところから始めることを知っています。一の位をたすと、十の位へ繰り上がることに気づきます。さらに、十の位と繰り上がる1をたすと、再び和が10より大きくなります。そのため、百の位に1を繰り上げ、最後に加数の百の位と繰り上がる1をたします。

①では、タイルを使って問題を考える過程のステップ3と4 (十の位の列) に間違いがあります。該当の列の1に0を足して教科書を訂正するよう指示してください。

同様に②では、十の位の和が10になる特殊な場合を扱います。十の位の位置に0を入れなければなりません。この授業では一の位と十の位の両方で和が0である特殊な場合は扱いません。教師が妥当と判断した場合は、教科書の問題が終わった後、そのような場合の問題を追加しても構いません。

「解いてみよう」の最初の4つの問題は「考えてみよう」で扱った問題と同様のものです。最後の2つは「どうなるでしょうか。」で扱った内容と対応します。

### メモ：

---

---

---

---

### 日付：

### 授業：4.5

- Ⓐ アウアチャパンに向かう人247人。  
ソソナテに向かう人396人。  
何人いますか。

- Ⓒ 式：247 + 396

$$\begin{array}{r} 247 \\ + 396 \\ \hline 643 \end{array}$$

答え：643人。

- Ⓖ 176 + 128の答えは何ですか。

$$\begin{array}{r} 176 \\ + 128 \\ \hline 304 \end{array}$$

- Ⓗ 次の問題を解きましょう。

a. 
$$\begin{array}{r} 278 \\ + 654 \\ \hline 932 \end{array}$$

- b. 841                      c. 851  
d. 825                      e. 805  
f. 701

宿題：77ページ

# レッスン 4

## 4.6 繰り上がり2回の3桁までの数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

a. 248個の青いホコテと76個の熟れたホコテがあります。ホコテは全部でいくつありますか。

式：248 + 76

b. 398個の熟れたナンセと7個の青いナンセがあります。ナンセは全部でいくつありますか。

式：398 + 7

### ① 答えてみよう

a. 位取り表を使います：

① 加数を書き入れます。

	百	十	一
	2	4	8
+		7	6
	3	2	4

- 一の位をたします。1を十の位に繰り上げます。
- 十の位の値と繰り上がった1をたします。百の位に1を繰り上げます。
- 百の位の値2と繰り上がった1をたします。

答え：324 個

b. 位取り表を使います：

① 加数を書き入れます。

	百	十	一
	3	9	8
+			7
	4	0	5

- 一の位をたします。1を十の位に繰り上げます。
- 十の位の9と繰り上がった1をたします。百の位に1を繰り上げます。
- 百の位の値3と繰り上がった1をたします。

答え：405 個



カルロス

### 理解しよう

十の位と百の位に繰り上がるたし算では、繰り上がる1を書き入れ、たしてから線を引いて消します。

### 解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a. 358 + 86

	3	5	8
+		8	6
	4	4	4

b. 495 + 8

	4	9	5
+			8
	5	0	3

c. 64 + 579

		6	4
+	5	7	9
	6	4	3

### 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a. 168 + 64

	1	6	8
+		6	4
	2	3	2

b. 9 + 596

			9
+	5	9	6
	6	0	5

c. 85 + 658

		8	5
+	6	5	8
	7	4	3



# レッスン 4

## 4.7 繰り上がり3回の3桁の数のたし算をしましょう

### 考えてみよう

ある店に黒砂糖が652袋と白砂糖が348袋あります。

袋は全部でいくつありますか。

式：  $652 + 348$

### 1 答えてみよう

位取り表と数字カードを使います。

① 加数を書き入れます。



フリア

千	百	十	一
	6	5	2
+	3	4	8

② 一の位をたします。

1を十の位に繰り上げます。

千	百	十	一
	6	5	2
+	3	4	8
		0	0

③ 十の位の値と繰り上がった1をたします。百の位に1を繰り上げます。

千	百	十	一
	6	5	2
+	3	4	8
	0	0	0

④ 百の位の値と繰り上がった1をたします。千の位に1を書き、百の位に0を書きます。

千	百	十	一
	6	5	2
+	3	4	8
1	0	0	0

答え： 1,000袋



ユニット2

ユニット2

## 理解しよう

一の位同士、十の位同士、百の位同士を足して和が10になったら：

- その位に0を書き入れます。
- 次の位に1を繰り上げます。

## 解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $453 + 547$

千	百	十	一
	4	5	3
+	5	4	7
1	0	0	0

b.  $126 + 874$

千	百	十	一
	1	2	6
+	8	7	4
1	0	0	0

c.  $537 + 463$

千	百	十	一
	5	3	7
+	4	6	3
1	0	0	0

d.  $157 + 843$

	1	5	7
+	8	4	3
1	0	0	0

e.  $376 + 624$

	3	7	6
+	6	2	4
1	0	0	0

f.  $782 + 218$

	7	8	2
+	2	1	8
1	0	0	0

## 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $479 + 521$

千	百	十	一
	4	7	9
+	5	2	1
1	0	0	0

b.  $242 + 758$

千	百	十	一
	2	4	2
+	7	5	8
1	0	0	0

c.  $614 + 386$

千	百	十	一
	6	1	4
+	3	8	6
1	0	0	0

d.  $826 + 174$

	8	2	6
+	1	7	4
1	0	0	0

e.  $749 + 251$

	7	4	9
+	2	5	1
1	0	0	0

f.  $684 + 316$

	6	8	4
+	3	1	6
1	0	0	0





達成の目安：

4.8 繰り上がりなし、繰り上がり1回・2回・3回の3桁までの数のたし算を解きましょう。

## 4.8 学んだことをやってみましょう

次の問題を解きましょう。

a.  $672 + 314$

	百	十	一
	6	7	2
+	3	1	4
	9	8	6

b.  $436 + 125$

	百	十	一
	4	3	6
+	1	2	5
	5	①6	1

c.  $143 + 717$

	百	十	一
	1	4	3
+	7	1	7
	8	①6	0

d.  $54 + 927$

		5	4
+	9	2	7
	9	①8	1

e.  $432 + 58$

	4	3	2
+		5	8
	4	①9	0

f.  $247 + 9$

	2	4	7
+			9
	2	①5	6

g.  $8 + 752$

			8
+	7	5	2
	7	①6	0

h.  $372 + 451$

	3	7	2
+	4	5	1
	①8	2	3

i.  $184 + 325$

	1	8	4
+	3	2	5
	①5	0	9

j.  $548 + 397$

	5	4	8
+	3	9	7
	①9	①4	5

k.  $146 + 257$

	1	4	6
+	2	5	7
	①4	①0	3

l.  $76 + 468$

		7	6
+	4	6	8
	①5	①4	4

m.  $397 + 8$

	3	9	7
+			8
	①4	①0	5

n.  $147 + 853$

	1	4	7
+	8	5	3
	1	①0	①0

ñ.  $694 + 306$

	6	9	4
+	3	0	6
	1	①0	①0

### 家で解いてみよう

次の問題を解きましょう。

a.  $427 + 31$

	百	十	一
	4	2	7
+		3	1
	4	5	8

b.  $235 + 359$

	百	十	一
	2	3	5
+	3	5	9
	5	9	4

c.  $376 + 214$

	百	十	一
	3	7	6
+	2	1	4
	5	9	0

d.  $736 + 28$

	7	3	6
+		2	8
	7	6	4

e.  $43 + 357$

		4	3
+	3	5	7
	4	0	0

f.  $8 + 357$

			8
+	3	5	7
	3	6	5

g.  $682 + 8$

	6	8	2
+			8
	6	9	0

h.  $453 + 271$

	4	5	3
+	2	7	1
	7	2	4

i.  $286 + 321$

	2	8	6
+	3	2	1
	6	0	7

j.  $687 + 169$

	6	8	7
+	1	6	9
	8	5	6

k.  $357 + 246$

	3	5	7
+	2	4	6
	6	0	3

l.  $563 + 58$

	5	6	3
+		5	8
	6	2	1

m.  $9 + 695$

			9
+	6	9	5
	7	0	4

n.  $238 + 762$

	2	3	8
+	7	6	2
	1	0	0

ñ.  $695 + 305$

	6	9	5
+	3	0	5
	1	0	0

達成の目安：

4.9 繰り上がりなし、繰り上がり1回・2回・3回の3桁までの数のたし算を解きましょう。

4.9 学んだことをやってみましょう

1. 次のたし算をして、和に応じて指定された色で絵を塗りましょう。

a. 茶色

$$357 + 421$$

	百	十	一
	3	5	7
+	4	2	1
	7	7	8

b. 黄色

$$368 + 427$$

	百	十	一
	3	6	8
+	4	2	7
	7	9	5

c. 黒

$$635 + 29$$

	百	十	一
	6	3	5
+		2	9
	6	6	4

d. オレンジ

$$526 + 193$$

	5	2	6
+	1	9	3
	7	1	9

e. 茶色

$$269 + 573$$

	2	6	9
+	5	7	3
	8	4	2

f. 黄色

$$654 + 148$$

	6	5	4
+	1	4	8
	8	0	2

g. 黄色

$$538 + 85$$

	5	3	8
+		8	5
	6	2	3

h. 白

$$792 + 9$$

	7	9	2
+			9
	8	0	1

i. 緑

$$587 + 413$$

	5	8	7
+	4	1	3
	1	0	0



次の授業の時に定規を持ってくるのを忘れないでください。



2.  $23 + 64$ と同じ結果になるたし算を囲みましょう。

a.  $23 + 84$

b.  $64 + 23$

c.  $64 + 32$

### 家で解いてみよう

1. 次のたし算をして、うさぎが家に帰る道に色付けしましょう。

a.  $654 + 43$

	百	十	一
	6	5	4
+		4	3
	6	9	7

b.  $538 + 249$

	百	十	一
	5	3	8
+	2	4	9
	7	8	7

c.  $469 + 7$

	百	十	一
	4	6	9
+			7
	4	7	6

d.  $395 + 148$

	3	9	5
+	1	4	8
	5	4	3

e.  $289 + 348$

	2	8	9
+	3	4	8
	6	3	7

f.  $585 + 217$

	5	8	5
+	2	1	7
	8	0	2

g.  $63 + 879$

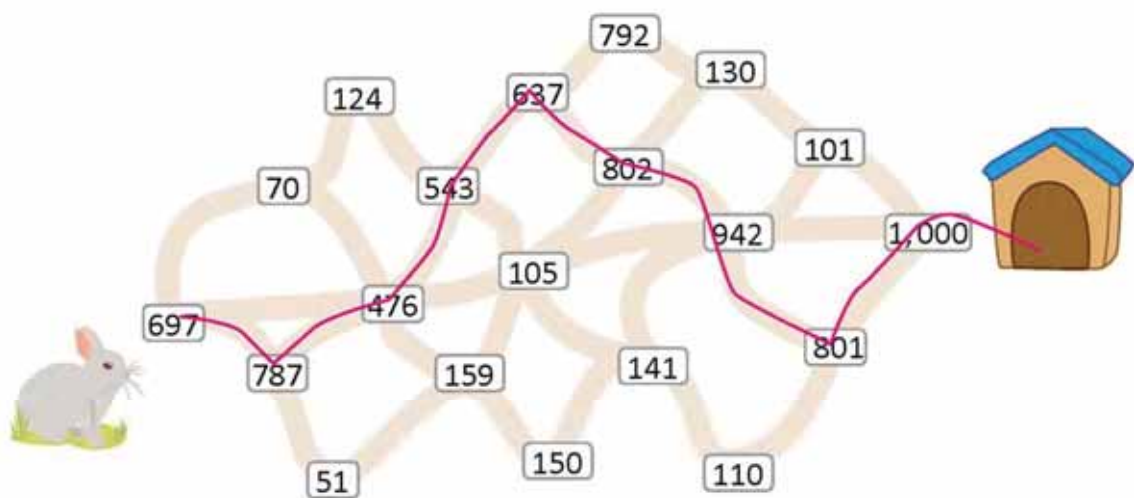
		6	3
+	8	7	9
	9	4	2

h.  $8 + 793$

			8
+	7	9	3
	8	0	1

i.  $732 + 268$

	7	3	2
+	2	6	8
	1	0	0



2.  $57 + 32$ と同じ結果になるたし算を囲みましょう。

a.  $57 + 23$

b.  $32 + 75$

c.  $32 + 57$











